

クリスチャントゥディ資料集

2018年12月27日編纂

2019年1月1日改訂第2版

twitter.com/Hokuto_Ide

nehemiaharchives.blogspot.com

目次

編纂者のブログ Nehemiah Archives の主な記事と自己紹介

北朝鮮民主化ネットワーク代表韓基弘氏による主体思想派についての解説

ニュース N ジョイの主体思想派主導事実を明らかにした一連の報道

日本基督教団とクリスチャントゥディに関する一連の報道

日本福音同盟とクリスチャントゥディに関する報道

韓国教会連合（CCIK）と大韓イエス教長老会合同福音教団に関する報道

クリスチャントゥディと救世軍の山谷真少佐の裁判判決に関する一連の報道

クリスチャントゥディにより裁判結審に際して関係各所に配布されたお知らせ

クリスチャントゥディが 2008 年に公開した信仰告白

日本福音同盟が 2004 年に関連団体に送付した FAX

世界福音同盟総主事が 2011 年に日本福音同盟の理事長と総主事に送付した書簡

韓国基督教総連合会の 2011 年の公文

韓国基督教総連合会異端似非対策委員会の 2011 年の公文

クリスチャントゥディ会社概要

クリスチャントゥディ代表挨拶

クリスチャントゥディ役員・論説委員・編集部紹介

クリスチャントゥディ基本信条

クリスチャントゥディ報道理念

クリスチャントゥディ信仰告白

Nehemiah Archives

ネヘミヤ記6章8節 「あなたはそのことを自分でかってに考え出したのだ」

2012年7月12日木曜日

ホン・ジエチョル代表会長が語る韓国基督教総連合会事態の顛末

2012年7月12日付けの韓国基督日報の記事を紹介します。原文は”홍재철 대표회장이 말하는 한기총 사태의 전말”です。<http://ny.christianitydaily.com/view.htm?code=cg&id=191289>

ホン・ジエチョル代表会長が語る韓国基督教総連合会事態の顛末 「崔三更牧師の家までのライン繋がり、韓基総が廃墟になり」



▲ホン・ジエチョル牧師が、韓基総事態の顛末を説明している。

韓国基督教総連合会ホン・ジエチョル代表会長が11日、ニュージャージー州トランストン長老教会で行われた米州韓人基督教総連合会（米基総）の総会に出席し、これまで行われた韓基総事態の顛末を伝えて関心を集めている。ホン・ジエチョル牧師はこの日、50分米基総会員に韓基総事態の核心だった韓国教会連合の誕生背景を説明し、また、韓国基督教総連合会の異端是非と関連して、この論争の発端となった原因と背景について詳細に説明した。次はホン・ジエチョル牧師のこの日の主な発言。

ここに韓基総の主要な役員が、すべて来ておられます。今日の私の声はすなわち韓基総全体の声です。7月19日に役員会と、全体の実行委員会がったので、ここであった話をそこで再び発表する上でとても重要であることを説明して申し上げたい。

崔三更牧師について

まず、崔三更牧師の件を説明を差し上げよう。韓基総、異端対策委員会を崔三更が15年したが、パイプラインを家まで接続させて、韓基総がひどい廃墟になった。だから、崔三更牧師に関連する韓基総職員を完全に追放して辞任させた。崔三更牧師に対する韓基総の立場を申し上げたい。この文書は、5大日刊紙でも発表された公式文書である。

[韓国基督教総連合会の秩序確立対策委員会の立場表明]

韓国基督教総連合会（韓基総）は、去る12月15日（木）役員会を持って、いわゆる「崔三更神学」という「三神論」と「マリア月経胎孕論」について、「深刻な異端であり、神への冒涜」という本秩序確立対策委員会（秩序委）の調査結果に出席した役員（名誉会長、共同会長、副会長）が満場一致で受けることを決意して確定した。

そこで、本秩序委では韓国教会の1200万人の聖徒と5万人の牧師の前に三神論と月経胎孕論異端思想の害悪を警戒して、いまだにそのような異端思想を悔い改めるどころか、韓基総の指導者を誹謗している崔三更牧師と彼を擁護する一部の非常識な宗教界人士に厳重に警告するため次の声明を発表する。

1. 「崔三更神学」は、極めて深刻な異端であり、神への冒涜

聖書とキリスト教の正統教義は三位一体の神と聖霊によって宿ったイエス・キリストを明確に証ししている。しかし、いわゆる「崔三更神学」という三神論とマリア月経胎孕論では、三位一体の神を、それぞれの本質を持った「三つの霊の神」すなわち三人の神だと主張しており、イエスの誕生についても、「月経なく生まれてきた言葉中にはイエスの人性が否定されてしまう」と主張している。

特に月経胎孕論の主な骨子は、「イエス・キリストがマリアの月経（血）を通って生まれた」、「イエスがマリアの月経なしに生まれたという話はマリアの肉体を借りずに生まれたという話だ」、「処女降誕はマリアがヨセフの精液によって妊娠していなかったという意味」などで、これは2千年のキリスト教の歴史上類を見ない神への冒涜とされる。「崔三更神学」は、禁断の扉を越えて、イエス・キリストの神聖性と正統キリスト教教理を毀損した。

したがって、韓国のすべての正統教会信徒はこのような「崔三更神学」に惑わされてはならず、このような主張をする者を擁護したり、交流することは、絶対にしてはならない。

2. 崔三更牧師の詭弁は、一考の価値もない

崔三更牧師は、詳細な検証と議論の手続きもなく、自分を異端と規定したと主張するが、本秩序委の役員会の委任を受けた後、彼の文章の講演など三神論・月経胎孕論のすべてのデータを調査した結果、これはとても黙過できない深刻な異端との結論が出た。

崔三更牧師はこれまで自分が異端を定罪するときにどのような方法を使用しているのかを自ら良く知っている。彼は自分が直接書いた文で「事前に当事者に会うことになればむしろ研究の純粹性が疑われる危険がある。何よりも本やテープくらい客観的な資料がどこにあるのか？問題にするなら、具体的な内容を聞いて、問題にするのが正しい。」と釈明の機会を与える必要もないとこじつけた。

しかし、本秩序委は崔三更牧師本人に弁明の機会を与えることが調査の公正性を期すものと判断し、非公開で釈明の機会を与えた。それにもかかわらず、崔牧師は、最初は自分に釈明の機会をくれと懇願したのに、後で急に態度を変えて回答を拒否し、今まで、韓基総と、この秩序委を誹謗している。さらには、韓基総キル・チャヨン代表会長に人身攻撃をし、内容証明を送り、これをマスコミに公開した。

また、統合側は、過去韓国教会を代表する牧会者である汝矣島純福音教会のチヨー・ヨンギ牧師を疑似であると規定し、解止するという非常に怪奇な事件を起こした。ところで、今度は崔三更牧師は、自分が委員長にある大韓イエス教長老会統合の異端対策委員会を利用して韓国教会の指導者であり、韓基総代表会長キル・チャヨン牧師とWCC対策委員長であり、保守系の指導者であるホン・ジエチヨ

ル牧師、さらに、同じ統合側の政治部長を務めたイ・ジョンファン牧師まで秩序委の専門委員を引き受けたという理由のために報復性異端の支持者とし規定するという笑えない寸劇を繰り広げている。崔牧師はいつまでこのように韓国の教会を混乱させるのか?今、彼は一日も早く三神論・月経胎孕論のような詐欺異端の仮面を脱いで、これ以上韓国教会の聖徒らを愚弄していないよう強く要求する。

3. チョ・ソンギ牧師と彼に追従する一部の教団総務は三神論と月経胎孕論のための独自の神学的見解をすぐに明らかにせよ

統合の事務総長チョ・ソンギ牧師は、いくつかの教団を先導して崔三更牧師の異端解除を試みているという。チョ・ソンギ牧師は12月9日午後、韓国教会百周年記念館である人々との集まりを持った後の記者会見で、13日午前、所属教団の同意もなしに、一部総務と異端対策委員長と集まつた席で崔三更牧師を庇護する発言をしたことが分かった。そのような異端の擁護行為と、それに同意した者は、今後の確認を経て、異端ないし異端の支持者として規定することを警告する。

もうチョ・ソンギ牧師と彼に追従する勢力は、これ以上後ろに隠れて、韓基総を誹謗、陰湿に攻撃するのではなく、上記の崔三更牧師の三神論と月経胎孕論の主張に同意するか速やかに公開的に立場を表明せよ。チョ・ソンギ牧師とイエ・ソンチュク総務、チエ・グイス牧師、大韓イエス教長老会合神パク・ヒョンテク牧師など、韓基総を転覆させるための会合を秘密裏に数回持っているというのに、このような行為が度を越えるなら、この際に本委員会での秩序を正すために定款によって処理することを通知する。

また、このような状況を政治的に打開しようと考えてしまい、もう何度も指摘したよう統合自体でも前職の政治部長と異端対策委員長と異端相談所長は、公式問題提起している崔三更牧師を解職して異端を厳しく処断しなければならない。そうすることで異端が異端であると区別し、宗教界の混乱と紛争を招くという不幸な汚名を脱ぎ、韓国の教会が調和と一致のために手を握って本来の使命に全力を尽くすことを要求する。

2011年12月19日

韓国キリスト教総連合会の秩序確立対策委員会

委員長キム・ヨンド牧師、書記キム・キヨンハク牧師、委員イ・スンリヨル牧師、キム・ジンチヨル牧師、ハ・テチョ長老、オム・ジョンムク牧師、カン・テグ牧師、キム・ウォンナム牧師、カン・ギウォン牧師、専門委員イ・ジョンファン牧師ほか4人

異端是非の開始について

韓教連が出てきて、韓基総の異端是非のに、なぜこんなことが発生したのか。代表会長選挙を控えて金権選挙の謀陥があった。しかし、これは裁判の過程で、相手陣営から出てきた嘘だったことが明らかになった。キル・チャヨン代表会長は、復権したし、その後に開かれた代表会長選挙で、私は255人の代議員のうち251人賛成、4人棄権で代表会長に当選した。

ところで、この前にキル・チャヨン牧師を謀陥した人々を中心にして、非常対策委が構成された。韓国教会は腐った。お金を払って選挙すると言ってキル・チャヨン牧師退陣運動を繰り広げた。ここに組織的に加担した人の中に崔三更牧師が含まれている。このときは、金権選挙無罪判決が出る前だった。そして、このときは、異端の話は出てなかった。

それなら異端の話はいつ出たのか。2014年WEA総会を韓国に誘致することにしたのがイ・ヨンギュ代表会長のときの事だ。ところがWEA七大大陸の代表が集まり、韓国での争いがあって韓国に誘致してはいけないという話が出た。もともとアフリカ大陸で、それぞれなったものだが韓国で開催することになったのだった。私が急いで収拾した。WEA側から「韓国の教会が和解できるか」と問われ私が

「できる」と言い、キル・チャヨン牧師とイ・グアンソン牧師を和解させたのだ。そして昨年9月11日10周年の時に一緒に来た。そして韓国で発足式を11月中にすることにした。

その日程を受け入れて行ってみると、その日はウォーカーヒルホテル、シェラトン、ヒルトン、ロッテなどのホテルごとに場所がなかった。期限が近づいてきたが、朝にマリオットホテルでイ・グアンソン牧師とキル・チャヨン牧師と一緒にご飯を食べているとイ・グアンソン牧師が急に提案した。キム・サムファン牧師がマリオットホテルでアガペーのイベントをたくさんするから、このホールは大きくはないが可能だと言った。だから、急いで場所を決めるようになったのだ。

礼拝をささげた後でCBSとNews N Joyが攻撃し始めた。そして崔三更牧師も攻撃し始めた。韓基総がいよいよ異端と手を結んだという主張だ。韓基総がWEAのジェフ議長に会うのに、統一協会の資金を引いて使って統一協会の建物で行事をするという主張だ。このような内容を新聞広告にまで出した。一方的にされたのだ。

だから、調査を行った、たまたま高速バスターミナルに社長をしている2年後輩がいて尋ねた。「マリオットホテルは、統一協会のか」と尋ねたところ「合っている」と言った。愕然とした。しかし、その後輩が話すには「いいえ、先輩それではこれからクリスチャンたちは、高速バスターミナルから乗ってはいけないことになります。高速バスターミナルも、文鮮明のものです。そういうことです。気が狂いそうなことです。」

ところで分かってみれば、その建物の株式の40%を統一協会が持っているということだった。元々は、その前にあった社長が株式をモルモン教に売った。マリオットという世界的なホテルチェーンに来て経営しているのだ。統一協会とは関係はなく、その高速バスターミナルの建物の40%の株式からの収益金を持って行くのだ。

だから、私たちの広告を出した。統一協会の資金が流入したという証拠を示せ。そしてあまりにも侘しきWEAを誘ったときに入った1億ウォンの出所も明らかにした。キル・チャヨン牧師の教会で1550万ウォン、イ・グアンソン牧師が1550万ウォン、私1550万ウォン、オム・シンヒョン牧師が1000万ウォン、イ・ヨンフン牧師が2000万ウォンと、私たちの共同会長が500万ウォン、200万ウォン急にお金を集めて1億ウォンを用意した。だから、ジェフ議長をはじめ、WEA関係者の板門店訪問にも一緒に歩き回って、そのままアメリカにお送りした。このような状況のとき、その時から異端という言葉がずっと出て来たということだ。

張在享牧師について

張在享牧師の教団は、韓基総が最初に作成されたときの創設メンバーに入っている教団である。張在享牧師はそこの元総会長だった。これがどのような私的な感情によるのかは分からないが、崔三更牧師と張在享牧師の戦いが始まった。だから、崔三更牧師は張在享牧師の統一協会に加入していた人士だと追求し、異端是非をした。ここで張在享牧師の異端問題が出てくるが私とは関係ないことだ。

ところが、これを7年間調査した。パク・ジョンスン牧師、イ・ヨンギュ牧師、チエ・ソンギュ牧師、キル・チャヨン牧師、オム・シンヒョン牧師、イ・グアンソン牧師このように代表会長を6代を経て、なんと7年間の戦いである。アメリカにも連絡して張在享牧師を異端に作ろうと総力を傾けた。ところで印刷物の内容を見ると、崔三更牧師が直接異端相談所長を務めながら、5時間の間対面したりした。米国の張在享牧師を呼んで直接尋問をした。

だからパク・ジョンスン牧師も嫌疑なし、イ・ヨンギュ牧師も嫌疑なし、チエ・ソンギュ牧師も嫌疑なし、キル・チャヨン牧師も嫌疑なし、イ・グアンソン牧師も嫌疑なし、オム・シンヒョン牧師も嫌疑なし。6代に渡って嫌疑なしということが延々と出たということだ。その当時の調査を誰がしたの

か。崔三更牧師が直接した。そして崔三更牧師に味方する合神のパク・ヒヨンテク牧師と異端で出てきた人々が異端対策委員会メンバーになって張在享牧師を計画的に殺そうと6年の間意図した。それにもかかわらず、日が変わって、新しい代表会長になるたびに嫌疑なしと出てくる。そして、その調査をしたのは誰だ、まさに崔三更牧師だ。キリスト教バプテストのハン・ミヨングク牧師、代わりにゴ・チャンゴン牧師などすべてが有能な人なのに、この人たちがこのまま委員長をしながら、すべて異端性がないと自ら述べた。だから、終わった。

だから、張在享牧師が「異端対策委員会委員のこれまで陥れた人々すべてを告発して、当時の代表会長ら全部を告発する」と言うからイ・グアンソン牧師が「そのようにはしないで」と言いながら、我々がすべて終わったから和解しようとして「公証をしてあげよう」と言った。だから、当時の代表会長イ・グアンソン牧師、総務キム・ウンテ牧師の名前で、異端の嫌疑がないと公証をしている。終わった。

張在享牧師は今WEA北米理事だ。全世界の7人の理事の一人である。韓基総、国際委員長にも立てられている。そのような人を崔三更牧師が一人で騒ぎながら、米国だかオーストラリアだかどこだ回つてイダン（異端、二流）であるだのサンダン（三流）だの言う。その人はイダン（異端、二流）ではない。すでに終わった。私で終わったのではなく私の先代時に代表会長6代に渡って7年の是非の最後に異端ではないと判明し、これが出たわけだ。だから私たちは一人の魂をも殺してはならない。終わったのだ。

▲この日配布された張在享牧師の韓基総、調査の過程が記録された印刷物

ビヨン・スンオ牧師について

ビヨン・スンオ牧師は異端だと決定した。今韓基総で除名をした。ところで一昨年のビヨン・スンオ牧師が異端ではないという書類を持って来た。だからキル・チャヨン牧師が全体の役員会で制動をかけて、私も制動をかけた。だから、全体の22対19で否決された。ところで、このあいだに緊急理事会が招集され、また22対19で、今回は問題ないと通過になった。この会期が終わったが、今回私が代表会長になったからだめだ。また倒さなければならたい。どうして韓基総が異端と連携したか。もういちど取って持って行き、彼の教団である白石に差し戻した。そしてこれは、異端とした。

ユ・ガヌスのタラッパンについて

合同が元の教会数は7000であり統合が4800、二番目に大きい教団が改革側6500であった。ところが、この改革の教会の4500が合同に来てしまったのだ。すると、光州を中心とした湖南出身の改革の牧師らが教勢が減って大きくかかわっていた。その首長がジョ・キヨンデ牧師であった。合同には一日の朝に1万2000の教会ができ、そこは2000教会小さくなつた。そんなに小さく見えるからまた1000教会が抜けて、群小教団になった。ところがちょうどユ・ガヌスが入ったからといってジョ・キヨンデ牧師が受け入れようとした。ところが役員会で歯止めがかかった。だめだということだ。だから、ジョ・キヨンデ牧師が提案した。伝道総会を解体させろということだ。個人的に来たら受け入れてあげようということだ。その人たちもともと統合、高神、合同の大きな神学校を出した人々である。ずいぶん長い間、70年、80年に教会が復興に苦闘する時ユ・ガヌスが伝道の秘訣を教えてくれたといえどもそこに付いて行った人々である。そうしてみるとユ・ガヌスに従っていた人々が個人的に改革教団に入ってきて、韓基総に陳情書が寄せられた。韓基総が整理をした。ジョ・キヨンデ牧師に指示をした。ユ・ガヌスを受け入れれば、あなたも異端であるとした。秩序対策委員会がこの仕事をしておりここ役員団に来た証人もいる。最初は改革側が韓基総創立教団なのにこんなことがあるのかと言つたが、私は非常に強力に出た。公文書を送った。そして韓基総に再回答が来た。韓国教会の意見を取りまとめることであるからユ・ガヌスの決定を下す9月の総会まで待ってくれというのだ。結局これも

すべてハプニングである。終わった問題だ。しかし、変な話をするのだが誰が変な雰囲気を作っているのかがわからない。

よく分からなければならないことはタラッパンというものを改革側が受け入れたことがないということだ。もしタラッパンという教団を受け入れた場合は、韓基総で相当な問題を改革側に提起することだ。ところがタラッパンというところを受け入れたことがなく、その教団の議事録を見れば、その問題に甲論乙駁してからタラッパンを受け入れることはできないと判断し、ちょうどそこにある牧師たちが正統教義を持って勉強したので個人的には受け入れることがあっても、改新大学で1年間の再教育を受ける条件で受け入れたということだ。だから、その人が1年間の再教育をも受けた。私はユ・ガヌスについては、今日のこの時間も話をする。しかし、そこに所属する多くの牧師たちが改革側の教団の神学校で再調査をして終わった。合同教団の中にも異端の核心メンバーが、我々の教団に来て教育を受けて、私たちの教団の異端対策委員会員として活動している。

そして最近行われた市庁前の国民大会で伝道総会が動員されたという人がいてユ・ガヌスが視務する教会からは一人も来なかった。改革側の総会は、4000人が自分の教団から来たという。私たちが見るのは2000人ほど来た。ところでユ・ガヌスが視務する教会は来なかった。そして5万人が集まった所で調査をして君はどこ来たのかと、いちいち調査することは非常識なことだ。そしてそれは国民大会であった。国を守る国民大会なので、カトリックの神父も人々を送って曹溪宗（仏教）からも人を送った。そこはすべての国を守る国民大会だ。そこには、枯葉剤被害者連盟、在郷軍人会、多くの愛国団体が来るのだから、その人々の宗教はキリスト教ではない。ごまんとある宗教がすべているということだ。それは、全体が集まる国民大会なのに、その問題を提起すること自体が韓国教会を陰湿に攻撃することだ。その話をいったい誰が送ったかというのだ。その問題を送信した主体が誰なのか。絶対に籠絡されてはならない。そんな話を聞いてアメリカ総会のあちこちに言っているから、アメリカの総会の人々がこんがらがった。

今後の異端対策について

今回我々は、高神、合同、統合、アッセンブリーズ・オブ・ゴッド、白石など、正式な神学大学がある教団の神学者で神学委員会を構成した。これまでの異端対策委員会だった人はすべて省いた。申し訳ないが、今まで韓国の教会の異端対策委員会だという人自体が問題が多くかった。自身に問題が多く、風土がそうだった。私はとすると、皆さん、私心はない。誰側につくでもなく、聖靈様の側だ。そして崔三更牧師とも全く関係がない。崔三更牧師を政治的に殺さなければならない理由が毛頭ない。ただ、今まで韓国の教会を乱して複雑にしたこの事件を代表会長として、どのように解決するか心配だ。どんなに間違った人でも大統領になれば愛国者になるという話があるが私が代表会長となつたのだからどうすれば韓国の教会の地位を高めようか悩んで、これまでの異端対策委員をすべて外した。韓国教会に神学者たちがいないのか。異端対策委員会委員の人々がいつまでも異端鑑別の役割をするべきなのか。全部辞めさせよう。それが71の教団の総会長たちが異口同音にする話だ。今回は本当に神学者たち35人を構成したが一人として私の知っている人がいない。すべて総長を通じて推薦を受けた神学者である。その35人にここに来る直前に任命状を送った。その人たちがこれから異端の問題を研究することで、そして私が代表会長に申し上げたが、アメリカの総会でも神学者たちを選抜してください、異端対策委員会委員たちはだめだ、と。申し訳ないが、アメリカの異端対策委員会委員たちが韓国の異端対策委員会隊員たちと行ったり来たりしている。これは主の国、神の国のためにもので、我々は韓国の異端対策委員の手先ではない。本当に神の国のために神学校教授のすばらしい方々を推薦して韓国の神学者たち、アメリカの神学者たちの交流をして、何か一つの合意点が出なければならない。

Nehemiah Archives

ネヘミヤ記6章8節 「あなたはそのことを自分でかつてに考え出したのだ」

自己紹介

僕を知ってる人は僕が「元クリスチャントゥデイ記者」とだけ名乗って戦っている姿ばかり見てるので、一体あなた平時は何してる人なの?という質問がいつか来るだろうと思っていたのですが、来ないので自分で先に答えておこうと思いました。

僕の教団名、教派名を呼ぶ場合はオリベット・アッセンブリーと呼んでください。正式名称はワールド・オリベット・アッセンブリー（略称WOA）です。教団の信仰は南部バプテストとアッセンブリーズ・オブ・ゴッドを足して2で割ったくらいの福音派で成立の経緯と教会員それぞれの関係はモラヴィア兄弟団の歩みに類似しています。またアーミッシュのように教団外部社会への依存をできるだけ減らしつつ相互扶助をしますが、アーミッシュと違って最先端の技術を積極的に宣教のために用い、外部の福音派の諸教派と積極的に宣教協力をし、「宣教支援のために他教派に仕える」ことを是としています。また、WOAは救世軍の万国本営やカトリックのバチカンのような世界本部の機能を持ち、世界宣教のために各国の教団の支援を行っています。しかし上から指示する本部であるよりは、下から支持する本部の要素をもっと重視する本部です。WOAは世界福音同盟（WEA）にグローバルパートナーとして加盟しています。

（<http://www.world evangelicals.org/members/globalpartners.htm>）僕が所属する教会はWOAに属する米国の教団であるオリベット・アッセンブリーUSAに属しています。政治形態は長老政治で、大会、中会、小会に教区を分けて長老を任命し、教団、教会を運営しています。また、ローザンヌ運動との関係は故ラルフ・D・ウィンター教授がWOAの張在亨牧師のメンターであったことからウィンター教授の機関である世界宣教米国センター（US Center for World Mission、現在はFrontier Venturesに改名）とWOAは世界宣教の戦略、支援などの働きにおいて協力関係にあります。

オリベット大学（略称、OU）は張在亨牧師がアメリカで設立したオリベット・アッセンブリーの教派神学校であるオリベット大学神学部・神学校（Olivet Theological College and Seminary）を含む、福音派の総合大学ですが、教授陣はオリベット・アッセンブリー以外にも南部バプテストやメノナイトの神学者を含んでいます。

特色は情報工学、経営学、グラフィックデザイン、ジャーナリズム学、音楽などの各学科が伝道第一主義の福音派のキリスト教団体もしくは、福音派クリスチャンが所有し、教会やキリスト教団体に製品やサービス、献金をする福音主義者の経営者が所有する企業で活躍するためのプロフェッショナルな人材育成のためにカリキュラム編成がなされたものだという点です。神学科を卒業した者は牧師、伝道師、宣教師などのフルタイムの献身者になりますが、他の学科の卒業者も教会、宣教団体、キリスト教系企業などでフルタイムの献身者になることを前提に入学します。なので基本的には卒業生全員、特定分野の専門家やプロフェッショナルであると同時にキリスト教宣教のためのフルタイムの献身者です。

僕は国際基督教大学（ICU）の理学科で物理学と計算機科学を専攻しつつ、キリスト教概論、旧約聖書、ヘブル語を並木浩一教授に学び、新約聖書を永田竹司教授に学び、科学哲学、科学史を村上陽一郎教授に学び、教養学学士で卒業しました。オリベット大学の通信課程で神学学士（B.A. in Theology）を取得。ICU卒業後アメリカに留学し、同大学の神学修士課程に入り、その後、情報工学修士課程に転科し、工学部（Olivet Institute of Technology、<http://oit.olivetuniversity.edu>）の情報工学修士（M.A in Information Technology）で卒業しました。その後神学修士（Master of Divinity）の取得に欠けていた単位を取ることを条件に博士課程に進み、現在OUで情報工学と教会論の学際研究をしています。現在の僕の指導教授はWilliam Mark Wagner教授です。他の教授陣からも指導を受けています。

<https://otcs.olivetuniversity.edu/academics/facultylist.html>

僕の個人的な関心分野は神学（教会論）、情報工学、ジャーナリズム学、教育学の4分野が交差する学際領域ですが、キリスト教世界宣教の戦略策定における世界レベル、国レベル、都市レベル別の教会成長、宣教の進歩の可視化などを目的としたキリスト教データジャーナリズム（

https://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/58/3/58_166/_html/-char/ja）という分野を開拓する際に、以下の論文のような技術を応用できるほどの次世代のキリスト教データジャーナリストを育成するために必要な大学院レベルのカリキュラム構成、卒業後のOn the Job Trainingの訓練課程を開発することなどが具体的な関心事の一つです。<http://www.cs.cmu.edu/~pavlo/courses/fall2013/static/papers/11730-atc13-bronson.pdf> 同様の学際領域としては「キリスト教報道機関に特化したサイバーセキュリティー技術者の育成」「異なるキリスト教報道機関同士の安全かつ効率的な情報共有システムの開発者訓練プログラム」などがあり、このようなものも僕の関心事です。

もっと碎けて言うと、世界宣教がどれくらい進んでて、どういう人材をどこのどういう団体に送ったら一番うまく行くの？そういう情報をどうやって集め、ニュースとして加工して報じればいいの？そういう情報を扱う記者は何百個ものコンピューターに仕事をやらせる人じゃないといけないよね。けど、そういう記者を育てる先生たちはどういうふうに生徒を学ばせ、訓練したらいいの？そしてその人達が学校出た後に、素人からベテランに育てるにはどう鍛えたらいいの？新聞運営のデジタルな仕組み作りをする技術屋さんを育てるにはどうすればいいの？という問い合わせへの答えを探す研究をし、得た知恵で仲間の仕事場をより良く変えていき、若い人を育てることを生きがいとしています。

でもなんで？と聞かれるかもしれません。故ラルフ・D・ウィンター博士は米国世界宣教センターの働きをする中で世界宣教の戦略づくりに役立つ統計を作るのが夢だったそうです。ウィンター教授がメンターをした張在亨教授はこの夢を受け継ぎ、オリベット大学を設立したときには他学部に加えて情報工学部とジャーナリズム学部を創設し、教授陣を揃え、福音宣教のためのIT教育と記者教育をはじめました。その教育機関の苗床に僕は蒔かれ、今の自分に育ててもらい、同じ夢を共有し、ウィンター教授や張教授のように次世代の福音宣教に奉仕するプロフェッショナルの育成に人生を尽くしたい。これがこの分野に僕が関心を持つ理由です。

[ホーム](#)

[ウェブ バージョンを表示](#)

Powered by [Blogger](#).

Nehemiah Archives

ネヘミヤ記6章8節 「あなたはそのことを自分でかつてに考え出したのだ」

2018年12月2日日曜日

異端審問

僕のTwitterのプロフィール文は以前Reporter of Christian Todayでした。記者を辞めてからは単にChristianにしました。「自分は誰か?」「自己紹介するならどう紹介するか?」結局自分はクリスチャンだということ。これが言いたいのです。

国際基督教大学の第一男子寮にはいくつか伝統がありましたが、その一つに彼女ができた疑いが生じた寮生をソーシャルルーム(居間)の真ん中に立たせ、他の寮生が根掘り葉掘り馴れ初めの話を聞き出し、本当に恋人関係がしっかりしているのか、騙されただけではないのかなど聞き出す会、通称「異端審問」がありました。毎日ともに過ごす寮生活で実の兄弟よりも兄弟らしい親しい寮生同士の関係を彼女が奪っていくものだから寮の秩序を脅かすもの、寮の人間関係に対する裏切りのようなものという意味で面白おかしく異端と呼んでいたのかもしれません。

僕がイエス・キリストを自分の救い主として受け入れ喜んで寮に帰ってきたとき、あまりに上機嫌なので彼女ができたわけでもないのに「異端審問」にかけられました。寮生でもクリスチャンは数人しかおらず、ほとんどはノンクリスチヤン。その親密さよりもっとイエス様と親密になったように見えたのか、次々にできたての僕の信仰を揺るがそうとする質問をされました。一つ一つ、ノンクリスチヤンがキリスト教について抱く疑問や、僕がクリスチヤンに今ならなくてもいい説などに対して弁論していました。にわかクリスチヤンですぐ棄教するのではないか。十字軍はどうなのか?僕がクリスチヤンにならないよう諦めさせようとしていろいろなことを言わされました。その都度自分がなぜクリスチヤンになったのか、言葉足らずにも説明しました。いくつ質問があったのか覚えていませんが夢中で答えていました。最終的に先輩たちが折れて「わかった。お前がそこまで信じるなら認めるよ。お前はクリスチヤンだ。」と言われました。自分にとっては家族のように大事な寮の先輩、同輩、後輩たちに自分が得た救い、希望、喜びを証する「異端審問」になりました。

寮のみんなに自分をクリスチヤンだと認めてもらったとき、本当に嬉しかったです。僕にとって大事な人たちが、自分にできた大事な信仰を、尊重し大事に扱ってくれたからです。この体験は僕の原体験となつて今自分がクリスチヤンであると名乗る原動力を与え続けています。

寮生のお遊びだった異端審問は一晩で終わりましたが、その後実際に始まった異端審問は14年継続し、まだ終わる気配を見せません。僕の人生のもうすぐ半分になるクリスチヤン人生は2004年から2018年の今までずっと異端審問の人生でした。根田祥一氏を始めとする問題提起者らは僕をクリスチヤンを装い、日本のすべてのクリスチヤンを騙して自分をクリスチヤンであるかのように見せかけようとしている「異端信徒」であると公言し、政治的根回しやキリスト教言論の濫用によって日本のあらゆる教団・教派に属するクリスチヤンが僕を含めたクリスチヤンの群れを、「クリスチヤンとは認めない」ように画策し、活動しています。問題提起者は僕が公に名前を出してクリスチヤンと名乗るのをどうしても潰そうとして、「あれは異端だ」と吹聴して回っています。

僕の答えは同じです。「僕は神様を信じず、むしろいないと思って神様に敵対する人生を歩んでいたにもかかわらず、神様は独り子であるイエス・キリストをこの世に使わしてくださり、イエス様は僕の罪のために十字架にかかるて死んでくださり、三日目に復活され、神様の右の座につかれました。これを僕は受け入れ、救われた。だから僕は誰がなんと言おうがクリスチヤンです。」

杖を持ち上げる、川に足を踏み込む、城の周りをぐるぐる回る、石5個拾ってそのうち1個投げる。。。人間にできることってそういうことですよね。けど神様がなんとかしてくれるって信じてできることをできるだけやった。僕はできるだけ書いて投稿する。神様が人の心に働きかけてくださることを信じて。

共有

0 件のコメント:

[コメントを投稿](#)



[ホーム](#)



[ウェブ バージョンを表示](#)

Powered by [Blogger](#).

Nehemiah Archives

ネヘミヤ記6章8節 「あなたはそのことを自分でかつてに考え出したのだ」

2018年12月7日金曜日

クリスチャントゥディ異端捏造問題

根田祥一氏は僕との対話の中で「あなたが『根田捏造説』の発信元だったという事実を否定しないんですか？できませんよね、証拠を握っているんですから。そうやって恥の上塗りしていると、自分の吐いた唾が自分に降りかかってきますよ。」と述べました。

論理も理性も感じられない感情的でその場の思いつきで出たような言葉ですが、根田氏のこの言葉への応答を準備する中で一つ考えさせられました。

人は自分の口から出した裁きの言葉によって裁かれる。この言葉は2000年前のそのとき、パレスチナの地でなされたイエス様の発言の記録に留まることなく、今の時代この場所で実際に神様の起こす出来事を通して神様の言葉が生きていることを証明する神様の力そのものなのだと。

『根田捏造説』よりはむしろ『ニュースNジョイ捏造情報根田輸入事実』と呼ぶほうが正確でしょうがどちらにせよ、初耳の人には背景を含めて最初からきちんと説明する必要があると思い、皆さんの理解の助けになるかと思い以下の文を書くことにしました。

1. エレベーター

2004年6月、僕がまだクリスチャンになる少し前の出来事ですが。当時日本福音同盟（JEA）の事務所とクリスチャン新聞の事務所は御茶ノ水クリスチャンセンターのエレベーターに乗れば行ったり来たりできる距離でした。2004年当時クリスチャン新聞の編集長は根田氏です。根田氏はエレベーターに乗りさえすればJEAの事務所に行き、他の人がいない時を見計らって当時の総主事に自分が「調査した」と称する「資料」なるものを見せに行くことが容易にできる状況でした。当時JEAは「いち報道機関として活動を始めた『クリスチャントゥディ』に関して、さまざまな問い合わせ」を受けており、どういう意思決定プロセスに基づいてかは不明ですが、クリスチャントゥディについて根田氏が編集長を務める「クリスチャン新聞が」調査することになりました。

JEAの正式な意思決定プロセスである理事会で、クリスチャントゥディについて調査することを論議し、「意思決定者である理事全員の意見を反映させた上で」調査に踏み切ったのでしょうか？それとも根田氏がJEAの事務所にエレベーターで行って総主事や他の少数の実務者や理事と二人で会話して調査するかしないか、調査するとしたらどのような手法で調査するのかを理事会を通さずに「勝手に決めてしまった」のでしょうか？

2. 「編集権」と「公然面」

根田祥一氏が編集権を持ち、報道対象の取捨選択をする権限を持っていた2004年当時、根田祥一氏が何度も選んだ報道対象が、そして好意的にその活動を報道してきたのが西川重則氏です。西川氏は百万人署名運動の事務局長であり、百万人署名運動は革命的共産主義者同盟全国委員会（中核派）が主導する大衆運動であると警察白書に何年にも渡って繰り返し記述されています。

また、西川氏は中核派の労働組合である国鉄千葉労働組合（動労千葉）の集会で連帯のメッセージを伝え、中核派の擁立した政治家である北島邦彦氏や齋藤郁真氏の選挙応援ポスターに顔と名前と肩書を出して連帯を表明し、中核派の機関紙である前進が看板のように活動を伝える人物です。

前進に記述された西川氏の活動や発言には、無神論の共産主義者に対して神の存在を説き、神はいないなどと主張して神を冒涜する罪を指摘し、無神論を捨てて神に立ち返り、イエス・キリストを信じて救われるようクリスチャンとして彼らにメッセージする姿はありません。もちろん前進が報じていないだけで舞台裏ではそのように西川氏が共産主義者を伝道している可能性もありますし、僕はそうあってほしいと願っています。

これら表面に現れる西川氏の行動は西川氏がクリスチャンを名乗りつつも同時に中核派の核心メンバーとして「公然面」で活動する活動家であることを示しています。警察白書などによると中核派は「非公然面」と「公然面」に組織が大別され、「非公然面」は爆弾、ロケット弾、人を殺傷し、物や建物を破壊するための凶器や武器を秘密裏に製造し、数十年に渡って日本国内でテロ、暗殺、放火、爆発事件などを繰り返して行っており、警察はローラー作戦で非公然アジトを摘発し、殺人犯の指名手配をして捜査、逮捕するなどを入れて毎年対処しています。

中核派は暴力革命を通して日本国内で革命戦争を起こし、戦争で多くの人を殺してでも共産主義革命を達成させることを公に方針として掲げています。

「武器を作り、人を殺し、革命戦争を起こそうとする」という「非公然面」の正体を隠して「公然面」では「戦争反対の平和主義者」を名乗り、戦争に反対するなどの大義名分を掲げて大衆運動を通してできるだけ多くの支持者を得てあわよくば「オルグ」して活動家として取り込む、これが西川氏が事務局長を務める百万人署名運動の実態です。

根田祥一氏はこの西川氏の活動があたかも正義であり、クリスチャン新聞の読者が西川氏の「平和主義者」としての活動を肯定すべきであるかのような印象を与える記事を繰り返し流布してきました。

中核派が百万人署名運動を主導していることを知った上でこのような報道方針を探ったのなら、根田氏はクリスチャン新聞というキリスト教メディアを濫用してキリスト教界を扇動し、クリスチャン世論を無神論の共産主義者の活動に迎合させ、キリスト教界にシンパを大量生産する活動を意図的に行っていたことになります。

もちろん「私は中核派が百万人署名運動を主導していることは知らなかった。私は平和主義者だから彼らの暴力革命路線に知らずにも加担してしまった罪を謝罪し、悔い改める。今までの好意的な記事はすべて取り消し、今後は彼らの目指す革命戦争という人殺し行為に積極的に反対を表明する」と根田氏が表明し、これを実行に移すなら根田氏は自分が「本当に」クリスチャンの平和主義者であることをキリスト教界示すことができるでしょうし、そうあってほしいと僕は願っています。

3. 敵を愛せよ

根田氏も西川氏もクリスチャンであると僕は信じたいですし、「彼らがクリスチャンを装った極左活動家である」と断言するつもりはありません。彼らが「私はクリスチャンです」と信仰告白をすれば僕は証拠など要求せずに受け入れます。根田氏は僕の信仰告白を嘘呼ばわりし、僕を「クリスチャンを装った異端信徒」だと公に断言して日本中のクリスチャンの前で僕を中傷し、僕の信仰を踏みにじっていますが、僕の信じ、従おうとするイエス様は聖書を通して語りかけてくださいます「それでもあなたの敵を愛せよ」と。

だから根田氏が「私はクリスチャンです」という時、根田氏のように「それは嘘でしょう」とは言わず、「わかりました。信じます」と言いたいのです。根田氏という敵を愛するためにすんで騙される者でいることに甘んじようと思います。「あなたはクリスチャンを自称してキリスト教メディアを濫用し、クリスチャンを自分の政治的イデオロギーに染めるために扇動する活動家だ」と、言うのには十分と思えるほどの状況証拠がありますが、それを言うのをぐっとこらえて忍耐するのが愛であり、復讐を神様に任せることなのかもしれません。

根田氏のように裁きの座に自ら座って断罪する者にならぬよう気をつけ、根田氏が冷静に自分を見つめ直す手助けをしていきたいと思います。

4. 死刑判決

発行したばかりのクリスチャントゥディは非常に保守的な論陣を張っており、明らかに根田氏の作る紙面とは政治的イデオロギーにおいて対立するものでした。万が一根田氏編集方針がキリスト教界を共産主義者の活動に迎合させ、共産主義者の社会運動にキリスト者を駆り立てるために扇動することであれば、クリスチャントゥディはその目的を真っ向から否定する働きになります。

当然邪魔な存在、消えてなくなつてほしい存在、どんな手段を使っても抹殺すべき存在になるでしょう。福音主義のキリスト教界の広告収入のパイの取り分が減るというのもCTに敵対する理由の一つになりうるでしょうが、政治的イデオロギーのほうがもっと根源的な動機である可能性もあります。根田氏の内心のことなので知りようありませんが、状況証拠や根田氏の報道方針、活動、発言の論理的帰結としては妥当ではないかと思います。

このように2004年の時点でクリスチャントゥディとクリスチャン新聞は同じ福音派を軸足をとったキリスト教メディア同士ではあっても、政治的イデオロギーにおいては互いの存在を決して受け入れることができないほど深刻な利害対立関係にあった可能性があることがわかります。つまり、JEAは殺すか殺されるかの利害対立にあるクリスチャン新聞に、「クリスチャントゥディとは何か」を説明させる権限を与えたのです。

「クリスチャントゥディは言語非道の悪でありキリスト教界から抹殺されて当然」と言わしめる権限です。JEAは福音派のほぼすべての教団が加盟する連合組織であり、事実上日本の福音派教会の最高権威、カトリックでいうバチカンのようなものです。そのJEAの権威によって根田氏が編集長を務めるクリスチャン新聞はクリスチャントゥディを電気椅子に拘束させてもらい、まんまと電気椅子のスイッチをもらうことに成功し、いつでも死刑宣告と死刑執行をする許可を得たことになります。まるで「こっちが判決文をチェックすることはないから、あなたが自由に書いていいよ」とでも言わされたかのよう。

その死刑宣告の判決文がこれです。

日本福音同盟 Japan Evangelical Association
101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル内
TEL 03-3295-1765 FAX 03-3295-1933 E-mail office@jeanet.org

2004年6月17日

JEA加盟団体各位

JEA協力団体各位

主の御名を賛美いたします。

最近、いち報道機関として活動を始めた『クリスチャントゥディ』に関して、さまざまな問い合わせが皆さまからございました。数ヶ月間、調査結果を待っていましたが、一昨日、韓国の新聞社「韓国基督公報」を通じて次の内容の事が明らかになりました。

記

韓国クリスチャントゥディ新聞の常任理事、張在炯牧師は、統一協会の核心メンバーであることが判明。このことについての記事が韓国のオンライン新聞であるNews N Joyに出ている。基督公報の取材によれば、海外ネットワークとして日本と中国に力を入れているらしい。張在炯牧師は現在合同福音教団の総会長ですが、韓国基督教総連合会から異端として調査中である。

(クリスチャン新聞提供)

上記の調査報告を深刻に受けとめ、JEAは今後、『クリスチャントゥディ』の取材を一切受けないことをいたしました。その事を関係者の皆様にご報告いたします。

主にありて

理事長 小川国光

総主事 具志堅聖

市民「死刑判決を下す前に裁判しましたか？」
権威「しました。」

市民「いつどこに来なさい、裁判であなたの言い分を聞くから、と私に通知してから裁判をしましたか？」

権威「してません。あなたを裁判に呼ばないで勝手に欠席裁判をしました。あなたの言い分は元々聞く気がありませんし、あなたに反論の機会を与えて議論になれば都合が悪く、最悪議論に負けるので、あなたを裁判に呼ばないで死刑判決を出しました。」

市民「検察は誰ですか？誰が私の罪を調べたのですか？」
権威「私です。」

市民「裁判官は誰ですか？誰が検察の訴えを聞いて罪状を判断し、判決文を書くのですか？」

権威「それも私です。」

市民「誰がそんなことをする権限をあなたに与えたのですか？」
権威「私の人脈の一人である最高権威の要職にある人です。」

市民「正規の意思決定プロセスを通してそのような権限を得たのですか？」

権威「いいえ。そんなプロセスを経て意思決定者の誰かが公正な裁判をするように言い出したら、あなたに死刑判決を出せないじゃないですか。私の目的は裁判で正義を保証することじゃなくて、ただ利害対立にあるあなたを殺す名分として死刑判決を出すことなんですよ。わかったらさっさと死んでください。」

北朝鮮における常識的な市民と権威の関係はこういうものなのでしょう。しかし、残念ながら2004年の福音派でもこのようなことがあった可能性があります。クリスチャントゥディを裁く権限を得た根田氏率いるクリスチャン新聞が、当時JEAの理事であった峯野牧師から理事会で反対されることなく上記の文章をFAXで加盟団体である福音派の各教団と、協力団体に送り、聖なる公同の教会の一部として活動を始めようとするクリスチャントゥディを、その体から切り離して壊死させようとした、という可能性です。臓器を体から切り取って捨てたらどうなります？腐って死ぬだけでしょう。クリスチャントゥディをキリスト教界において、キリスト教社会において、社会的に殺したかったらすべての教会との関係を断絶させればよいということです。

5. 根田氏とニュースNジョイ

根田氏が率いるクリスチャン新聞がJEAから調査権を得てJEAに提供した情報元が自称福音主義キリスト教メディアNews N Joy（ニュースNジョイ）でした。奇しくもちょうど昨日、2018年12月5日に韓国クリスチャントゥディがニュースNジョイが金日成主義者によって運営されていたことを示す多数の証拠とともに報道されました。（<https://www.christiantoday.co.jp/articles/26310/20181205/newsnjoy-north-korea.htm>）

日本ではカトリック信徒有志による「教会の政治的言動を憂慮する会」が日本カトリック正義と平和協議会がどのような活動をどのような団体とともにやってきたかをできるかぎり網羅的に示した調査結果を公開しています。根田氏がクリスチャン新聞で報じてきた政治的イベントにはJEA社会委員会、日本キリスト教会靖国神社問題委員会、日本キリスト改革派教会大会社会問題委員会（西川重則氏の所属教団）とともに日本カトリック正義と平和協議会が頻繁に主催団体や協賛団体として名を連ねており、好意的に報道されています。日本カトリック正義と平和協議会の人脈リストに主体思想日朝友好代表団副団長岡部淳氏、日本教職員チュチエ思想研究連絡協議会全国事務局長であり、金日成誕生を記念する「4月の春の集い」準備委員会の大石忠雄氏、首相に北朝鮮への緊急支援要請をしたかながわ朝鮮問題研究ネットワークの廣瀬禮子氏、チュチエ思想国際研究所理事の武者小路公秀氏など北朝鮮と深い関係の活動家が列挙されている事実も見逃せません。（http://untijpj.la.coocan.jp/yamanouchi/jpj-yamanouchifile_03.html）

韓国クリスチャントゥディと対立関係にあり、互いの生死を賭けた報道合戦を繰り広げるニュースNジョイと根田氏が手を取るのは当然かもしれません、今後根田氏は日本のキリスト教界に対して、キリスト教の中心教理である神様の存在を否定し、革命戦争を掲げる中核派への態度や、無実のクリスチャンを信仰を理由に投獄し、苛烈な人権侵害を続け、大量に殺害している北朝鮮に対する態度を説明する責任に追われる事になるでしょう。その北朝鮮の出先機関である韓国の主体思想派が運営するニュースNジョイと最初から手を取り合ってクリスチャントゥディを抹殺しようとしたという非難にもなんらかの説得力をもつて弁明していかなければならなくなりました。

6. 社会的な唾

根田祥一氏はニュースNジョイの情報を口に含み、クリスチャントゥディに死刑判決の唾を吐いてキリスト教界から抹殺しようとしたのですが、今回ニュースNジョイがキリスト教メディアを装った金日成主義者の扇動機関であることが判明したことによって、同じ唾が、彼がJEAを利用して福音派のすべての教団に送付させた「ニュースNジョイを典拠とする」FAXが、逃げようのない証拠、すでに多方面に撒き散らした汚い唾として、自分に降り掛かっている様子を私達は今見ています。その唾は全国津々浦々の教会の掲示板に、牧師の書斎に、教団事務所の壁に汚くこびりついており、これがあまりに広範囲に付着しているため、今更拭ってなかつことにはできません。

ニュースNジョイの言葉を利用し、自分の言葉としてクリスチャントゥディや張在亨牧師を裁いたが、行為と同じ言葉によって自分が裁かれています。そのJEA名義の文章には張在亨牧師が「統一協会の核心メンバー」であることが判明などと書いておき、韓国基督教総連合会（CCK）の調査結果が出てこれを否定されると、統一協会と類似の自称再臨主異端だと言葉を変え、CCKの再調査でそれも否定され、結局証拠を示すとともに口だけで自分の支援した裁判は敗訴し、福音派で身動きが取れなくなると日本基督教団の斎藤牧師と結託して教団議長に影響力を行使して似たような死刑判決を出させ、持てる人脈の限りを尽くしてクリスチャントゥディの排斥のために活動した結果どうなりましたか？

あなたが理想的なキリスト教指導者かのようなイメージを描こうとクリスチャン新聞の紙面に映し出した西川重則氏は「中核派の核心メンバー」である疑いが出てきており、あなたと共に闘うニュースNジョイは主体思想派であることが明らかになった。

根田さん、あなたこれからどうします？自分の間違を認めてクリスチャントゥディに謝罪し、日本全国教会行脚でもしてあなたがJEAを利用して撒いたFAXを1枚1枚回収してニュースNジョイと協力した事実を牧師やクリスチャンらに謝罪して回りますか？自分のしてきたことをそろそろ客観的に振り返って見てください。自分の良心に照らし合わせてどうすれば神様の前に正しく映るか考えて見る時期が来たのではないか？

7. これを読んでるクリスチャンの皆さんへ

「でも、クリスチャンなのに根田さんがそんな酷いことをするとは考えられません。根田さんは私にこんないいことやあんないいことをしてくれました。根田さんがそんな悪いことをするとは信じられません。」

そうですね。それが人脈の力です。それが村社会の力であり、村八分の恐怖であり、「人から来る恐怖」でしょう。私はあの人に知っているが、この人は知らない。知っている人が言うことを聞いておこう。あの人は知名度があるし、多くの人が尊敬している。知っているあの人とこれまで築いた人間関係を犠牲にしてまでこの人の関係をスタートさせるのは損だ。この人とは関わらないようにしよう。この人の言うことは合ってるかもしれないし、正義を伝えてるかもしれないが、この人と私の間には人間関係がない。この人が死のうが生きようが私の得にもならないし、損にもならない。

それなら「私の知っているあの人と私の関係」を、「その人脈から私が将来得ることのできる利益」を守るために、「私の知らないこの人」が悪いと言われているから、死ねと言われているから、それが正しいかどうかは考えるのは止めて、死なせておこう。この人を犠牲にしても誰も何も私に言ってこないのだし、私の得になる人間関係を安泰に守っておこう。私の知ってるあの人はどうしてもこの人を殺そうとし

ているから、邪魔すると自分もあの人に殺されるかもしれないしね。

それも一つの選択でしょう。「行動をしない」ことも立派な意思決定ですし、あなたには自由意志があります。「こういう状況だからしようがない」「これしか選択肢がない」のではなく、あなたが自分で「しない」と決めるのです。僕はその「選択」をどうこう言う立場にありませんし、尊重します。それでオリベット・アッセンブリーやクリストゥディが安易に死ぬわけでもありませんから。

自分の命を惜しみ、これを保とうとする者はこれを失い、自分の命を憎みそれを失うものはこれを得る。命を与えたる失わせたりする最終的な意思決定者は、死んだ者すら蘇らせ、石からもアブラハムの子孫を起こすことがおきになります。

これを読んでいるあなたは今「人を恐れるのか、それとも神を畏れるのか。」を試されているのかもしれません。

共有

0 件のコメント:

[コメントを投稿](#)



ホーム



[ウェブ バージョンを表示](#)

Powered by [Blogger](#).

Nehemiah Archives

ネヘミヤ記6章8節 「あなたはそのことを自分でかつてに考え出したのだ」

2018年12月10日月曜日

韓国CTとニュースNジョイの因縁

一見関係のない2つの別々の問題に見える「クリスチャントゥディを異端に仕立て上げてキリスト教界から抹殺しよう」という問題と、「ニュースNジョイは主体思想派のキリスト教弱体化工作のための扇動組織である」という問題。最初は何がきっかけだったのか?っていうところを見ると、つながってくるものがあります。

1. 宗教マフィア

大韓イエス教長老会統合教団の崔三更牧師という自称異端専門家、異端鑑別師を名乗る人が3人の同種の人たちと韓国の様々な教会を訪れて「あなたの教会を守るために異端対策をしてあげよう。だから異端対策費用としてXXX万ウォンを払ってください」というビジネスをしていました。中には払えない牧師や払いたくない教会がありました。「いやそんなことしなくていい。帰ってください」と言った牧師はニュースNジョイに女性スキャンダル、異端疑惑、金銭問題などを報道され、韓国のキリスト教界から「正義の名のもとに」抹殺されました。実はニュースNジョイの捏造だったのです。自分の教会の牧師が失脚し、教会が潰され、自分の教会を失った信徒は悔しさと悲しみに暮れます。崔三更牧師は異端対策費というみかじめ料を徴収する「宗教マフィア」だと呼ばれるようになっていました。

2. 作戦会議

その後韓国クリスチャントゥディが大韓イエス教長老会合同福音教団の張在亨牧師によって創立されます。記者は世間知らずの若者です。ただ正義感にあふれて突っ走る人が何人かいたようです。ある日クリスチャントゥディに電話録音の音源が届けられました。崔三更牧師とお仲間の宗教マフィアが正統教会の牧師Aをどのようにして異端に仕立て上げるのか作戦会議をする電話でした。オウンゴールですね。自分で異端捏造の手順を語ってるんですから。この時点で張在亨牧師を批判する人は韓国のキリスト教界にはだれもいませんでした。もちろん以前統一協会やその関連団体にて、そこを出て正統な教会の牧師をしている人は多くいました。ただ、暗黙の了解として互いにそのような過去は触れないというエチケットのようなものがあったようです。

韓国クリスチャントゥディにもたらされた崔三更牧師を告発する電話音源は他の多数のキリスト教メディアにもすでに送っていましたが、ニュースNジョイによる報復捏造報道を恐れて誰もこれを公開し、批判的に報道するメディアはありませんでした。何も知らないで驚愕した韓国クリスチャントゥディの記者以外は。韓国クリスチャントゥディにある記事が掲載されました。電話録音を詳細に記述し、正統な牧師をどのように異端として捏造するのか協議し、次のステップを整え、方向性を決める様子が暴露されました。他の新聞が報じないのでスクープになってしましました。韓国のキリスト教界がざわつきます。崔三更牧師やニュースNジョイなどの被害者らは内心「よくぞやってくれた」と思いつつも、「大丈夫か、標的にされたらひとたまりもないのではないか?」と心もとない思いもあったそうです。

3. 殺れ

崔三更牧師がある日いつものように異端捏造をしようとして気づくと韓国クリスチャントゥディにそのことがバレしてありました。小悪人なら焦って震えるのですが、自分のメディアを従え、自分が黒といえば

白も黒くなる権力者は一味違います。崔三更牧師は怒りに燃え、「この若造が。人の領域（シマ）あらしやがって。まあいい。こんな無名の新聞すぐに潰してやるから。」崔三更牧師はいつものようにニュースNジョイの記者に連絡をしました。「次はクリスチャントゥディだ。何か探せ。そして殺れ。」この瞬間から、崔三更牧師とニュースNジョイは韓国クリスチャントゥディと決して共存できない、どちらかが生き残り、どちらかが死ぬまで死闘を繰り広げる関係になりました。韓国クリスチャントゥディの報道が「正しい」ことになれば崔三更牧師は社会的に死ななければなりません。異端捏造の暴力という剣によって韓国クリスチャントゥディのペンを折れ。これが崔三更牧師の殺害命令だったのです。

4. ペンと剣

韓国クリスチャントゥディのあら探しをしますが、金銭問題、女性問題、どちらもクリーンでした。残る選択肢は異端捏造。設立者である張在亨牧師の経歴、発言、教えの内容、数百ページの文章をニュースNジョイ記者は漁ります。張在亨牧師は若い頃統一協会の外郭団体でキリスト教の福音宣教をしていたことがわかりました。「やった。見つけた。」ニュースNジョイの記者は使命感に溢れます。主体思想の勝利のためにまた一人牧師と、新参のキリスト教メディアを社会的に抹殺できそうだ。キリスト教の弱体化に貢献できそうだ。こうして作られたのが張在亨牧師統一協会前歴報道でした。ただ、今回の敵は違いました。安々と殺されてたまるかと血気盛んな若者が反論を報道し、ペンで対抗してきました。

5. 「客観的な第三者」

崔三更牧師が異端対策委員会の相談室長を務める韓国基督教総連合会（CCK）では、崔三更牧師の発案により張在亨牧師の異端調査が開始されました。「ニュースNジョイが疑惑を報じているから調査せよ。」と自作自演を異端対策委員会の会議で発案します。このようにして、張在亨牧師は宗教裁判に引き出されました。ニュースNジョイはこれみよがしに報道します。記事は「CCKが異端疑惑で張在亨牧師を調査」です。マッチポンプにも程があるのですが、あくまで客観的な第三者を装って大々的に報道するのが異端捏造のこつだそうです。

根田さんが日本のクリスチャントゥディを抹殺するための口実を探していたのがちょうどこのころでした。それでJEAが55の加盟教団に送ったFAXの内容が以下のように定まったということです。

日本福音同盟 Japan Evangelical Association
101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル内
TEL 03-3295-1765 FAX 03-3295-1933 E-mail office@jeanet.org

2004年6月17日

JEA加盟団体各位

JEA協力団体各位

主の御名を賛美いたします。

最近、いち報道機関として活動を始めた『クリスチャントゥディ』に関して、さまざまなお問い合わせが皆さまからございました。数ヶ月間、調査結果を待っておりましたが、一昨日、韓国の新聞社「韓国基督公報」を通じて次の内容の事が明らかになりました。

記

韓国クリスチャントゥディ新聞の常任理事、張在炯牧師は、統一協会の核心メンバーであることが判明。このことについての記事が韓国のオンライン新聞であるNews N Joyに出ている。基督公報の取材によれば、海外ネットワークとして日本と中国に力を入れているらしい。張在炯牧師は現在合同福音教団の総会長ですが、韓国基督教総連合会から異端として調査中である。

（クリスチャン新聞提供）

上記の調査報告を深刻に受けとめ、JEAは今後、『クリスチャントゥディ』の取材を一切受けないことをいたしました。その事を関係者の皆様にご報告いたします。

主にありて

理事長 小川国光
総主事 具志堅聖

根田さんは崔三更の保身と、ニュースNジョイのキリスト教弱体化工作のために用意した矢を知ってか知らずか、日本のクリスチャントゥディに向かって放ったということです。

6. コインの裏と表

張在亨牧師は韓国キリスト教総連合会の異端対策委員会において、「証拠がなく事実でなく、異端性が全くない」と判断され、無罪放免となりましたが、結果これが冤罪であるため、責任者の処罰を求めますが、CCKの指導者らに「どうか穩便にしてほしい」となだめられて偽りの告発者らを放しました。

一方崔三更牧師は後に自分が異端であることが判明してCCKを追放されました。ニュースNジョイは今まさに炎上しています。コインの表と裏のように対象的な結末に終わりましたね。神様のどんでん返しはこういうものではないでしょうか？

最後に印象的なエピソードをひとつ。

宗教裁判の検察官よろしく崔三更牧師が張在亨牧師を調査するときに、崔三更牧師は面と向かって金持ち自慢をしたそうです。自分がいかに金が多いかを誇る崔三更牧師はこう口走ったそうです。「ニュースNジョイの記者にあんたのことを調査させるのに300万ウォンもくれてやったんだよ」賄賂を払って捏造記事を書かせてたことを自分から言ってしまいました。オウンゴールです。

書いていてバカバカしくなるほどの汚い話しですが、韓国のキリスト教界の腐敗した現実です。

ニュースNジョイの問題がクリスチャントゥディの疑惑問題とはコインの裏と表の関係にあることがおわかりになったでしょうか？

共有

0 件のコメント:

[コメントを投稿](#)



ホーム



[ウェブ バージョンを表示](#)

Powered by [Blogger](#).

Nehemiah Archives

ネヘミヤ記6章8節 「あなたはそのことを自分でかつてに考え出したのだ」

2018年12月15日土曜日

火をもって答える神



Hokuto Ide
@Hokuto_Ide



暖炉に火をくべつつカルメル山のエリヤを思う。木は水に濡れたら普通は火がつかない。だからこそイスラエルの民はそれが神様の火だと分かった。バアルの預言者は民の中に侵入した。金日成を偶像崇拜するニュースNジョイも福音派の中で主体思想を預言している。CTよ、ただ強く雄々しくあれ。

♡ 3 11:19 PM - Dec 14, 2018

See Hokuto Ide's other Tweets >

今朝、寒かったので暖炉の火で温まりながらいろいろ考え事をしていました。

そして昨今のキリスト教界に思うところがあり、上記のツイートをしたわけですが、事情をよく知らないクリスチヤンの方々は「何のこと？」と思われるだろうと思いますので、以下にその意味を詳しく書こうと思いました。

これは日本のキリスト教界におけるクリスチャントゥディ異端捏造問題（<https://nehemiaharchives.blogspot.com/2018/12/blog-post.html>）とその背景にあるキリスト教のメディアを自称しつつ金日成を救世主として崇拜する主体思想派の正体を隠して韓国の福音派に侵入し、教会の弱体化と破壊活動を行ってきた扇動機関、ニュースNジョイの問題（<https://nehemiaharchives.blogspot.com/2018/12/n.html>）について述べたものです。

これを考えるとき、第一列王記 18 章 17 節から 40 節が思い起こさせされました。

17 アハブがエリヤを見るや、アハブは彼に言った。「これはおまえか。イスラエルを煩わすもの。」

18 エリヤは言った。「私はイスラエルを煩わしません。あなたとあなたの父の家こそそうです。現にあなたがたは主の命令を捨て、あなたはバアルのあとについています。」

19 さあ、今、人をやって、カルメル山の私のところに、全イスラエルと、イゼベルの食卓につく四百五十人のバアルの預言者と、四百人のアシェラの預言者とを集めなさい。」

20 そこで、アハブはイスラエルのすべての人に使いをやり、預言者たちをカルメル山に集めた。

21 エリヤはみんなの前に進み出て言った。「あなたがたは、いつまでどっちつかずによろめいているのか。もし、主が神であれば、それに従い、もし、バアルが神であれば、それに従え。」しかし、民は一言も彼に答えなかつた。

22 そこで、エリヤは民に向かって言った。「私ひとりが主の預言者として残っている。しかし、バアルの預言者は四百五十人だ。」

23 彼らは、私たちのために、二頭の雄牛を用意せよ。彼らは自分たちで一頭の雄牛を選び、それを切り裂き、たきぎの上に載せよ。彼らは火をつけてはならない。私は、もう一頭の雄牛を同じようにして、たきぎの上に載せ、火をつけないでおく。」

24 あなたがたは自分たちの神の名を呼べ。私は主の名を呼ぼう。そのとき、火をもって答える神、その方が神である。」民はみな答えて、「それがよい。」と言つた。

25 エリヤはバアルの預言者たちに言った。「あなたがたで一頭の雄牛を選び、あなたがたのほうからまず始めよ。人数が多いのだから。あなたがたの神の名を呼べ。ただし、火をつけてはならない。」

26 そこで、彼らは与えられた雄牛を取ってそれを整え、朝から真昼までバアルの名を呼んで言った。「バアルよ。私たちに答えてください。」しかし、何の声もなく、答える者もなかつた。そこで彼らは、自分たちの造った祭壇のあたりを、踊り回つた。

27 真昼になると、エリヤは彼らをあざけって言った。「もっと大きな声で呼んでみよ。彼は神なのだから。きっと何かに没頭しているか、席をはずしているか、旅に出ているのだろう。もしかすると、寝ているのかもしれないから、起きたらよかろう。」

28 彼らはますます大きな声で呼ばわり、彼らのならわしに従つて、剣や槍で血を流すまで自分たちの身を傷つけた。

29 このようにして、昼も過ぎ、ささげ物をささげる時まで騒ぎ立てたが、何の声もなく、答える者もなく、注意を払う者もなかつた。

30 エリヤが民全体に、「私のそばに近寄りなさい。」と言つたので、民はみな彼に近寄つた。それから、彼はこわれていた主の祭壇を建て直した。

31 エリヤは、主がかつて、「あなたの名はイスラエルとなる。」と言われたヤコブの子らの部族の数にしたがつて十二の石を取つた。

32 その石で彼は主の名によって一つの祭壇を築き、その祭壇の回りに、ニセアの種を入れるほどのみぞを掘つた。

33 ついで彼は、たきぎを並べ、一頭の雄牛を切り裂き、それをたきぎの上に載せ、

34 「四つのかめに水を満たし、この全焼のいけにえと、このたきぎの上に注げ。」と命じた。

ついで「それを二度せよ。」と言つたので、彼らは二度そうした。そのうえに、彼は、「三度せよ。」と言つたので、彼らは三度そうした。

35 水は祭壇の回りに流れ出した。彼はみぞにも水を満たした。

36 ささげ物をささげるころになると、預言者エリヤは進み出て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があなたのしもべであり、あなたのみことばによって私がこれらのすべての事を行なつたということが、きょう、明らかになりますように。」

37 私に答えてください。主よ。私に答えてください。この民が、あなたこそ、主よ、神であり、あなたが彼らの心を翻してくださることを知るようにしてください。」

38 すると、主の火が降って来て、全焼のいけにえと、たきぎと、石と、ちりとを焼き尽くし、みぞの水もなめ尽くしてしまった。

39 民はみな、これを見て、ひれ伏し、「主こそ神です。主こそ神です。」と言った。

40 そこでエリヤは彼らに命じた。「バアルの預言者たちを捕えよ。ひとりものがすな。」彼らがバアルの預言者たちを捕えると、エリヤは彼らをキション川に連れて下り、そこで彼らを殺した。

21節の「エリヤはみんなの前に進み出て言った。『あなたがたは、いつまでどっちつかずによろめいているのか。もし、主が神であれば、それに従い、もし、バアルが神であれば、それに従え。』しかし、民は一言も彼に答えなかつた。」に突き当たったとき、「しかし、これはがっかりだな。どれくらい事なき主義なんだよ。いつの時代も同じか。」と思つてしましました。日本のクリスチャントゥディは韓国クリスチャントゥディの以下の報道を紹介したのですが、日本のキリスト教界からはまだ一言も答えがないよう思えたからです。

- ニュースNジョイ、主体思想派が韓国キリスト教界に植えた「細胞組織」 韓国メディアが報道
- ニュースNジョイ前編集局長は「NL」、現局長は「幽霊会員」とカミングアウト
- ニュースNジョイ関連の主体思想派団体関係者、韓国軍工作摘発され処罰
- ニュースNジョイ関連団体は「キリスト教」か「首領教」か
- ニュースNジョイ、これは会社なのか？

しかし、エリヤの時代もバアルの預言者が450人もいればビビって反対の声をあげるどころじゃない雰囲気だったというのは想像できます。だからイスラエルの民に行動する勇気を与るためにエリヤは提案をしたのでしょう。バアルという偶像を拝むのを止め、火をもって答える神様を畏れ、拝むという行動を取る勇気与えるための神明裁判の提案でした。

今回の韓国CTの報道は「バアルの預言者たちを捕えよ。ひとりものがすな。」の声そのものだと思います。これはイスラエルの民に向かって発せられた声です。

「ニュースNジョイの金日成を偶像崇拝する預言者たちを捕らえよ。ひとりものがすな。」

これだと思います。最初は黙っていたイスラエルの民も神様の火を見たらバアルの預言者を捕まえるというアクションを取りました。大韓イエス教長老会高神教団がその良い例だと思います。今高神教団では主体思想派狩りが敢行されているそうです。これが自浄というものであり、イエス・キリストが細縄を作つて両替人を追い出した行為が象徴するものだと思います。

今回ニュースNジョイの主体思想派主導を裏付ける大量の物的証拠が出てきたのは本当に神様が火を送ってくれたのに等しい奇跡でした。韓国のキリスト教界はそれがどんな火なのか見ただけでわかったということです。

日本のキリスト教界がこの火をどう見るか？これが今問われている問い合わせなのでしょう。神様からすると、「私はあなたの祈りを聞き、火を送った。あなた方はどうするのか？」って聞いてるわけだと思います。

「金日成を偶像崇拝する連中がのうのうと福音派のクリスチヤンのふりをして、それを福音派が今まで受け入れられてきたが、今ようやく証拠があがってバレて排斥されている」という事実。

日本のキリスト教界はこれをどう見てどう対処するのでしょうか？

特に福音派。

これは、根田さんのキリスト教界における生死と密接に関わっているから非常に答えを出しにくい問題であります。

例えば、ある日本の教団が、

ニュースNジョイについての声明

○月○日

韓国キリスト教界で明らかにされたように、ニュースNジョイは主体思想派の金日成偶像崇拜者で、戦前の天皇崇拜者の国家神道と何ら変わるものではありません。むしろ福音主義の革を被ってキリスト教の破壊をしようとしている狼だという点で、キリスト教にとっては国家神道よりもさらに悪質な勢力です。このため、本教団はこれと内通、協力、擁護、利用し、キリスト教を弱体化させ、破壊し、主体思想を肯定的に受け取るようキリスト教界を扇動する行為に加担する者が教団加盟の教会にいる場合、該当者の所属教会の教師がこれを止めるよう訓戒し、従わない者はこれを改めぬかぎり教会籍を剥奪することを、役員会によって決定しました。主にあります。

文字通りこうじゃなくても、このような見解や声明を出せるなら、その教団は韓国のキリスト教界もしくは他国のキリスト教界から正常だと判断されるでしょう。しかし、根田さんが死に物狂いで「クリスチャン新聞でXXと書きますよ」などと脅迫と根回しを繰り返し、その教団の意思決定に介入し、万が一「ニュースNジョイはキリスト教メディアです」などという血迷った見解の声明を出させたら。すべての教団に根田さんがそういう根回しをして成功したら、日本のキリスト教界、特に福音派にはたぶんもう未来はないと思います。

こういう考え方のある福音派の牧師先生に話したところ、「そういう声明があったら異議を唱えます。」とおっしゃってくださいました。

それでも僕が「日本ホーリネス教団の意思決定に根田さんが介入して実際そういう声明が出るのがあり得るから怖い。」と申したところ、「その時は徹底的抗戦します。」ともおっしゃってくださいました。ガツツがありますね。

その先生は「ニュースNジョイはインチキカルト的メディアである証拠は多数出ております。CTが異端カルトである証拠は皆無。そういうことです。根田はグルなのか、そうでなかつたら目が曇っているということ。エレミヤの時代と同じ状況と言えると思います。偽預言者による平和宣言とか。」ともおっしゃっていました。

根田さんはニュースNジョイ主体思想派暴露報道「以降」、「ニュースNジョイはキリスト教メディア」などという主張を繰り返しています。

ニュースNジョイに「金日成秘密裏偶像崇拜罪」と「福音主義キリスト教詐称煽動破壊罪」の罪状を突きつけた瞬間、ニュースNジョイを嬉々として引用し、無批判無検証に利用し、CTを異端に祭り上げた根田さんにも同じ罪状が突きつけられること。これが福音派のジレンマになるかもしれません。

根田さんは結局、まだ福音派の「身内」なのだとおもいます。身内を切るのは痛みが伴います。

しかし、今韓国のキリスト教界で始まったニュースNジョイ断罪排斥運動の炎を、鎖国して日本のキリスト教界が防ぐことなどできるのでしょうか？

今回、根田さんが所属する日本ホーリネス教団を始めとする福音派の信徒、牧師、神学者、その他関係者の皆さんには深刻な問題提起をしなければなりません。今福音派はニュースNジョイが燃やされている神の炎を目の当たりにして、根田さんに対して「ニュースNジョイから手を切れ」と説得している過程にありますし、そのような自浄作用が働く様子から希望が見て取れます。

先ほどとは別のある牧師先生は根田さんに対して

「クリスチャントゥデイ問題とは別にして、ニュースNジョイを韓国のキリスト教界で信頼がおけるというご発言は、本当ですか？私は、その逆の評価を、韓国の牧師さんから得ています。

井出さんをかばうつもりは毛頭ありませんが、逆に、井出さんが出してくる情報に対して、ニュースNジョイをかばってしまうと、韓国や日本にいる誠実な牧師や宣教師から、この問題に対して、心が大きく離れていくこともありますよ。『やはり、根田さんが赤旗の取材で意見を寄稿されるということは、やはり確信的な赤だったのか？』という疑念が出てくるなど、日本以上に韓国では強い拒否反応が起こるでしょうから。

政治思想の争いになる前に、福音真理の戦いに戻っていただけませんか？」

とおっしゃっていました。ニュースNジョイを庇うのはもう無理だということです。

しかし、韓国クリスチャントゥデイとニュースNジョイの戦いと、その代理戦争でもある日本クリスチャントゥデイと根田派の問題提起者の方々の戦いは政治思想の争い「だけにとどまりません」。確実に福音真理の戦いでもあります。なぜでしょうか？ニュースNジョイがキリスト教界を騙し、思想化工作を通してキリスト教の弱体化を進める細胞組織、扇動組織だからです。

福音真理をニュースNジョイを放置してキリスト教が弱体化させられ、多くのクリスチャンが金日成主義者に改造されるのをクリスチャンが、牧師が、神学者が手放しに放置したら福音真理を守れるのですか？いいえ。守れません。だから韓国のキリスト教界は今断固としてニュースNジョイを排除に向けて動いているのです。ニュースNジョイとの戦いは政治思想の争いであり、同時に、福音真理の戦いなのです。そして韓国クリスチャントゥデイと日本クリスチャントゥデイは先陣を切って、矢面に立って、この戦いを戦っているのです。

根田さんが頑固にニュースNジョイ擁護の立場を死守するなら、日本ホーリネス教団は膿を切り捨てる措置をとるべきではないでしょうか？日本ホーリネス教団だけではありません。いのちのことば社、日本福音主義神学会、日本ローザンヌ運動、JTJ神学校、その他根田氏が所属するすべての団体、特に福音派の団体は、ニュースNジョイについて現時点での、暴露報道以後の、立場を表明すべきではないでしょうか？目をつむって、聞こえないふりをして、知らないふりをして、これを通り過ぎることはもうできないと思います。

そして、根田さんがニュースNジョイを擁護し続けるのならば、根田さんを諭し、諫め、訓戒し、勧め、丁寧にニュースNジョイから手を切るように導かなければなりません。それでも根田さんがニュースNジョイを擁護するなら、痛みを伴ったとしても、根田さんを排除せねば、ニュースNジョイが賛美、崇拝する金日成を現人神として国体の中心に据えた、朝鮮民主主義人民共和国の圧政の元で、日々虐待され、苛烈な人権侵害を受け、動物以下の存在として扱われ、毎日残虐に殺され、殉教していくクリスチャンの兄弟姉妹に、私達は何と弁解すれば良いのでしょうか？

僕はアメリカの福音派に属するクリスチャンとして、部外者の目でこの状況を見ています。同時に今は属していないとしても、僕の信仰的基礎を形作る場所であった日本の福音派には恩義があるため、これを思っておせっかいかもしれませんがものを言います。韓国のクリスチャンとも縁があるため、韓国の福音派の現状が刻一刻と耳に入ってくるため、危機感を感じています。

日本の福音派には友人も人脈も名声もない石のような存在だが、叫びたい。「バアルの預言者たちを捕えよ。ひとりものがすな。」と。

Nehemiah Archives

ネヘミヤ記6章8節 「あなたはそのことを自分でかってに考え出したのだ」

2018年11月19日月曜日

クリスチャントゥディ、オリベット大学関連の報道について

昨今のキリスト教界のメディア動向に関して感じることがありましたので以下に書きたいと思います。クリスチャントゥディと関係ないところもありますが、報道があまりにも無理やり関連付けている部分がありますので、情報を整理する必要もあると思いました。またアメリカで起きた出来事ですので、アメリカにいる私が見知った内容も皆さんとの理解に役立つと思います。

1. ケン・スミス

日本でクリスチャントゥディや東京ソフィア教会に対する中傷や嘘を書いていた牧師がいましたが、彼は日本語のブログと英語のブログでそれを書いていました。英語のブログを読んでアメリカでオリベット大学を批判するブログを書く人が出てきました。ケン・スミスという人です。オリベット大学が以前カリフォルニア州スコットバレーというところで、大学のキャンパス用地を購入しようとしていたとき、その購入に反対していました。そのキャンパス用地はもともと廃校になったベタニー大学というキリスト教の大学のキャンパスで、ケン・スミスはベタニー大学の卒業生だったのです。自分の大学だった場所が経営難で他所に売却されるのが残念だったから反対したのもあります。

2. Tさんのお母さん

アメリカのニューヨークにTさんという名前のオリベットアッセンブリーの教会員がいます。家庭で、小さい子供がいます。Tさんのお母さんがうちの教会について悪く書いているケン・スミスの英語のブログを見ました。日本ではすでに名誉毀損裁判があってクリスチャントゥディは勝訴したためその英語ブログの内容は正しくないのですが、Tさんのお母さんは誤解をして教会を憎むようになりました。Tさんのお母さんは孫をTさんから取り上げて自分で育てようと思うようになりました。そのため教会をどうにかして悪くしようと、マンハッタン検察にケン・スミスの記事を持ち込み、教会やオリベット大学が悪いからなんとかして助けてくれと頼んでいました。

3. マンハッタン検察と映画監督

マンハッタン検察の主席検事はある映画監督の捜査を進めていました。その映画監督は何人の女性にセクハラをした容疑で、彼らが警察と検察に映画監督の罪を告発し、捜査を頼んでいました。しかし、映画監督は大変お金持ちで有力な弁護士を雇って、弁護士が主席検事に高額の献金をこっそりしました。アメリカの主席検事は政府が任命するのではなく、選挙で選ばれる立場なので選ばれるためには高額の選挙資金が必要なのです。お金をもらった主任検事はセクハラ捜査を止めました。突然警察、検察から見放された女性の被害者たちは途方にくれました。ニュースウィークの記者は選挙権金と捜査停止の事実を突き止め、これを批判する報道をしました。「お金持ちなら犯罪をしても見逃されるのか?これが正義か?」という怒りが女性の権利を守る団体などを中心に起こり、大問題になりました。検察はニュースウィークをどうにかして黙らせるることはできないか、調べ始めました。ニュースウィークの社長オリベットアッセンブリーの教会員でした。

4. 借金と返済

ニュースウィークやオリベット大学は仕事で使う高額のコンピュータを買うために借金をしました。コンピュータが借金の担保になっていて返済をするまでコンピュータは借り物で、終わったら所有権が移るという契約です。財政的に厳しい状況があったのですが、毎月契約で決まった額を返済していました。あるときどうしてもお金が足りなくて返済が遅れた月がありました。債権返済などの訴訟はほんらい民事訴訟を通して行うものです。しかし、アメリカのローン会社は何年も時間がかかる民事より早く判決が出る刑事告訴を通して自分たちのお金を早く確保しようとしました。刑事告訴をするためには何らかの犯罪の疑いがなければいけません。ローン会社は借金の強制的な取り立てのためにもともと検察と人脉を作つており、検察に連絡をしました。これで主任検事、ローン会社、Tさんのお母さんの3者の利害が一致することになります。

5. 被害者のいない犯罪？

マンハッタン検察はニュースウィークやオリベット大学がローン会社からお金をだまし取ったという筋書きで犯罪を立件しようとしたが、借金の返済が終わりました。借金しておきながらお金を返さないで着服したのなら、それは大きな犯罪で、ローン会社は被害を受けた被害者になります。しかし、ローン会社は貸したお金を返してもらったのでもう利害がありません。被害も生じませんでした。困るのはすでに調査を始めたマンハッタン検察です。すでに何ヶ月も時間を使い、この捜査のために何人もの検事や職員の給料が税金から支払われています。税金や時間をそんなに使つたのに「犯罪はありませんでした。」と言ってしまうと検察の大失敗として批判を受けてしまいます。そこでマンハッタン検察は借金のするときに準備した財政の書類や、お金を送金するときの手順に不備があつたことにして、これを資金洗浄（マネーロンダリング）の犯罪だと表現し、無理やり起訴することにしました。当然オリベット大学やニュースウィークはそんな犯罪はしていないと無罪を主張し、検察と裁判所で争うことになりました。これからは裁判所で罪があるのかないのか、互い証拠を出し合つて弁論することになります。

6. 日米の報道の差異—彼らが報じなかつたこと

新聞の意図を把握するためには「何を報じているか」と同時に「何を報じなかつたのか」も知る必要があります。キリスト新聞とクリスチャン新聞が報じなかつた記事を見てみましょう。2018年10月19日付けのニューヨーク・タイムズの記事「The Challenge With Prosecuting Newsweek's Former Owner for Fraud: There Were No Losses」 <https://www.nytimes.com/2018/10/19/business/dealbook/newsweek-ibt-fraud.html> は以下のくだりから始まります。“Can there be fraud if no money is lost?” 訳すと「もし損害が発生していないなら詐欺はありえるのだろうか？」ピーター・J・ヘニング記者は記事中に「詐欺は窃盗の一種であるが本件においてはローンは返済されており、罪に問われている企業が欺いたとされている銀行らは金銭的損害を被らなかつた。これは検察に挑戦を提起するものとなる。詐欺事件における損害は犯罪の構成要素としてではなく、–そうではなく–陪審員にアピールするために重要だ。通常窃盗は被害者が金銭的もしくは物質的に損害を受けるものであるが、ある銀行が融資をして返済されたとして、それなら手続き上の誤表記は大きな懸案事項にはならないかもしれない。」

次にヘニング記者は本件の概要を説明し、これを2015年にマンハッタン検察がニューヨーク市内のチャイナタウンのある銀行を記載事項の不備を理由に詐欺で起訴したが無罪判決に終わった件と比較しました。同銀行は中国系移民の一家が創立し、中国系移民の住宅ローン関係の事業をしていました。さも大犯罪があるかのように起訴をしておきながら無罪に終わった検察当局はニューヨーク・タイムズの取材にコメントしなかつたそうです。<https://www.nytimes.com/2015/07/19/business/a-tiny-banks-surreal-trip-through-a-fraud-prosecution.html>

奇しくもオリベット大学には福音主義的なキリスト教教育が著しく制限されている中国からの留学生が多く在籍しており、理事長のアンドリュー・リン氏も国籍はアメリカですが中国系です。裁判の結果次第では「白人の罪は甘く見逃し、アジア系は罪もないのに罪を仕立てる」のか？との批判すら受けかねない件もあります。ニューヨーク・ポスト、ウォール・ストリート・ジャーナルなどの他紙も「被害者がいない」こと、映画監督と検察トップの癒着の顛末などに言及しています。

7. キリスト新聞とクリスチャン新聞の意図

これらの背景情報を日本の問題提起者である根田祥一氏や松谷信司氏はあなたに伝えましたか？彼らの引用した元記事を最初から最後まで読めば検証できることですが、英語で長文を読むのは時間と労力を要します。そういう簡単な事実検証ですら日本のクリスチャンにはできないだろうとたかをくくっているのでしょうか。日本のクリスチャンをコケにし、安易に騙されるバカのように扱っているように思えて怒りを禁じえません。

根田祥一氏本人の発言を紹介します：

Shoichi Konda クリストゥディのメディアリテラシーの低さです。カルト性見え見えの「偽キリストメディア」に騙される方が、こんなにいるとは誤算でした。クリスチヤン新聞の報道でCTの正体を知れば、一時は統一協会に騙されて協力する人も出たかつてのキリスト教界のように、すぐCTから離れるだろうと楽観していたのが誤算でした。Saturday, November 17, 2018 at 1:24 PM

https://www.facebook.com/groups/164434607693494/permalink/342636799873273/?comment_id=342913366512283&comment_tracking=%7B%22tn%22%3A%22R%2315%22%7D

このコメントで根田氏は日本のクリスチヤンのメディア・リテラシーが低いと言っています。根田氏には「見え見え」ですが、根田氏以外のクリスチヤンには見えないので、「騙され」た、という内容です。根田氏は自分を「盲人の案内人」だと「自任している」ように見えます。日本のクリスチヤンは牧師だろうが神学者だろうが、根田氏の思想通りに考えないと根田氏に盲人扱いされるということです。（ローマ2：19－24）

Shoichi Konda 残念でした。キリスト教会の多くでは、脱会した被害者たちの窮状を理解しています。日本基督教団の説明会には多くの教団教派のリーダーたちが出席し、事態を理解してそれぞれの教団に報告しました。NCCもJEAも理解しています。宣教師団体JEMAもペンテコステ協議会JPCも理解しています。多くの人に相手にされていないのはご自分であることに、まだお気づきになりませんか？Saturday, November 17, 2018 at 10:05 PM

https://www.facebook.com/groups/164434607693494/permalink/342636799873273/?comment_id=343115549825398&comment_tracking=%7B%22tn%22%3A%22R5%22%7D

このコメントや日本基督教団の議長名義で出された声明の経緯は根田祥一氏が常習的に行っている「既存のキリスト教界における権威（教権）に関する少数に情報を持ち込むこと。密室会議を通して正規の意思決定プロセスを経ずに公文や声明を出させること。そして、声明などが出ると、客観的な第三者を装って自身の新聞でそれを報じること」をその他の団体でも行っていることを無意識に自白するものです。ハマンは時の権威であるアハシュエロス王に歪曲した情報を与え、「アハシュエロスの名で書かれ、王の指輪で印が押された」「書簡」を「すべての州へ送」って「モルデカイの民族を根絶やしに」しようとしたよう（エスラ記3－12）、根田氏はオリベットアッセンブリーという教団を教団議長の名で書かれ、異端の烙印を押した声明をすべての教団送ることで、キリスト教界から根絶やしにしようとしています。

Shoichi Konda 宮村先生。聖書と礼拝に基盤を置いて編集会議を重ね、クリスチャントゥディで有益な情報を提供してこられた、その取り組みは立派です。そのようにして生み出されたクリスチャントゥディの記事も有益なものが沢山あります。そのことに何の異論もありません。ただ一点、知っていただきたいのは、キリスト教会全体を自分の配下に置くという野望を持った人物が背後にいて、先生のその熱意と努力が利用されているのだということです。私たちがクリスチャントゥディを危険だと警鐘を鳴らしているのは、ただそれゆえであって、それ以下でも以上でもありません。サタンは光の天使に偽装できることを、先生はご存知のはずです。どうぞ目を覚ましてください。Saturday, November 17, 2018 at 1:19 PM

https://www.facebook.com/groups/746839178769904/permalink/1906818289438648/?comment_id=1906967702757040&comment_tracking=%7B%22tn%22%3A%22R1%22%7D

異端の烙印を押すことはキリスト教界的死を意味します。自分だけじゃなくて、自分の属している教団が異端教団になり、女子供みんな異端としてキリスト教社会から排除されます。自分の子が自分が死んだ後も異端の子と呼ばれ聖なる公同の教会の交わりの中で生きる未来を絶たれます。婚約は破棄となり、職場では阻害され、学校ではいじめられます。これが異端冤罪で生じる社会的損害のリスクです。根田氏の言うことに従ってもし異端冤罪だった場合、沢山のクリスチャンの人生を壊すことになりますが、その責任をあなたは取れますか？

Shoichi Konda はい、世界中のキリスト教会を守るために矢面に立っている地球防衛隊であります。これ本気！ Saturday, November 17, 2018 at 5:35 AM

https://www.facebook.com/groups/164434607693494/permalink/342621093208177/?comment_id=342642643206022&comment_tracking=%7B%22tn%22%3A%22R%2311%22%7D

心理学の用語に投影という言葉があります。誰かを批判する人は自分の悪い面を鏡のように相手の姿に投影して批判するものだということです。根田氏は自分を「世界中のキリスト教会を守る」者としていますが、これは言い換えれば「根田氏の異端説に従うように」「キリスト教会全体を自分の配下に置くといふ」ことです。根田氏は安易にも張牧師を裁きましたが、根田氏が「さばくとおりに」自分がすでに裁かれているのではないでしょうか？（マタイ7：1－2）

クリスチャントゥディの働きを評価するとき思い出してほしいのは「もし神から出たものならば、あなたがたには彼らを滅ぼすことはできないでしょう。もしかすれば、あなたがたは神に敵対する者になってしまいます。」（使徒5：39）の言葉です。根田氏の言説を聞いてもあなたが神様がおられる信じるなら、「もしかすれば」と一呼吸おいて見てください。

共有

0 件のコメント:

[コメントを投稿](#)

コリア国際研究所 (Korea International Institute - KII)

TOPページ

サイトマップ

HOME > デイリーNKニュース > 今週のニュース

[バックナンバー](#)

北朝鮮研究

南北関係研究

在日社会研究

在日経済研究

朝日・韓日研究

朝米研究

民主主義研究

コラム

資料室

研究所紹介

今週のニュース

「論考」 韓国の従北朝鮮勢力について

韓基弘(北朝鮮民主化ネットワーク代表)

2013.8.17転載

韓基弘 (52)

1961年、韓国京畿道水原で生まれる。81年に延世大学に入学後、学生運動に参加し民主化運動に身を投じる。1年6月の実刑判決を受け、6ヶ月の服役を経験した。その後 労働運動オルグを13年間にわたって続けた。現在金永煥氏らと共に、北朝鮮民主化および人権問題に取り組んでいる。

直近の著書「進歩の影」（2012年3月、時代精神社刊）は、「従北勢力」の歴史的系譜をはじめて明らかにした書として大きな反響を呼んでいる。

*この論考は、2013年5月30日に行なわれた「2013デイリーNK東京情勢報告会」で発表されたものです。

【本文】

1. 従北とは？

最近、韓国では従北(従北主義)という用語が広く使用されている。この用語に対する概念規定は後で行うことにして、最近のいくつかの事例を引用してみる。

KBSアナウンサーだったジョン・ミホン氏は今年2月、「来年の地方選挙でパク・ウォンスンソウル市長、イ・ジェミョン城南市長、キム・ソンファン蘆原区長のような従北性向の地方自治団体長を倒さなければ」と主張した。これに対しセヌリ党のハ・テギョン議員は「彼らは従北ではない」とした。別の事例をもう一つ挙げてみる。時事評論家のビヨン・フィジエ氏は統合進歩党の李正姫（イ・ジョンフィ）党代表と彼女の夫のシム・ジェファン弁護士に対しツイッター上で「従北」「主思派」と規定し

たとし、1審裁判で名誉毀損の疑いがかけられ1,500万ウォンを支払うよう判決を受けた。

最後の事例として、最近、5.18光州民主化運動33周年を迎える韓国の一
部総合編成チャンネルが脱北者らを証言者として登場させ、「5.18の際、
光州に北朝鮮軍の特殊部隊が侵入した」と報道した。これに対し代表的な
右翼論客の趙甲済（チヨ・ガブチ）氏は自身の取材経験と多様な証拠を
挙げて同事実を否定するや、一部インターネットサイトには「チヨ・ガブ
チエも従北だ」というコメントが多数投稿された。ここまで来ると従北を
どのように規定すればいいのか分からなくなる。

ここ数年間、従北は北朝鮮を追従する勢力以外にも、金大中、盧武鉉政
権当時、北朝鮮に対する宥和政策を推進した人物を主に指す用語として使
用されてきた。しかし最近、保守勢力の一部では自身の意見と異なる人物
を攻撃する用語へとその範囲が拡大している。「従北」の概念規定を明確
にしないとこのような混乱状況が発生する。

厳密な意味での従北勢力

韓国で北朝鮮政権の維持を願う人たちは、その認識と動機をもとに細分
化すると次のように分けられる。

その一、北朝鮮体制の崩壊がもたらす混乱を恐れる人たちである。多く
の人がこのような考えを持っている。なかでも北朝鮮体制が崩壊して急激
な統一が実現した時、大量の脱北者らが韓国に流入するとして、これに伴
う経済的負担に恐怖を感じている人たちがいる。相当数がこの部類に該当
する。

その二、強大国の米国に対抗する北朝鮮に好感を抱く人たちである。特
別に親北的な思想を持っているとは言えないが、民族主義的な見地から同
族である弱小の北朝鮮が米国のような強大国に対抗しているという点で北
朝鮮に共感する人たちである。

その三、主に学者をはじめとする専門家、言論人、官僚などに多く見ら
れるが、個人的な利害関係のために北朝鮮体制の現状維持を望むケースで
ある。金大中政権と盧武鉉政権時代、対北包容政策を支持した人たちであ
る。こうした人たちは、善意で北朝鮮を支援すれば金正日政権が改革開放
に進むものと考え、そうした主張を公開的に行ったり政策化して展開し
た。彼らは結果的に自身の判断が誤っていたと証明された時、自分たちの
名誉や権威に深刻な毀損が生じることを懸念した。現代峨山や平和自動車
のように北朝鮮政権のパートナーとなり、対北事業を展開した企業人たち
も同様である。

その四、北朝鮮体制に盲従し韓国政府を転覆させ北朝鮮主導の統一を夢
見る勢力である。彼らは過去に比べ現在はその数が顕著に減少している
が、他のいかなる集団よりも組織化されている。そのため過小評価してはい
けない。彼らは2002年の女子中学生ろうそくデモや、2008年の狂牛病デモ

以外にマッカーサー銅像撤去、平沢基地反対闘争などの各種イシューを自らの闘争動力に結びつけ、反米、反政府闘争を行う。筆者はこれを厳密な意味で「従北勢力」と規定する。

現在の韓国社会は発展水準が同等の他の国と比較し、ダイナミックな面があるとは言うものの、基本的には意見の多様性が尊重される民主主義社会である。したがって「従北」概念は可能な限り厳密に規定され使用されるべきだ。なぜなら「従北」が、北朝鮮住民の現実を糊塗し、北朝鮮住民の自由と人権実現を遮る犯罪行為であるからだ。

概念を整理すれば、「従北」とは北朝鮮政権の利益、維持、強化を最優先にする行為、北朝鮮主導の統一を追求する行為、そのための意識的、組織的運動を展開する行為として規定することができる。したがって北朝鮮体制の急激な崩壊が現実となり、北朝鮮の実情が全ての人びとに詳細に公開するようになれば、厳密な意味での「従北勢力」は、韓国社会において、政治的にも道徳的にも存立が困難になる。

このような意味で、北朝鮮政権の崩壊が韓国の政治、経済、社会など諸般領域で不安定をもたらし、当面は租税負担を加重させるなどという次元で北朝鮮政権維持を思考する相当数の国民と知識人はもちろん、これに立脚して対北包容政策を展開すべきと主張する政治勢力は、従北勢力の範疇から除外されるべきである。このことは眞の従北勢力を明確に規定するうえで非常に重要なことである。

2. 従北勢力の活動様式

1) 地下の核心従北勢力

(1) 1960～70年代の勢力

1960年、4・19革命が体制転覆に発展しなかった状況を目撃した金日成は、1961年の朝鮮労働党第4回大会の事業総括報告で次のように演説した。

「革命的党が不在で明確な闘争綱領もなく、よって基本的群衆である労働者、農民が抗争に広範囲に参加できなかつたため、4月の蜂起は徹底して組織的に展開されなかつた。南朝鮮人民は彼らが流した血の代価を米帝の別の手下(民主党を指す-著者注)に奪われることになりました。革命的党の領導がなく、労働者、農民、兵士、大衆の覚醒が不十分だつたために南朝鮮の人民は軍部上層のファショ分子による権力奪取を防ぐことができず、民主主義的権利に対する敵の攻撃に反対し効果的な反撃を組織することができませんでした。

南朝鮮の人民はこの辛い経験から必ず教訓を得なければなりません。南朝鮮の人民は広範な群衆の中に根付く労働者、農民の独創的党を持つべきであり、その合法的地位を勝ち取らなければなりません。南朝鮮で組織されるべき勤労人民の政党は全ての愛国的力量を団結させることで、徹底した反帝国主義的反封建的力量を実現させ、南朝鮮の人民の切迫した要求を

解決するために闘争しなければなりません」。

その後、北朝鮮は韓国内に地下党を建設するための事業を総力的に展開した。その最初の結実が1965年に結成された「統一革命党(統革党)」であった。統革党は、裁判過程でもその後においても北朝鮮との直接的関係について疑問が提起されたことはない。また統革党事件以降、北朝鮮は関連者に対する英雄待遇を行ない対南攻勢を全面的に推進した。統革党が壊滅した後も「再建された」との大々的宣伝を行なった。統革党はその後「救国の声」、最近だと「反帝民戦」などと名称を変えながら対南宣伝機関の役割を果たしている。

1964年と1974年に話題となった「人民革命党(人革党)」の場合、組織的に北朝鮮との関係を試みたとの証拠はないが、これに参加した個人が北朝鮮と関係を持とうと試みた形跡はあった。「南朝鮮民族解放戦線準備委員会（南民戦）」の場合は、1979年「南民戦」関係者の検挙当時から治安本部と検察は一貫して北朝鮮と関連したスパイ事件という点を明確にした。

「南民戦」の裁判記録によると、組織員を日本に派遣し朝鮮総連と接触させた後北朝鮮に入国させ、北朝鮮との具体的な連携を図ったというが、北朝鮮と直接的に繋がる前に組織が検挙された。

しかしこれら1960～70年代の従北勢力が現在まで組織的に継承されているとの証拠はない。ただし、これらの事件に関係した当事者のうち、その後組織された「汎民連」「韓国進歩連帯」などの各種従北団体で個人的に活動していた事例は多數目撃されている。

(2) 1980年代以降の地下組織勢力

1999年夏、話題となった「民族民主革命党（民革党）」事件だが、同党は1980年代以降に大学街で自生したいわゆる「主思派（主体思想派）」の元祖といえる金永煥が主導し結成された。この党は旧左翼と関係のない初の大規模新左翼地下党といえる。彼らは1980年代中盤、学生運動圏を掌握し、その後社会運動で主流となつたNL（民族解放民主主義革命派）系列運動の思想・理論的、組織的指導部の役割を遂行したといえる。

民革党は中央委員会傘下に道党格である首都圏委員会、嶺南委員会、全北委員会と三つの地域組織を結成し、党員だけでも百人程度に達した。また民革党が直接管理する地下革命組織だけでも17あり、4百人の組織員が所属していた。傘下には直接的な影響を及ぼせる数千人近くが網羅され、文字通り解放後韓国最大の地下党だった。

しかし金永煥が主導した80年代中盤の主思派運動(NL)は、金永煥本人の意図に反しその後、運動圏の主流な流れを従北へと帰結させた。このようにして1980年代中盤から1990年代中盤まで「主思派」に影響を受けた親北左派約10万人が社会に「進出」することになった。

「民革党」を主導した金永煥と一部の人たちは、北朝鮮の実情を把握した後（金永煥が金日成と面談した後）、北朝鮮こそ民主化の対象であるこ

とを悟り、1990年代末からは北朝鮮政権打倒と北朝鮮人民の解放を目標にした「北朝鮮民主化運動」を活発に展開している。

その一方、ハ・ヨンウク、イ・ソッキをはじめとする人たちは、金永煥が主導した1997年7月の「民革党」自主解散決議を認めず、組織を收拾して地下党を維持させようとしたが1999年に検挙された。事件以降、「民革党」中央や地域で活動した人物が現在まで具体的な地下活動を持続しているとの事実は確認されていない。しかし「民革党」核心管理者の相当数は「民主労働党（民労党－現在の統合進歩党）」などで中心的活動を展開し、彼らが現在の統合進歩党の中心勢力として従北主義の合法化、全面化を試みている。

この他にも1992年に検挙された「中部地域党」と1994年の「救国前衛」などが存在するが、中部地域党の場合は、北朝鮮の最高位級対南工作員の李善実（イ・ソンシル）が一方で公開的な政党である民衆党指導部に接近しスパイ網構築を試み、他方ではファン・イノを包摶し地下党構築を試みた。ファン・イノはチエ・ホギョンを包摶することで、彼が1990年12月に学院と労働界で活動していた主思派運動家241人を集めて結成した「1995年委員会」を掌握、組織網を拡大することができた。

「救国前衛」は「南民戦」事件で無期懲役宣告を受けた前歴のあるアン・ジエグが、1980年代大学街で自生した主思派運動圈出身者を集めて1991年に組織を結成し活動していたが、1994年に検挙された。アン・ジエグは在日朝鮮人の工作指導部と交信しながら在野、労働、大学運動圏の動向を北朝鮮に報告し、現代グループの労働者のデモ現場に介入し、労働運動を背後から操縦しようとした。この他にも学生運動を背後から操縦するため、「全大協同友会」に対する掌握事業を展開した。

「中部地域党」と「救国前衛」関係者も処罰を受けた後、組織的活動を展開したという証拠はないが、アン・ジエグをはじめ一部は今もなお従北思想から抜け出せず多様な従北活動を展開している。

(3) 2000年以降の地下活動

2006年10月24日、国家情報院は中国で北朝鮮工作員と接触した容疑(会合・通信など)で「一心会」総責任者のチャン・マイクル(チャン・ミノ)と、組織員の「民主労働党(民労党)」前中央委員のイ・ジョンフン、某学院長のソン・ジョンモクを逮捕した。検察と国家情報院はチャン氏らが2006年3月、在野人士2人とともに中国に出国し、北朝鮮工作員に接触。韓国国内の情報動向及び特定政党の情報を提供し、各種指令と工作金を受け取ったと発表した。

前中央委員と事務部総長が加担した「民労党」は、反北、反統一の流れを作ろうとする国家情報院の捏造事件だと主張したが、最高裁は「一心会」事件の関連者全員に国家保安法違反などの容疑で有罪を宣告した。

「一心会」事件の特異な点は、これまで「統革党」、「民革党」など韓

国内地下党组织の構築に主眼点を置いてきた北朝鮮が、既存政党の核心部署とソウル市党に侵入し影響力拡大を試みた点である。また海外にサーバーを置き電子メールを活用し、海外で工作員に直接接触するなどして、韓国内情勢動向と「民労党」の主要党職者の身元及び分析資料を提供したことも特徴的だ。

2011年、関連者らが逮捕され、現在最高裁の最終判決を控えている「旺載山」事件も中央大学82年度入学生の主思派運動団出身のキム・ドギヨンが主導し準備した組織だ。1993年に組織員を北朝鮮に派遣し金日成のスペイ教示を受け組織活動を展開し、2001年に地下党を結成、労働界、学界、在野などに組織を構築しようとした。「旺載山」も政党や国会などを通じて情報を入手し、自身の影響力拡大を図るなどの活動を展開した。

2) 公開政党を通じた活動

本来NL（民族解放民主主義革命派）は北朝鮮に朝鮮労働党という唯一党があつたため、韓国では別途の独自的な政党を作らず、「民主主義民族統一全国連合」のように統一戦線体で活動する方法をとった。それに比べてPD（民衆民主革命派）系列は内部に視点の相違が一部存在したもの、韓国革命の独自性を重視し独自の政党建設に重きを置いた。この違いが、民主労働党建設初期段階でPD出身のノ・フェチャン、チョ・スンウなどが中心的役割を果たした理由である。

しかしその後NLの一部でも公開政党の民労党に参加し始めた。いつからかは定かではないが、2000年代序盤に民革党事件で拘束されていた主要な関連者らが釈放され、徐々に民労党に参加するようになり2000年代中盤には党権を掌握するようになった。

民革党事件関連者らの判決文によれば、1990年代後半まで彼らは「選挙と議会演壇の重要性がいくら高まるとしても、これを絶対化し選挙変革と議会主義を主唱するならば、これは変革運動の基本原則を破る修正主義への脱線であり、投降主義の罠に落ちる」と考えていた。

こうした彼らが合法政党として大量に進出したのには、総じて二つの理由からだと判断される。一つは検挙後の身元が捜査機関に露出し地下活動に障害が生じたこと、もう一つは韓国の民主化が進み、議会と合法的手段を通した政権掌握の可能性が過去に比べ高まったことである。2012年「4.11総選挙」に最高リーダー格のイ・ソッキ本人が直接比例代表に挑戦し当選したのは、議会闘争を通して政権掌握(野党連帯を通じた)を指揮するためのものと思われる。

しかし昨年の4.11総選挙以降に表面化したように、彼らは「北朝鮮体制、指導者世襲、北朝鮮人権、主体思想」など北朝鮮の核心的問題について回答を回避するなどの態度を示した。そのことで、韓国国民に従北主義勢力の実体を自らあからさまにするという反面教師の役割をした。

一方、北朝鮮は2011年、民主労働党を中心に改革民主勢力、進歩勢力の

力量を拡大し進歩大統合政党を建設せよと指令を下した。4.11総選挙を前後した時期に柳時敏（ユ・シミン）氏は、イ・ソッキ氏が「統合党建設に対し周辺からの反対が多かったが、これを自分の力で退けた」と語っていたと述べた。偶然の一致なのかは正確に明らかにされたものはないが、結果的に北朝鮮の指令とイ・ソッキ氏らの動きが一致する結果をもたらしている。

3) 公開団体、サイバー空間などを通じた活動(省略)

3. 従北勢力の現状について

1) 1990年代との比較、歴史的に衰退の傾向

昨年の4.11総選挙を通して従北勢力であることが明白な人物らが、第3党の統合進歩党を掌握し、国会にも何人かの議員を進出させ、従北勢力が強大な力で韓国社会を掌握していくのではないかとの疑惑が台頭した。もちろんこのような点に留意する必要はあるが、筆者は歴史的見地から見る場合、従北勢力が弱体化していると判断する。

従北勢力は1980年代末から1990年代初頭を絶頂とし、1990年代中盤を過ぎる頃から次第に弱体化し始めた。運動圏の従北核心部の役割を担ってきた民革党が、内部の路線闘争により解散したうえ、残りの残党勢力も1999年の事件で深刻な打撃を受けた。また、個人主義化が進むにつれ学生運動が80年代中盤や90年代初頭に比べその勢いが顕著に弱まり、新しい人材を補充することが困難となった。

ところが1997年に民主党（金大中）が執権し、北朝鮮に対する包容政策が展開され始める中で、過去の運動に対する評価や反省がないまま、むしろ北朝鮮との公開的な接触が容易になるなどによって活動空間は拡大した。また民主労働党が議席を確保し、現実政治に影響を及ぼすようになり再生の機会を得た。全国民主労働組合総連盟（民労総）、全国教職員労働組合（全教組）に対する影響力確保は、学生運動の衰退を総体的に補完する役割を果たしている。

とはいって従北勢力は明らかに弱体化したと評価できる。それは今や従北主義の主張が大衆的アピール効果を失っているためである。過去の従北主義は「民族自主」「反独裁民主化」「祖国統一」「民衆のための献身」などと外形的には崇高な価値を掲げ自身を粉飾することが可能であった。また、現実の軍部政権の抑圧によりこのようなスローガンのアピール力が実体以上に過大評価された面もあった。

しかし韓国社会が成し遂げた急速な経済発展、民主政府の登場と平和的政権交代など持続的な民主化が進展し、グローバル化が急速に進行するなかで、国民の全般的な意識変化が起こっている。このような国内外環境は彼らが掲げるスローガンが現実にそれほど適合しないという事実を示した。

2) 北朝鮮の失敗

従北勢力が全活動の指針とする北朝鮮体制の失敗が国民の間で明白な影響力を及ぼしている。従北主義の政治思想的本家は北朝鮮式社会主義と金氏一家の政権である。従北主義は1980年代末の東欧社会主義の崩壊にもかかわらず、北朝鮮は主体思想があるために健在との理論を掲げ存続したが、1990年代中盤、北朝鮮の大飢饉と餓死の現実が表面化することで徐々に弱体化しはじめた。数多くの脱北者が伝える北朝鮮の真実は、従北主義勢力の思想的動搖と組織的離脱の契機となった。

前出の民革党の分化も北朝鮮に対する立場と態度をめぐる認識から出発しており、従北先陣隊と言える韓国大学総学生会連合（韓総連）も1996年の事態を経て分裂が加速化した。これら全ての共通点は北朝鮮の失敗と関連がある。ここ数年の間、残存従北勢力の内部にも一定の分化の兆しが現れているが、金正日の死去と30歳にも満たない息子金正恩への権力継承が大きな影響を与えているものと判断できる。

3) 統進党事態

昨年3月末、李正姫元統合進歩党（統進党）代表の、不正な統一候補者予備選、4.11総選挙比例代表候補の予備選不正、9月の民主労働党勢力とその他の勢力の分党騒動など、統合進歩党が見せた一連の動きにより、一般国民も従北主義政治勢力の本質と形態を把握した。同事態の中心にいた、いわゆる党主流派こそが韓国内の従北主義勢力の核心だったという点から、従北主義勢力が外形的には国会議席をいくつか占めるなど、韓国の政治圏の中心部にまで進出したものの、実際は歴史的没落の前段階に突入したといえる。

現在国會議員のイ・ソッキは金永煥が主導した民革党のナンバー5の地位にいた人物であり、ハ・ヨンオクが主導した再建民革党のナンバー2に相当する人物である。釈放後は実質的なナンバー1を担ってきた。つまり韓国の従北主義運動の歴史的象徴性を持つ人物と言える。そしてキム・ジェヨン、イ・サンギュ、キム・ミフィ、オ・ビョンユン、キム・ソンドンなどは同組織と直間接的に関係を持っていた人物であり、イ・ジョンフィ代表をはじめとする主要人物もそういう人物である。

彼らが実行したあらゆる不正、脱法行為は民主主義の名の下に隠された彼らの本性が、実は反民主・非民主に他ならなかったことを如実に証明した。また、従北かどうかを識別するリトマス試験紙といえる北朝鮮体制、3代世襲、主体思想などに関し、自身の明確な立場を隠したことで従北が何なのかを多くの人々に理解させた。

こうした彼らの活動が、2011年秋、北朝鮮が対南組織に下した「大統合新党を建設せよ」という指令と絶妙にも一致することが明らかとなってい。このことから、現在も彼らが北朝鮮と直接的な連携を持っているかは把握が難しいが、彼らの活動が北朝鮮とは完全に別枠で展開されていると

は言い難い。

結論的に言って、彼らの目標は、旧民労党の限界を乗り越え、ユ・シミンやチョン・ホソンなどの故盧武鉉大統領派の国民参与党系、シム・サンジョンやノ・フェチャン、チョ・スンスなどの進歩新党脱党派、そして民労総を基盤とするチョ・ジュノなどを結集させ、凡「進歩」の名の下に統合進歩党を結成して、4.11総選挙を通して国会に橋頭堡を確保した後、昨年12月の大統領選で民主党との連立政権を樹立することで政権に食い込もうとしたことである。しかし彼らのこうした狙いは、自分たちの正体が國中に露になることによって挫折した。

(一部中見出しほは、当研究所による)

以上

[著作権について](#)

[印刷](#)

2018年12月5日17時57分

ニュースNジョイ、主体思想派が韓国キリスト教界に植えた「細胞組織」 韓国メディアが報道

「教会改革口実にキリスト教界を扇動」疑惑を集中報道

クリスチヤン新聞編集顧問の根田祥一氏が編集長だった2004年、本紙に関する虚偽の情報を日本福音同盟（JEA）に提供した際、主な情報元となった韓国のキリスト教メディア「ニュースNジョイ」。その過激な論調だけでなく、鮮明な親北傾向が韓国のキリスト教界内でたびたび問題視されてきたが、このほど、さまざまな関係資料により、北朝鮮の朝鮮労働党の指導理念である「主体思想」を支持する韓国の政治運動「主体思想派」と密接に関係していることが浮き彫りになった。その実態を報じた韓国クリスチャントゥデイの記事（5日付）を紹介する。

*

数年前に北朝鮮を称賛鼓舞するキリスト教団体があるという主張が提起され、キリスト教界に大きな波紋を起こした。アン・ビョンマン牧師（列邦教会、前大韓イエス教長老会高神教団SFC指導委員長）が「青春（原題：一つしかない祖国のために）」という北朝鮮労働党の青年赤衛隊が歌う歌を何事もなかったかのごとく制止せず、クリスチヤン青年らが歌っている共同体がある」という主張をしたのだ。当時、彼はその団体の実名を挙げなかっただめ、これについてのさまざまな推測がなされたが、最近本紙が入手した資料を通してその正体が明らかになり、特にこの団体がニュースNジョイというキリスト教メディアと深く関連しているという事実も明らかになった。

어머니 당을 위한 노래, '청춘'을 부르는 기독 청년들에게

순수한 복음으로 돌아가자

안병만 승인 2016.05.19.06145 댓글 0



5.18 민주화 항쟁 기념대회를 하루 앞두고 '임을 위한 행진곡'을 기념 곡으로 정해야 되느냐 아니나를 두고 민주세력과 정부간 줄다리기를 하면서 결국 기념 곡으로 지정되지를 못했지만 합창을 할 수 있으되 제창은 하지 않는 쪽으로 결론이 났다. 노래 하나를 두고 되니 마니 하는 아념적 기싸움을 하고 있는 미당에 필자는 '청춘'이라는 북한 노동당 청년 적위대들이 부르는 노래를 아무런 제지나 여과 없이 기독청년들이 부르고 있는 공동체가 있다는 소식을 접하면서 혼란 속에 빠지게 되었다.

▲ 안병만 목사(열방교회, 고닷 운영위원
장, 종회 SPC지도 위원장)

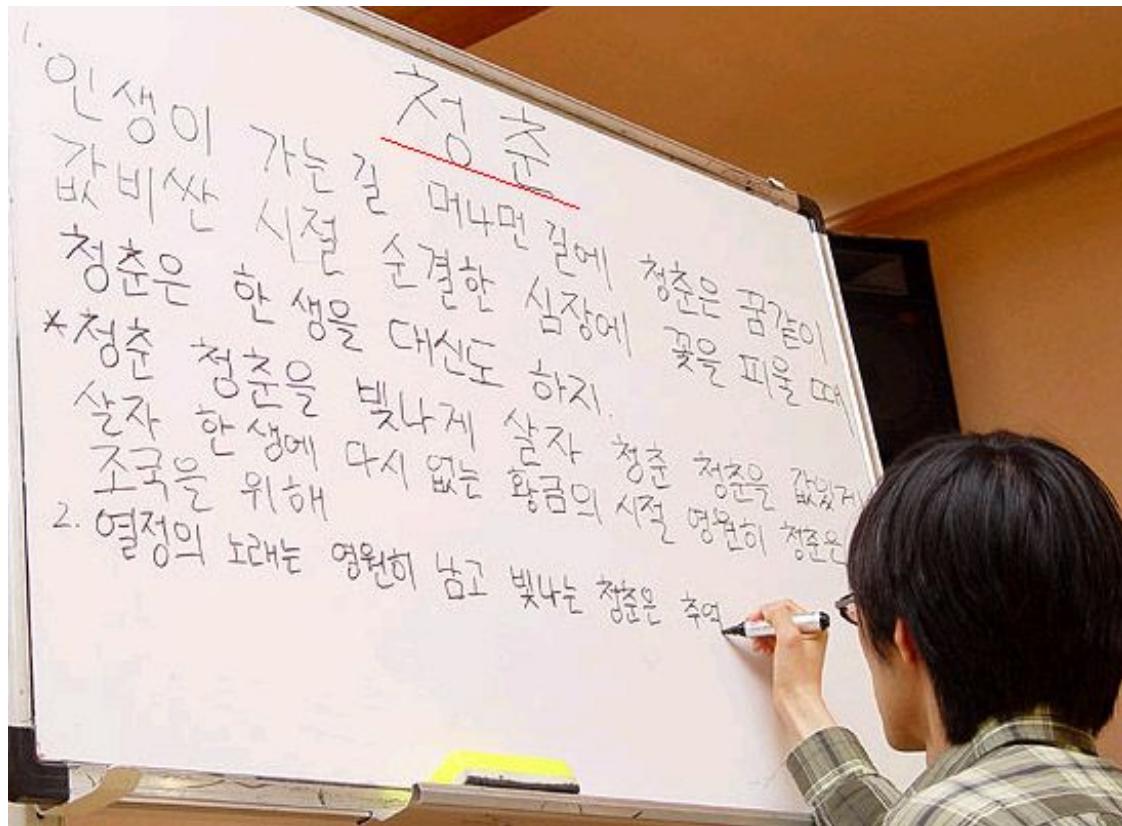


오늘의 주요뉴스

あるキリスト教メディアに掲載されたアン・ビヨンマン牧師の記事。「青春」がどのような歌なのかを一つ一つ告発している。この記事の原文はこちら（韓国語）。

十数年前、「教会改革」を旗印に発足した媒体「ニュースNジョイ（News N Joy）」についてはこれまで、過激な論調だけでなく、鮮明な親北と従北傾向が延々と物議を醸してきた。ところが、この媒体は単にこのような傾向を有することを超えて、主体思想派の民族解放（NL）戦線の勢力が、キリスト教への妨害と破壊を目的としてキリスト教界に植えた「細胞組織」との実態が関係資料から無数確認され、衝撃を与えている。特にキリスト教界ではニュースNジョイのこのような動きは、主体思想派が教会の改革を託されたとしてキリスト教で扇動を試みた事件であり、これに対して沈黙してはいけないという世論が高まっている。

この資料によると、ニュースNジョイ元・現職記者の多くは、「美しの村」という名称の共同体の出身者で、この共同体はどの従北左派組織よりも大胆でありながら露骨に主体思想と北朝鮮の体制について称賛し鼓舞する活動を続けている。



ニュースNジョイ元編集局長ジュ・ジェイル氏は、インターネットカフェに上の写真を掲載したことがある。写真の中で一人の青年が「青春」という題名で文を書いている。

(以下、上の写真にある文の日本語訳)

青春

1. 人生が行く道 遠い道のりに青春は夢のよう
高価な時代 純潔な心臓に花を咲かせるとき
青春は一生の代わりにもなります。
*青春 青春を輝かせて生きよう 青春 青春を価値あるように生きよう
一生に再びない黄金の時代 永遠に青春は
祖国のために
2. 情熱の歌は永遠に残り 輝く青春は思い出

この「美しの村」共同体の入所式において会員らが、金日成賛歌である「青春」を歌うことが分かった。アン牧師はこの曲について「青春を母なる党である労働党と金日成父子と北朝鮮の朝鮮人民民主主義共和国のために惜しみなくささげよう」という内容だと告発した。

この「美しの村」の中心人物として知られているチエ・チョルホ氏は、2005年1月1日、妻と一緒に訪朝した際に写真を撮影したが、当該写真には「21世紀の太陽、金正日將軍万歳」という文句が鮮明に見える。この写真は、「美しの村」のインターネットカフェに「21世紀の太陽、金正日將軍万歳！！ - チョルホ、OO」というタイトルで掲載された。チエ氏はニュースNジョイが設立した教育機関であるキリスト教青年アカデミー運営委員長と教育委員長などの要職を務めた。

「美しの村」の別のメンバーであるアン・キホン氏も2005年1月11日、いわゆる「金日成賛揚碑」の横で写真を撮影した。この賛揚碑は「偉大な首領金日成同志は1974年8月19日、ここで不屈の共産主義革命闘士金正淑女史と共に1947年9月28日、金剛山を訪れたその時を感慨深く振り返ってみて、女史の高潔な忠誠心に胸が熱くなったとおっしゃった」と書いてある。

제국주의자들이 펴들어마는 사회주의나라들에서의 이른바 <인권안락수>에 대하여 말한다면 사회주의 국가가 민주주의적 질서를 유관하고 사회주의제도를 파괴하려는 적대분자를과 불순분자를에게 제재를 가하는것은 민주주의의 원칙으로부터 민주주의를 지키기 위한 정당한 조치입니다. 제국주의자들이 올호하는 <인권>은 인민들의 인권이 아니라 인민의 원칙과의 인권이며 그들이 놔리는 <자유>는 인민들의 민주주의적 자유가 아니라 제국주의자들과 그 암살대를의 치외활동의 자유입니다.

우리 공산주의자들은 자신의 당성을 숨기지 않는것처럼 민주주의의 계급성도 숨기지 않습니다. 사회주의적 민주주의는 결코 사회주의를 반대하는 적대분자를과 인민의 권리와 협력하는 불순분자를에게까지 자유와 권리 주는 초계급적 민주주의 아닙니다. 로동자, 농민, 근로민족리를 비롯한 광범한 인민대중에게는 자유와 권리 보장을 하여주고 소수의 계급적 충족을 위하여 대하께서 체제를 가하는것에 비단 사회주의적 민주주의입니다.

우리는 사회생활의 모든 분야에서 계급적 투쟁과 혁명적 원칙을 틀튼히 지키며 인민의 권리와 협력을 확보하는 적대분자를과 불순분자를 출제하여 진압하여야 합니다. 특히 <인권옹호>의 관관일체 강화되고 있는 제국주의자들의 반공모략들에 단호한 반격을 가하여 사회주의적 민주주의를 험해하려는 은갖 시도들을 제거해 전부서로 견뎌야 합니다.

(김일성주석님, 인민정권을 더욱 강화하자, 1977.12.15)

「民主主義と人権の本質」というタイトルの内部文書の一部

さらに驚愕すべきことは「美しの村」では、露骨に「金正日將軍様」「金日成主席様」という表現を使用している点だ。特に「民主主義と人権の本質」というタイトルの内部文書は、金正日と金日成が言ったように見える内容を含んでいるが、そのうちの幾つかは、次の通りである。

「私たちは、社会生活のすべての分野で階級的立場と革命的原則をしっかりと守り、人民の利益を侵害する敵対分子と不純分子を徹底的に鎮圧しなければなりません。特に『人権擁護』の看板の下に敢行されている帝国主義者の反共謀略策動に断固とした反撃を加えながら、社会主义的民主主義を損なおうとするどんな試みも適時に粉碎し捨てなければなりません（金日成主席様、人民政権をさらに強化させよう 1977年12月15日）」

注目される部分は、前述したニュースNジョイの記者の多くが、この「美しの村」の出身という点だが、特に資料によると、彼らがニュースNジョイの記者として活動することになった背景には、自発的意志以上の「美しの村」の政策的・組織的な動きが見える。

함께 일하는 승규와 함께 <뉴스앤조이>가 우리 공동체를 비롯한 교회 내부의 개혁 세력의 전위 조직으로, 선동 조직으로 건실하게 서도록 활동할 것이다. 굽하고 조직하는 작업의 달인이 되고, 글과 신문으로 연대하는 운동기적 습속이 빠인 '꼰'이 되었으면 하는 바람이다.

지금은 '임시'라는 꼬리표가 끊었지만, 멀지 않은 미래에 나는 <뉴스앤조이> 편집 책임자가 될 것이다. 한국교회를 바라보는 안목이 더 넓고 깊어졌다는 뿐! 망한다.

ニュースNジョイ元編集局長ジユ・ジェイル氏が書いた文の一部。「ニュースNジョイは、私たちの共同体をはじめとする教会内部の改革勢力の前衛組織であり、扇動組織に堅実に立つように活動する」と

記している。この文で言及された「スンギュ」はイ・スンギュ C B S記者で、ニュースNジョイでも記者として働いていた。

1. 수련의 실패

을 향해 가장 부끄렀던 것은 몸과 마음의 수련을 꾸준히 하지 못한 점입니다.
살벌기의 생활이 새벽묘가수련을 중심으로 열격 훈련을 할 수 있었는데 하번기는 그러지 못했습니다. 뉴스앤조이 정책기획팀으로 파견되면서 새롭게 주어진 과제들과 기록할 날짜마다 데리고 놓고 지워하는 일들을 보주했습니다. 문주한 가운데에서도 그나마 긴장을 할 수 있었던 것은 그의 경력과 출신이 있었기 때문이었습니다. 스스로 열격 중심을 잡지 못하고, 질책과 견책을 통해 긴장을 유지하는 모습이 경직한 제 모습입니다.
내년에는 좀더 주체적이고 자발적인 수련자로 거듭나도록 노력하겠습니다.

アン・キホン氏が書いた文の一部。「ニュースNジョイ政策企画チームに派遣され、・・・」と記載されている。

ニュースNジョイ初代編集局長ジュー・ジェイル氏の場合、2007年9月6日、「ニュースNジョイは、私たちの共同体をはじめとする教会内部の改革勢力の前衛組織であり、扇動組織に堅実に立つよう活動する」とし「今は『一時的』という札が付いたが、そう遠くない将来、私はニュースNジョイ編集責任者になる」と書いた。アン・キホン氏も2004年5月31日、「派遣と去ることの交差、ニュジョ（ニュースNジョイの略）に派遣されることとなつた」と書いた。ニュースNジョイで勤務することになったことを「派遣」と自ら明らかにしたものだ。

上記の人物らに関して、金剛山統一紀行公示文には、訪問者リストが記載されているが、その中に10人余りのニュースNジョイ記者と従業員らの名前もある。この金剛山旅行公示文には、「私たちの戦闘は、結局は思想戦です。主体的な思想闘争を通して！統一の課業を成し遂げるその日まで求め続ける必要があります」と明かしている。福音による統一ではなく、主体的な思想を通じた統一という異質な主張をしているのだ。当時は、当該告知に対するいかなる反発も反対意見もなかった。

また、過去ニュースNジョイ記者だったイ・スンギュ氏もこの「美しの村」の出身で、この媒体で中枢的役割をしてきて、数年前にC B Sに転職した。彼の離職も「美しの村」の「派遣」だったのか、それもやはり「美しの村」の思想的影響を受けたのか、憶測を呼んでいる。

「美しの村」から見える親北と従北傾向は、ニュースNジョイの報道においても濾過されることはなく表れている。特にイ・スンギュ氏は、過去ニュースNジョイ記者在職時代、北朝鮮の核実験によって全国民が不安に陥っていた当時に電撃訪朝し、「私たちが同族に核を擊つことは決してあり得ない」というタイトルで、まるで北朝鮮当局を代弁するような記事を掲載し、大きな懸念と反発を買うことになった。

この他にもニュースNジョイは全般的にキリスト教に向けては、過酷なほど鋭い定規を突きつけ紛争と葛藤に焦点を合わせるが、北朝鮮の世襲独裁政権については、限りなく穏やかで寛容な報道態度を見せている。

ニュースNジョイは長老会神学大学校のキム・チヨルホン教授に対しても継続的に批判報道をしてきたが、キム教授は「運動圏」出身だが転向した後、社会に浸透している主体思想派組織

を辛辣（しんらつ）に批判し、警戒を呼び掛けている人物である。

一方、ニュースNジョイの報道で悔しい被害を受けたという教会の牧師と信徒らは、このように従北傾向を持つニュースNジョイが長い間キリスト教界に対して攻撃的記事を継続的に掲載してきたという事実に対し、大きな怒りを持っている。ニュースNジョイの指導層と運営実態について多くの情報提供が本紙に寄せられているが、その中にはヤン・ジョン・ジゴン前編集局長が主体思想派の一員であり、国家保安法違反の疑いで解散した統合進歩党の前身である民主労働党所属だったという衝撃的内容もある。ここに本紙は、その内容についてより詳細な事実確認を経て、深層報道を続ける計画だ。

[次回へ>>](#)

[印刷](#)

2018年12月6日14時28分

ニュースNジョイ前編集局長は「N L」、現局長は「幽霊会員」と力ミングアウト

「教会改革口実にキリスト教界を扇動」疑惑集中報道（2）

クリスチヤン新聞編集顧問の根田祥一氏が編集長だった2004年、本紙に関する虚偽の情報を日本福音同盟（JEA）に提供した際、主な情報元となった韓国のキリスト教メディア「ニュースNジョイ」。その過激な論調だけでなく、鮮明な親北傾向が韓国のキリスト教界内でたびたび問題視されてきたが、このほど、さまざまな関係資料により、北朝鮮の朝鮮労働党の指導理念である「主体思想」を支持する韓国の中政治運動「主体思想派」と密接に関係していることが浮き彫りになった。さらに、ニュースNジョイの指導者が自身の政治的アイデンティーを告白した際の衝撃的な内容が明らかになった。韓国クリスチャントゥデイによる集中報道第2回（6日付）を紹介する。（前回の記事は[こちら](#)）

*

本紙は5日付の記事で、「教会改革」の旗印を掲げてきた媒体「ニュースNジョイ（News N Joy）」が、実際は主体思想に追従する組織「美しの村」という名の共同体によって、キリスト教への妨害と破壊を目的として韓国キリスト教界に植えられた「細胞組織」との実態を告発した。

しかしニュースNジョイは、このような記事の内容についてまったく反論を提示できずにいる。グ・ゴンヒョ現編集局長は、ニュースNジョイが現在の「美しの村」と何の関係もないかのようなとんでもない的外れな回答をして焦点を曇らせ、煙に巻こうとしたが、ニュースNジョイの関連機関「キリスト教青年アカデミー」には、相変わらずこの「美しの村」の関係者らが主な人事に参与しており、この団体が8日に開催するイベントには、「美しの村」代表のチエ・チョルホ牧師がパネリストとして参加し、ニュースNジョイ出身者の大多数が製作に携わる「美しの村」の新聞の情報をキリスト教青年アカデミーで告知するなど、彼らはいまだに密着した歩みを見せている。

한국교회를 깨우는
독립언론

“뉴스앤조이의 길동무가 되어주세요.”

뉴스앤조이



1년 이전 기사를 검색하기 원하시면 [\[매장\]](#)을 눌러 주세요.

전체 교회 사회 이단 영상 가짜뉴스 팩트체크



ニュースNジョイのホームページ上部に掲載された紹介バナーには「道連れ」（赤下線付きの部分）という言葉が目立つ。同メディアは、他の文書などでも「道連れ」という表現をスローガンのように多く使用するが、これはまた、北朝鮮赤衛隊が体制を称賛鼓舞する歌「青春」に登場する歌詞「偉勲は青春の親しい道連れ」から取ったものか、憶測を呼んでいる。参考記事（韓国語）はこちら。（画像：ニュースNジョイホームページのスクリーンショット）

また、ニュースNジョイと「美しの村」から見えてきた主体思想派の傾向は、その程度で適当にごまかせるレベルではない。さらに、ニュースNジョイと「美しの村」はこれまで一度も、自分たちが見せてきた主体思想派性向について認めたり、反省してこれを非難したりする立場を公式に発表したことがない。

まず、ニュースNジョイのヤン・ジョン・ジゴン前編集局長が自らN L（民族解放民主主義革命派）というアイデンティティーを率直に表した文章を見てみよう。この文章を通して、本紙が以前の記事で述べた通り、ニュースNジョイ前編集局長が主体思想派の一員であり、内乱扇動などの容疑で解散した統合進歩党の前身である民主労働党所属であったという情報提供が事実と確認された。本紙は、ニュースNジョイに関連してこれまで入手した資料を検討する過程でこの事実を発見した。



양정지건
2012년 5월 10일 ·

옛사랑에 대한 글.

1. 시작은 1997년. 처음 이름은 "국민승리21"이었다. 2000년, 내 사랑은 민주노동당이라는 이름으로 세상에 나왔다. 그 때 당원이 되었다.
2. 2004년 난 당에 대한 애정을 그만 두기로 마음 먹었다. 당시 쓴 거친 나의 글. 난 스스로 NL이라 생각했는데 민노당 안에선 PD 같았다.
3. 2007년 대선 정국에서 애정은 없지만 옛정으로 보내던 당비를 끊었다. 법적으로 탈당 처리된 것이다. 사회당에 마음 가기 시작했지만 옛사랑처럼 뜨겁게 타오르진 않았다.
4. 현실 정당 안에 계파가 존재하는 건 당연한 일이다. 현재 통합진보당 안의 계파는 통합민주당의 친노니 친DJ니 하는 계파보다 훨씬 건강하다. 오직 집권 가능성만 보고 이합집산하는 새누리당 계파와는 비교도 안 된다.
5. 비례대표를 경선으로 뽑는 것 역시 보스가 점지하는 방식의 기준 정당에 비해 훨씬 민주적이다. 조중동이 핏대 올리며 물어 놓지만 그들이 지지하는 새누리당 그네 누님은 경선 없이 지목하셨다.

ニュースNジョイ前編集局長ヤン・ジョン・ジゴン氏のフェイスブックの投稿。「私は自分がNLだと思っていたのに民主労働党の中ではPDみたいだった」という内容が特に目立つ。（画像：フェイスブックのスクリーンショット）

ニュースNジョイのヤン・ジョン・ジゴン前編集局長は、2012年に自身のSNSに掲載した「昔の恋人への手紙」という題の記事で「2000年。私の愛は、民主労働党という名前で世に出てきた。その際、党員になった」と明らかにした。彼はまた、自身が数年後に、民主労働党への愛情を断って離党までしたと告白しながらも、その後進である統合進歩党について「現実の政党の中の派閥よりもはるかに健康である」「既存の政党に比べてはるかに民主的である」と肯定的な評価を示した。

統合進歩党は、1997年に国民勝利21という名称で始まり、以後民主労働党時代を経た後、三者合同を通して2012年から統合進歩党という名称で活動してきて、2014年に最終解散となった。国民勝利21の時点から解散当時まで主体思想派NL系列が主導的に参加し、従北論争が絶えなかった。ヤン・ジョン・ジゴン前編集局長は、2000年初めと中盤にニュースNジョイ記者として活動しており、後にニュースNジョイを辞め、その関連機関「大いなる光の世界（ハンビッノリ）」の事務局長を務めたりもした。2016年の初めにニュースNジョイ編集局長に復帰したが、2017年の初め、再び辞めたように見える。

ヤン・ジョン・ジゴン前編集局長は、民主労働党への愛情が冷めるようになった決定的な理由を書いた文で「脱北者の人権」問題についての見解の違いを指摘しつつも、その最も根本的な原因である北朝鮮の政権と体制の問題点については一切口を閉ざした。ヤン・ジョン氏はま

た、ＳＮＳを介して「私は自分がＮＬだと思っていたのに民主労働党の中ではＰＤ（民衆民主革命派）みたいだった」と述べた。

ヤン・ジョン氏は2015年のＳＮＳ投稿で、白頭山を「革命の聖山」と呼ぶこともした。この表現は、白頭山を金日成のいわゆる革命の歴史が始まった山と見ており、金氏一家を「白頭血統」と呼んだことによる。

金日成崇拜が疑似宗教化した主体思想が、北朝鮮のすべての領域と分野で絶対的超法規的な権威を持ったことは周知の事実である。どんな人も、理念も、組織、権威もが主体思想に逆らつては、北朝鮮社会の中で存在できない。キリスト教の信仰も同様で、北朝鮮はオープン・ドアーズが選ぶ世界最悪のクリスチャン迫害国として2002年から2018年まで悪名を連ねている。

ところで、このような北朝鮮の反教会的な、金日成の主体思想と独裁体制を信奉する主体思想派でありながら、同時に自らをクリスチヤンだと主張する勢力の信仰アイデンティティーは何であり、彼らが「教会改革」を叫ぶとすれば、その理由と実体は何なのか？これに対してあるキリスト教界関係者は、北朝鮮が大韓民国赤化の最大の障害を韓国教会であると見ており、これを打破することに重点を置いていると指摘した。実際多くの教会が、ニュースNジョイのためにむしろ教会の対立が酷くなり、宣教にとって障害になっていると訴えている。



뉴스앤조이

2015년 10월 18일 · ●

...

안녕하세요, <뉴스앤조이> 구권효 기자입니다. '왜 작은 교회인가' 기획 두 번째 연재 기사는, 제가 쓴 작은 교회 박람회 참관기입니다. 우리끼리니까 얘기하는 건데요. 저 사실 가나안 성도입니다.

ニュースNジョイ編集局長グ・ゴンヒョ氏がフェイスブックに自分自身を「幽霊会員」だと明らかにした投稿。（画像：フェイスブックのスクリーンショット）

구권호
@mastaqu
뭐든 배울 나이잖아~
가입일: 2010년 11월

트윗	팔로잉	팔로워	마음에 들어요	리스트
343	45	92	3	1

트윗 **트윗과 답글** **미디어**

구권호 @mastaqu · 2016년 3월 17일
Huawei Y6 Quiz event!! huaweievent.co.kr/huawei_y6_quiz/

구권호 @mastaqu · 2012년 3월 20일
탈북 문제는 남북 교류로 해결해야

ニュースNジョイ編集局長グ・グォンヒヨ氏のツイッター。中指を立てる姿をプロフィール写真に設定している。（画像：ツイッターのスクリーンショット）

特にソウルA教会B牧師は、自身の教会にある副牧師がいたが、この副牧師がいつからか「美しいの村」共同体に入ってしまい、教会の青年たちをキリスト青年アカデミーに連れていくようになり、以後、その青年が教会内で多くの混乱を起こし、200人余りに上った青年部がほぼ瓦解（がかい）されるまでに至ったと主張した。あいにくニュースNジョイ現職のグ・グォンヒヨ編集局長（前「福音と状況」記者）は当時、その教会の青年部リーダーだったという。

キリスト教青年アカデミーは、ニュースNジョイが設立した教育機関で、「美しいの村」代表のチエ・チヨルホ牧師が運営委員長、教育委員長を務めた。「美しいの村」所属のアカデミー講師は6・25戦争を「統一戦争」と説明するなど、非常に過激で偏向的な思想を表した。

ニュースNジョイのグ・グォンヒヨ編集局長は2015年、自ら現在教会に通っていないと誇らしげに発言した。彼は当時ニュースNジョイのフェイスブックに掲載したコメントで「内輪同士だから話すのですが。私、実は幽霊会員（カナアン信徒、가나안성도）です」と述べた。ここで、カナアンは「アンカダ（안 나가、直訳すると『行かない』）」を逆に書いたもので、クリスチヤンを自任するが教会に行かない人を呼ぶ用語だ。教会も通わない人が、キリスト教の記者を自任し、教会を改革するというのは理屈が通らない。

あるキリスト教界関係者は、このようなニュースNジョイの歩みについて「神と金日成の両方に仕えることはできない」とし「言論の自由という美名の下、主体思想派の世界観を持って教会を翻弄してはいけない。ニュースNジョイが教会の改革を叫ぶには、まず、これまで見せてきた主体思想派性向について公に徹底的断絶をし悔い改めなければならない」と述べた。

<<前回へ

次回へ>>

印刷

2018年12月7日22時54分

ニュースNジョイ関連の主体思想派団体関係者、韓国軍工作摘発され処罰

「教会改革口実にキリスト教界を扇動」疑惑集中報道（3）

クリスチヤン新聞編集顧問の根田祥一氏が編集長だった2004年、本紙に関する虚偽の情報を日本福音同盟（JEA）に提供した際、主な情報元となった韓国のキリスト教メディア「ニュースNジョイ」。その過激な論調だけでなく、鮮明な親北傾向が韓国のキリスト教界内でたびたび問題視されてきたが、このほど、さまざまな関係資料により、北朝鮮の朝鮮労働党の指導理念である「主体思想」を支持する韓国の政治運動「主体思想派」と密接に関係していることが浮き彫りになった。韓国クリスチャントゥディによる集中報道第3回（7日付）を紹介する。（前回の記事は[こちら](#)）

*

ニュースNジョイと深く関連した主体思想派民族解放戦線（NL）性向の団体「美しの村」共同体の人物が、韓国の軍隊内部で思想工作を繰り広げて摘発され、処罰された事件があったことが確認された。

[단독] 장교·사병 7~8명, 김정일 父子에 충성맹세

조선일보 | 김형원 기자

입력 2011.05.30 03:06 | 수정 2011.05.30 04:11

從北카페(사이버민족방위사령부) 가입한 장병 70여명 내사
일부 "명의도용 당해"



영관급 장교를 포함한 육·해·공군 현역 장교와 사병 70명 정도가 인터넷 종북(從北)카페 '사이버민족방위사령부'에 가입한 것으로 드러났다. 이들 중 공군 중위 강모(29)씨와 육군 소위 박모(23)씨 등 장교 2명과 사병 5~6명은 김정일·김정은 부자(父子)에게 바치는 '충성맹세문'까지 작성한 것으로 확인됐다.

朝鮮日報が当時単独で報道した記事（画像：朝鮮日報のスクリーンショット）

朝鮮日報は2011年、将校を含む陸・海・空軍の現役の将校と兵士70人ほどがインターネット従北カフェ「サイバー民族防衛司令部」に登録し、その一部は金正日・金正恩親子にささげる忠誠宣誓文まで作成した事件を単独報道して大きな波紋を呼んだ（記事〔韓国語〕はこちら）。

ところが本紙は、最近入手した「美しの村」の関連資料を逆追跡した結果、この事件の実体が明らかになった過程の全貌を把握することになった。これは「美しの村」のメンバーが主体思想派の思想を、国家安全保障を担当する軍隊内部でも韓米連合司令部にまで広めたことが摘発され、現役軍人を対象にした大々的な国家保安法違反の疑いで捜査が行われたものだった。

資料によると、「美しの村」のメンバーが軍にまで主体思想派の理念を伝えた歩みは、最終的に「美しの村」の影響によるものと思われる。本紙が報道したニュースNジョイと「美しの村」の深刻な主体思想派の思想が、国家の根幹を脅かすほどであることが、当局の捜査結果を通して実証されたのだ。

2011年の「美しの村」のメンバーであり、韓米連合司令部で約10年間勤務していたソル某氏は、国家保安法違反の容疑で韓国軍機務司令部によって押収搜索と調査を受けた後、拘束起訴された。ソル氏は教会のホームページに掲載した自己紹介文で、「美しの村」代表のチエ・チョルホ牧師が担任牧師だった時代にチエ牧師と初めて会っており、彼との交わりを通して「美しの村」に参与したと明らかにした。

また、他の「美しの村」のメンバーであり、海兵隊中尉だったキム某氏も2011年、国家保安法違反で処罰された。当時の機務司令部によるキム氏への家宅捜索の結果、不穏書籍と文書が多数発見され、キム氏は、同じ部隊の兵士ら10人と北朝鮮を称賛する会を作っていたことが分かった。

これに対して大韓イエス教長老会合同教団のある元総会長は、「現役で服務生活をし、『美しの村』共同体と一緒に生活していくとも従北行為を続けたという点、軍隊という閉鎖された空間においてまで他人に親北理念を伝播したという点、ソル某氏・キム某氏が『サイバー民族防衛司令部』のメンバーであるかどうかは明確に確認されていないが、その関連性に疑いがいく点などは、『美しの村』共同体のメンバーに親北意識、さらには従北意識がどれほど根強く埋め込まれているかをよく見せてくれたことだ」と指摘した。

この事件は、「美しの村」のメンバーが主体思想派の思想を単に自らの共同体の中で共有することを超えて、積極的に外に出て伝播してきたことを示唆している。これをきっかけに、キリスト教界内で大規模な調査を行い、主体思想派の思想を徹底的に取り除かなければならないとの世論が高まる見通しだ。現在本紙には、ニュースNジョイのキリスト青年アカデミーに参加した教会の青年部と宣教団体名簿、同課程修了者の所属教会、団体名簿などが情報提供されている。

北朝鮮人権運動の先頭に立ってきたあるキリスト教界関係者は、「キリスト教を徹底的に抹殺して、教会を破壊する金日成の主体思想を崇拜するということは、深刻な背教行為であり、その影響を受けた人々が教会の中に入ってきて福音メディアを自称して活動するということは、すさまじいキリスト教スキャンダルの事態」と指摘し、「ニュースNジョイと『美しの村』との関連性と、北朝鮮体制と主体思想に対する明確な立場表明を迅速にすることのできないのなら、結局自身らが主体思想派のキリスト教内の細胞組織であることを自認することになる」と述べた。

[<<前回へ](#) [次回へ>>](#)

[印刷](#)

2018年12月13日12時58分

ニュースNジョイ、これは会社なのか？

「教会改革口実にキリスト教界を扇動」疑惑集中報道（5）

クリスチヤン新聞編集顧問の根田祥一氏が編集長だった2004年、本紙に関する虚偽の情報を日本福音同盟（JEA）に提供した際、主な情報元となった韓国のキリスト教メディア「ニュースNジョイ」。その過激な論調だけでなく、鮮明な親北傾向が韓国のキリスト教界内でたびたび問題視されてきたが、このほど、さまざまな関係資料により、北朝鮮の朝鮮労働党の指導理念である「主体思想」を支持する韓国の政治運動「主体思想派」と密接に関係していることが浮き彫りになった。韓国クリスチャントゥデイによる集中報道第5回（11日付）を紹介する。（前回の記事はこちら）

*

会社法人と非営利事業体の姿が混在

ニュースNジョイの実体は何なのか、今年読者らが本紙にずっと問い合わせてきた質問の一つだ。ニュースNジョイはその間、変身に変身を重ねてきた。時には会社、時には社会団体、時には法人、時には個人事業体のようでもあり、その行方を追跡してみると迷宮に陥るしかない。

まずニュースNジョイは会社であることを標榜する。ホームページに自分たちは「会社」と、カン・ドヒョン氏を代表取締役でもない「代表」（またはオーナー）だと紹介するが、これは、ニュースNジョイが個人事業者の形態を取っているという意味だ。一方、ニュースNジョイが収益事業のために運営する「ジョイストア」には、ニュースNジョイが「法人」として紹介されている。



우)04626 서울 중구 퇴계로36가길 97 1층 뉴스앤조이 | 편집

사업자등록번호 : 101-82-66830 | 등록번호:서울아00275 |

Copyright © 2018 뉴스앤조이. All rights reserved. mail t

ニュースNジョイが非営利の任意団体と推定されるのに、自らを「会社」として紹介している。

「法人名（商号）」とされているニュースNジョイの収益事業の窓口。法人ニュースNジョイは2006年に解散したため、この名称は使用できない。

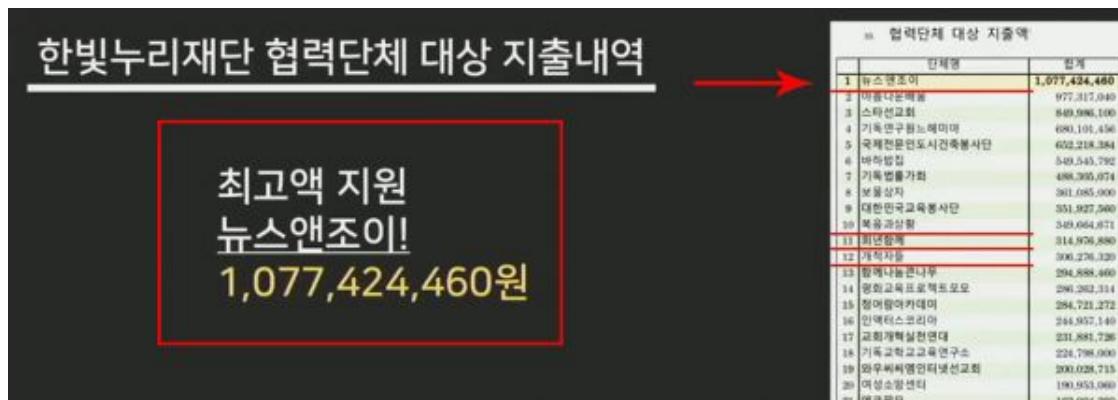
しかし、登記謄本上、法人ニュースNジョイはすでに2006年に解散した。現行法上、法人は一度解散した後には、同じ名前を使用できない。つまりニュースNジョイのサイトによると、既に解散した会社をこれまで12年間、通常の会社であるかのように紹介して運営してきた形となる。

また、公開された事業者の登録番号などを総合すると、ニュースNジョイは非営利任意団体に見える。ニュースNジョイの事業者登録番号の真ん中の桁は82であり、これは非営利団体であることを意味する。もちろん、非営利団体としても収益事業を行うことはできるが、果たしてそれにふさわしく基準に合致しているのか。これまた厳密に点検すべき問題だ。



ニュースNジョイのこれまでの主張を総合してみると、彼らの形態は、株式会社ニュースNジョイ→株式会社ジエンコミュニケーション→2006年3月株式会社解散→6ヶ月間会社の空白→2006年10月18日、インターネット新聞「eニュージョイ」と定期刊行物「ニュースNジョイ」→NGOハナヌリ（しかし目的事業に言論・出版はない）→非営利個人事業体ニュースNジョイなどで、多様に変身してきた。

税務の専門家らによると、そのような歩みの原因は、実際には非営利団体の形をとって後援と募金をやりやすくしながらも、表面上は会社として包装し、メディアとしての公共性を整えようとする試みに見えるという。



最近公開された、「大いなる光の世界」を通してニュースNジョイが受けた最近4年間の寄付額。ニュースNジョイは過去4年間「大いなる光の世界」の被支援団体の中で最も、そして圧倒的に多く、10億余ウォンの後援金を分配された。これはニュースNジョイ全体運営予算の中でも驚異的な割合を占めている。

実際ニュースNジョイは莫大な寄付金を受けている。最近、ある保守の人物が国内の主体思想追従者らの勢力に対して非難しつつ、ニュースNジョイ関連機関である（財）「大いなる光の世界（ハンビツノリ）」が韓国輸出入銀行、現代海上火災保険（株）、ハンファ投資証券など国内有数の企業と団体から寄付を受け、毎年約30億ウォンの寄付金と収益を得ていたという

事実を暴露した。特にこれによると、そのうちの過去4年間だけで10億ウォンを超える金額がニュースNジョイに流れている。被支援団体の中で最も、そして圧倒的に多い金額だ。

ニュースNジョイは以前にも曖昧で不明瞭な法的実体を見せて募金活動をしてきた。10年前の2008年、本紙はこれら内部の矛盾をすでに告発し、ニュースNジョイ後援読者たちが「募金詐欺劇」と強く抗議した。これに対してニュースNジョイは、謝罪文まで掲載しなければならなかった（関連記事リンク1・2・3 [いざれも韓国語]）。

ニュースNジョイはその事件以前から「非営利団体」を意味するNGOであることを掲げて後援を要請してきたし、新聞社を非営利団法人に変更すると言って、これを名目に数億ウォンを募金した事実も確認された。当時の代表であったバン・インソン牧師の「貧しい牧師が愛読者にささげる文」に触発されたこの事件で、バン代表は、本人を「かかし（訳注：名前だけの飾り）」として紹介し、「経営者が別にいた」と述べ、「創業記者」が経営まで引き受けていることを自ら告白した。メディアが健康な声を出すためには、経営と編集が分離されなければならないのだが、ニュースNジョイはそうではなかったということだ。

ここで、後援金口座が代表名ではなく、バン牧師が「創業記者」として紹介した当時編集局長であったイ・スンギュン氏の名義にされていたという事実が知らされ、ニュースNジョイはこれを釈明する「社告」まで掲載しなければならなかった。しかし、この釈明でニュースNジョイは、本人らがNGOではなく「個人企業」であることを結局自白した。彼らはこの事件が起きる以前に「営利を目的とする会社から運動を目的とするNGOに変身」「株式会社清算」などに言及して「NGO発足式」まで開いたが、これは読者を欺いた仕打ちだったのだ。

この釈明では特に、NGOと団法人設立のために受けた後援金で「これまでの財政赤字を埋めた」と自白した。しかし、彼らは「発足式」の記事で、「送ってくださった後援金をただ毎月発生する赤字を埋めるために使ってはならない」と述べていた。

これとともに、負債のために昔の株式会社を急いで清算しつつ、ニュースNジョイが再登録されるまで6ヶ月以上「会社がない状態」で新聞社を運営した。ニュースNジョイはこの期間、継続的に営業と取材活動を行っており、脱税疑惑が深刻に提起された。

さらに、当時NGOと団法人であることを詐称していたニュースNジョイは、税控除の恩恵を与えることができない個人事業体にも「所得控除」を掲げつつ、直接的な後援の代わりに「大いなる光の世界」を通じた後援を誘導した。また「税金控除の恩恵提供」としながら、口座の1つはすでに解散した会社名義であり、「定期後援」の案内口座は「創業記者」個人名義であった。

最近、ヘッジファンド派生商品トレーダーの前歴を持つカン・ドヒョン氏がニュースNジョイの社長に就任した点は、多くの人々に疑問を抱かせることとなった。資本主義を非難する人々

は、ヘッジファンド派生商品を資本主義経済体制の中に見られる最も極端な弊害の一つだと指摘するが、やはり反資本主義的な立場を示してきたニュースNジョイとカン代表の組み合わせは、何かぎこちなく見えたからだ。一方、彼が就任した後、ニュースNジョイがより会社らしい会社に生まれ変わるだろうというキリスト教界の一部の期待もあったが、現時点では、これまでの問題が適切に対処されていないものと思われる。

もう一つニュースNジョイの奇怪なアイデンティティーを最もよく示しているのがドメインである。ニュースNジョイは、インターネットを基盤とした新聞であるため、インターネット上のアドレスであるドメイン名は非常に重要だが、ニュースNジョイは通常営利団体が使う .co.kr や .com ではない非営利団体が使う .or.kr を代表ドメインに使っている。さらには .or.kr のドメイン名はすでにニュースNジョイから退社したキム・ジョンヒ元編集人が、.kr はニュースNジョイが、.co.kr はイム某氏という人物がそれぞれ所有している。

しかし、韓国インターネット振興院のドメイン名管理準則によると、.or.kr ドメインを営利目的で使用することは法律に抵触する。韓国インターネット振興院側は、このようなことが摘発された場合、まず証明の機会を与えた後、妥当性の可否を審査し、この如何によって使用停止や事前通報なしに抹消の制裁を下すこともあると明らかにした。

안녕하세요, 한국인터넷진흥원 도메인 주소관리팀입니다.

도메인이름관리준칙에서는 3단계 도메인 등록 자격 중 .or.kr 에 대해

비영리로 규정하고 있습니다.

예를 들어 설명하자면 영리기업이 ABC.or.kr 도메인을 등록하여,

이를 상업적으로 이용하는 경우, 도메인이름관리준칙 제4조에 반하는 것으로

도메인이름 말소에 관한 세칙 제6조(등록조건 및 등록기준을 준수하지 않는 경우)

에 따라 인터넷진흥원에서는 해당 도메인을 말소할 수 있습니다.

기타 궁금하신 사항은 (국번없이)118로 문의주시기 바랍니다.

감사합니다.

ドメイン名管理準則についての韓国インターネット振興院ドメインアドレス管理チームの説明。

ニュースNジョイはなぜ、会社であることを自認しながらも .co.kr ではなく、.or.kr ドメインを使用しているのか。これは2011年末、キル・チャヨン牧師（韓国基督教総連合会元代表

会長、大韓イエス教長老会合同教団元総会長）が自身の名義をニュースNジョイに盗用されたと主張していた事件に関連している。

ニュースNジョイが2000年6月と07年2月に登録して使用してきたドメイン名.co.krと.krは、キル・チャヨン牧師が発行人の「書籍の出版ワンソン」という名義になっていた。問題は、当事者であるキル・チャヨン牧師はこれについてまったく知らなかったこと。これは、ニュースNジョイ元発行人兼創設者のキム・ジョンヒ氏が過去にワンソン教会の執事であった時代、任意で登録して使って來たからと思われる。

これにより、キル牧師はニュースNジョイの記事によって法的責任を負うかもしれない状況に追い込まれただけではなく、政府関係者から「左派」との誤解も受けてきたという。一歩遅れてこの事実を知ったキル牧師は、これ以上の被害を防ぐための先行的措置として、ドメイン所有者の権利を行使してニュースNジョイのドメインを閉鎖した。名義を盗用して使用したドメインであった上に、本来の所有者がこれを閉鎖したにもかかわらず、ニュースNジョイはこれに対する一つの謝罪もせずに、自分たちのドメインのみ.or.krに変更し、タイトルもそのままニュースNジョイにして使用している。

本紙がこの問題を非常に深刻に注目する理由は、ニュースNジョイが韓国の多くの企業と教会から後援を受けているからである。特にニュースNジョイの運営資金のほとんどが「大いなる光の世界」を介して後援者たちに所得控除の恩恵を与えた後に得られたものだ。「大いなる光の世界」の固有目的事業紹介欄には、「50個ほどの小規模なNPO団体に公益的で宣教的な目的のために寄託された後援金30億以上の分配支援」という内容がある。

しかし、果たして「大いなる光の世界」を通して毎年数億ウォンの巨大な資金がニュースNジョイに流れることは「公益的で宣教的な目的」だと言えるのか？「大いなる光の世界」を介して後援した数多くの教会と団体は、このお金がニュースNジョイに流れ込むこと、そしてニュースNジョイの主体思想的背景と教会破壊的性向について知っていたのだろうか？おそらく純粋な目的のために後援した人々もまた、被害者ということができる。従って本紙は、これらの問題点を、これまで粘り強く追跡してきた財務の専門家チームの資料と協力を受けて深層報道していく。

[<<前回へ](#)

印刷

2018年12月9日08時34分

ニュースNジョイ関連団体は「キリスト教」か「首領教」か

「教会改革口実にキリスト教界を扇動」疑惑集中報道（4）

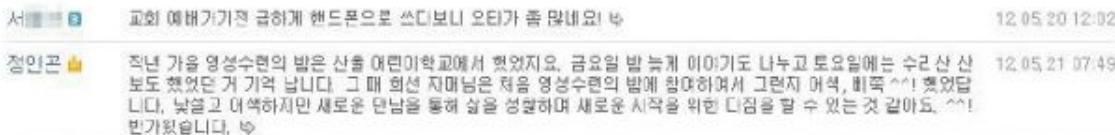
クリスチヤン新聞編集顧問の根田祥一氏が編集長だった2004年、本紙に関する虚偽の情報を日本福音同盟（JEA）に提供した際、主な情報元となつた韓国のキリスト教メディア「ニュースNジョイ」。その過激な論調だけでなく、鮮明な親北傾向が韓国のキリスト教界内でたびたび問題視されてきたが、このほど、さまざまな関係資料により、北朝鮮の朝鮮労働党の指導理念である「主体思想」を支持する韓国の政治運動「主体思想派」と密接に関係していることが浮き彫りになった。韓国クリスチャントゥデイによる集中報道第4回（8日付）を紹介する。（前回の記事は[こちら](#)）

*

本紙は、ニュースNジョイに関連する主体思想派性向の団体「美しの村」共同体が韓国軍にまで浸透し、思想工作として金日成を賛美鼓舞する活動を広げて処罰を受け、大きな波紋を呼んだ事件を7日に報道した。

ところが、彼らの大胆なまでの歩みは、大学街や教会青年部、宣教団体にまで伸びていた。資料によると、ニュースNジョイが広報を通して青年募集を助け、その青年たちにキリスト教青年アカデミーが教育を通して思想を植え付けた後、「美しの村」が共同体生活を通していわゆる革命戦士に育成し、そのうちの幾人かをニュースNジョイに「派遣」するという方式の有機的な活動を進めてきたものと見られる。

늦은산에 놀라갔다 모면서 인촌간사님과 대화로 약간 마을 소개를 듣게 되었고 호기심이 미냥 생겼죠
아.. 그 이후로 기독교 세계관 강의 6개월과정에서 고된 훈련 뒤 봄 영성수련의 밤에 갔던거지요
모두들 유익한 그 밤에 함께어서 감사합니다! ?^



キリスト教青年アカデミーに参加した青年の一人ジョン・インゴン氏は「『美しの村』のことを聞いて好奇心が生じた」とのコメントを投稿したが、ニュースNジョイ元編集局長のジュ・ジェイル氏が「美しの村」の掲示板に投稿したコメントによると、ジョン氏は写真を撮るたびに「主体思想万歳」を叫ぶという。（画像：キリスト教青年アカデミーホームページのスクリーンショット）

キリスト教青年アカデミーは教会や宣教団体のメンバーを、北朝鮮を称賛する人々が集まった「美しの村」共同体に引き込む手段として活用されている。この過程では、「立てる土台（セウムト）」と呼ばれる集団を使った戦略的な取り込み方式もあることが確認された。

情報提供者はこの「セウムト」について、「人々をすぐに『美しの村』に引き込むことはできないから、『セウムト』を通して共同体生活をさせた後、『より具体化された共同体があるので行ってみよう』というふうに接近するものと見られる」と述べた。

The screenshot shows a news article from 'NewsNJoy' (ニュースNジョイ) dated August 26, 2009. The headline reads '기독 청년들의 '강정마을 알리기' 캠페인' (Christian youth's 'Introducing Gwangjungmaeul' campaign). Below the headline, it says '기독청년아카데미-SFC 제주도 평화 기행팀' (Christian Youth Academy-SFC Jeju Island Peace Travel Team). The article includes a photo of two young people at an outdoor event, one holding a brochure titled 'Gwangjungmaeul'.

キリスト教青年アカデミーとSFCが共催した「クリスチャン青年たちの『キリスト教青年アカデミーを知る』キャンペーン」を推進したニュースNジョイ（画像：ニュースNジョイオンライン記事のスクリーンショット）

これにより、特に保守教団の大韓イエス教長老会高神教団の宣教団体SFCが大きな内紛を経験した。SFCは過去に、キリスト教青年アカデミーと済州（チェジュ）島の江汀（カンジョン）村で「美しの村」のイベントを開いたり、キリスト教青年アカデミーのイベント開催時には会場を提供したりしていたほか、2008年には修養会の講師として「美しの村」代表のチエ・チョルホ牧師を招くなど、密接な関わりを持っていた。

このことがSFC内で議論を呼ぶことになり、高神教団は「美しの村」から脱退するよう勧告した後、応じない幹事らを辞任させた。高神教団は「美しの村」について、「民衆神学を土台にした自由主義的聖書解釈をする傾向がある」と指摘し、「また、従来の教会の職制を無視

し、素人が持ち回りで説教するなど、ウェストミンスター信仰告白書で規定する普遍的教会の姿ではない」（2017年第67回総会報告書）としている。

当事者の一人であったパク某氏は、過去に「美しの村」のホームページに掲載した感想文で「6年前に初めて『福音と状況』と出会い、ニュースNジョイと出会い、キリスト教青年アカデミーと出会い、『美しの村』共同体と出会い・・・これらの出来事がよく系列化されていつている気がします」とし、このような教育を通じた自身の変化を「第2の回心」と呼んだ。

정확도▼ 댓글수▼	제목	글쓴이	작성일
	안녕하세요. ^_^ [14]	 박	06.08.29
	제2의 회심'이라고 표현하고 싶습니다. 6년 전에 처음 폭음과 살황을 만나고, 뉴스엔조이를 만나고, 기독청년아카데미와 만나고, 아름다운마을공동체와 만나고... 이런 사건들이 잘 계열화되어가고 있다는 생각이...		
	계시판:화글화글		

パク某氏が、過去に「美しの村」のホームページに掲載した感想文。（画像：掲示板のスクリーンショット）

パク某氏が述べた「第2の回心」とはいったい何なのか？過去に左派陣営にいたが転向した長老会神学大学校のキム・チヨルホン教授は、自身が共産主義に陥った経験を「政治的改宗」だったと表現したが、パク某氏が経験した「第2の回心」も同様の性格を持つものと思われる。キム教授は、当時の強烈だった瞬間にについて「私は共産主義者に生まれ変わった。共産革命のためなら私の命を喜んで差し出すことができ、革命のためなら死んでも光栄だと思うようになった」と述べた。

パク某氏はまた、キリスト教青年アカデミーに参加したときの感想文に「神に会って、私の考えが変化した場合、変化したという考え方通りに生きればいいのだが、考えが変わって信仰が変わったのに、なぜ私の人生は変わりないのだろうか。韓国の教会が常に抱えている質問」と述べ、「歴史はその原因を、帝国主義と分断、軍事政権時代を経て、徹底的に欺瞞的機会主義的だった教会を探している」と主張するなど、反米的性向も複数回示した。

パク某氏は高神教団の勧告を拒否して辞任したあと、現在の江原道洪川にある「美しの村」共同体で生活している。

そうであれば、これらの教えは何であり、本当にこれは「キリスト教の信仰」に符合するのか？本紙が入手した資料と、すでに報道した内容によると、彼らの信仰と教えは、北朝鮮の金日成を崇拜する疑似宗教に近い。ソウル大統一研究院のキム・ビョンロ教授は、疑似宗教化した北朝鮮の主体思想を「首領教」と表現した（訳注：北朝鮮では金日成のみに対する最高の敬称として「首領様」と呼称する）。この首領教は、キリスト教の救いを社会的・歴史的解放と

いう視点で解釈し、その延長線上に朝鮮民族の解放者は金日成であり、従って彼はすなわち救世主とする。このような解釈の中に、イエス・キリストの居場所はない。



노동이 곧 기도입니다



「美しの村」共同体代表のチエ・チョルホ牧師は「労働はすなわち祈り」とした。（画像：「Cチャンネル・マガジン・グッディ」映像のスクリーンショット）



「美しの村」共同体のホームページにある、いわゆる「食卓の祈り文」（右下の赤い囲みの中）。太陽、水、風、土、虫などの被造物に感謝するだけで、イエス・キリストと神の恵みへの感謝はまったく見つけることができない。（画像：「美しの村」ホームページのスクリーンショット）

혹시나 했는데..

"기초공동체"라는 용어는 해방신학에서 쓰는 용어로 알고 있는데..

그리고, 구성원의 수가 10~30명으로 이루어지는 것도 해방신학의 그것과 같고..

적극적인 참여를 통한 사회개혁을 도모하는 것도 그렇고..

카페 글들을 보다보니.. 해방신학과 같은 사상적 기반을 가지고 있거나 유사하다는 느낌을 받는데..

오랜동안 보수기독교 계열의 교회에서 생활했던 저로서는 상당히 생소하고.. 도.. 충직히 거부감이 드는데요.. 음..

예배중에 찬송가 대신에 민중가요를 부른다든지 하는 것은 가히 출격적이고..

요가까지..(요기는 요기를의 수행방법이 아닌가요?)

처음에 너무 좋아보였던 모임이었는데.. 정말 기독교적이고 성경적인 끗이 맞는지 걱정이 됩니다..

해방신학이나 민중신학과 같은 사실적 기반을 가진군이라 보면 되겠습니까?

질문이 너무 친설적이어서 기분이 상하지 않으셨나 모르겠습니다.

댓글 1개



온라인에서 질문이 으고 가는 것보다 연락을 한번 주시는 게 디 격렬할 듯합니다. 저는 김동언입니다.

「美しの村」の信仰方式に疑問を提起する掲示板へのコメント。礼拝中に賛美歌の代わりに民衆歌謡を歌い、ヨガまですると問題提起したが、キム・ドンオンという人物がこれを否認もせず個別に連絡をくださいとコメントをつけた。このキム・ドンオン氏はニュースNジョイの元記者だ。（画像：「美しの村」ホームページのスクリーンショット）

「美しの村」代表のチエ・チヨルホ牧師は「Cチャンネル・マガジン・グッディ」とのインタビューで、「労働はすなわち祈り」とした。「美しの村」の食事の祈りは、神とイエス・キリストの恵みではなく、空や土、虫などにのみ感謝しており、礼拝の時は賛美ではなく、民衆歌謡を歌うこともある。

もちろん工キュメニカルなキリスト教にも民衆神学と伝統神学が存在するが、「美しの村」などの行動は、そのカテゴリもはるかに超えている。ニュースNジョイがいう「教会改革」も、改革派教会信仰がいう改革とはまったく違う。

뉴스앤조이

<뉴스앤조이> <복음과 상황>, 또 변신 시도

기사 원고료 주기

천재 2005-11-01 15:52:36

아가방 2005-11-01 07:27:24

언젠가 통일에 관한 아카데미를 신청해서 한강좌들어본 적이 있습니다. 성균관대 앞에서 열죠. 대여섯명의 대학생들이 모여 듣고 있던데, 북한 찬양 일색이었습니다. 마치 대학교때 NL 아이들 주제사상 천이 가의 흥 막한 벙견처럼 생각이 되었습니다. 북한에 대한 문제제기나 비판등에 관해 좀 말할해하면서 다른 강의를 들으라는 요청을 받았습니다. 인도하시는 분이 좀 부담을 느꼈던가 봅니다.

그런 통일 강의 그런 북한에 관한 이해 좀 안했으면 좋습니다. 기독청년 아카데미가 아니라 우수운 운동권 퍼즐같았습니다. 좀 질적으로 도약했으면 좋습니다. 속내

답글 0

추천 0

반대 0

過去にニュースNジョイの記事に掲載されたコメント。「いつか統一についてアカデミーを申請して1つの講座を聞いたことがあります。・・・北朝鮮賛美一色でした。まるで大学の時、N L（民族解放民

主主義革命派）の子たちの主体思想賛美歌の、ちょっと弱いバージョンのように思われました。北朝鮮に対する問題提起や批判などについてちょっと戸惑いながら、他の講義を聞きなさいという要請を受けました。そんな統一講義、そんな北朝鮮に関しての理解をちょっとしないでほしいです。キリスト教青年アカデミーではなく、おかしな運動圏のサークルのようでした」という内容だ。（画像：ニュースNジョイコメント掲示板のスクリーンショット）

「美しの村」では、北朝鮮赤衛隊の「青春（原題：一つしかない祖国のために）」という歌を歌うという。彼らが大声で叫ぶ「一つの祖国」は、神の国なのか、大韓民国なのか、そうでなければ金日成の主体思想に立脚した北朝鮮なのか。

神からは、世界中でイエス・キリストの御名のほかに、救われるべき名としてはどのような名も人間に与えられておらず、イエス・キリストと金日成への信仰は当然のことながら、絶対両立することはできない。従ってニュースNジョイ、キリスト教青年アカデミー、「美しの村」共同体、その他の関連団体は、これに対する立場を公式に明らかにしなければならない。



「美しの村」共同体のチエ・チョルホ代表は2005年1月1日、妻と一緒に訪朝した際に写真を撮影したが、当該写真には「21世紀の太陽、金正日將軍万歳」という文句が鮮明に見える。（画像：「美しの村」インターネット掲示板のスクリーンショット）

[<<前回へ](#) [次回へ>>](#)

[印刷](#)

2018年2月16日08時43分

根田祥一元編集長、本紙批判声明を背後で主導した疑い

日本基督教団の議長声明（1月27日付）が発表された。議長個人の名義で出された声明ではあるが、本紙に対して提起された疑惑について、発表前に本紙への問い合わせではなく、一方的に発表がなされた形だ。このような声明に対して多方面から疑問の声が上がっており、本件に関するさまざまな情報が本紙に寄せられている。

その1つが、クリスチャン新聞元編集長で現編集顧問の根田祥一氏が、同教団に対して情報提供しているというものだ。しかし、根田氏による情報は10年以上前のものとみられ、すでに数年の調査、法的な過程を通して、疑惑を裏付ける客観的な証拠とはなり得ないことが分かっている。それにもかかわらず、今回の声明はあたかも今年、新たな問題が見つかったかのような体裁で出された。

複数の情報提供者からは、根田氏が日本基督教団・統一原理問題全国連絡会に資料と称するものを持ち込み、複数の会合で発表したり、韓国の牧師とも連携したりして、声明発表の下準備をしたという話すら出ている。

既存のキリスト教界における権威（教権）に関わる少数に情報を持ち込むこと。密室会議を通して正規の意思決定プロセスを経ずに公文や声明を出させること。そして、声明などが出ると、客観的な第三者を装って自身の新聞でそれを報じること。これらは、2004年に日本福音同盟（JEA）を利用した事件から始まり、パターン化している手法に見える。

本紙社長の矢田喬大は、「信仰告白を通して明確に否定しているし、自分もそのようなことを信じていない。このように再三にわたって公に信仰告白として表明してきたにもかかわらず、その信仰告白を否定するのは、信教の自由を脅かす人権侵害かつ名誉毀損であり、会社からすれば教団の名を利用した他紙に対する言論の自由の侵害である」との立場を明らかにした。また、議長声明も事実に基づいたものではないと全面的に否認した。

議長の「個人声明」に関する情報の供給元が根田氏であるのか。根田氏が情報を歪曲または創作した事実はあるのか。調査報道する計画である。本紙は、根田氏が統一原理問題全国連絡会と共に競合紙となる本紙に対し、名誉毀損と営業妨害を行った事実が判明した場合、法的な責任を問うことも検討している。

[印刷](#)

2018年2月17日10時35分

根田祥一氏、本紙批判声明の情報提供者であることが明らかに

クリスチヤン新聞の根田祥一編集顧問が、本紙を批判する日本基督教団の議長声明に関与した疑いを報じてすぐ、同教団の統一原理問題全国連絡会（以下、連絡会）に関わる齋藤篤牧師（同教団深沢教会）は、フェイスブック上で「根田祥一氏が、これまでの取材や調査で得た情報や資料を提供してくださったのは事実」と認めた。事実であれば、根田氏の関与を連絡会自らが公に認め、事態が表面化したことになる。

一方、齋藤牧師は「背後で主導されたことは一度もありません」と主張。根田氏が情報提供したこと自体には問題がないとする認識を示した。しかし、ある弁護士の話によると、根田氏が本紙と競合関係にある新聞社の幹部である以上、連絡会が利害当事者の根田氏から情報提供を受けることは、「利益相反行為（Conflict of Interest）」となる可能性があるという。そのため、議長声明が根田氏の情報を基にして出されたのであれば、それは法理的に見て、声明が客観的、論理的な根拠を失ったことになる。

記事を受けての反応には、「新聞社の編集顧問なのに、なぜ情報を持ちながら自分の新聞で報じないのか」「報道によって事実の究明をすべきだ。それを、教団を通して何かをやろうとする意図が釈然としない。報道倫理に問題があるのではないか」などがあった。

根田氏は和光大学出身で、2014年にはキリスト教の新聞社の編集顧問として、日本共産党の機関紙「しんぶん赤旗」のインタビューに応じるなど、進歩的な人物だと知られている。このような人物が、他教団に競合紙を非難する情報を提供した動機が問われている。

教団が特定の言論との接触を禁止することは、深刻な言論の自由の侵害である。また、連絡会を用いて、一方の当事者からの情報をのみを用いて、もう一方の利害当事者を批判することは、不公平だとの声も上がっている。

[印刷](#)

2018年2月18日16時37分

根田祥一氏による「魔女狩り」騒動について

クリスチヤン新聞（2月16日付）のコラム「落ち穂」で、本紙に対する記事が掲載された。本紙に対して何かあれば、紙面を通して問題提起をすればよく、それには本紙も紙面で応じる。そうすれば読者が真偽を見極めるだろう。同コラムには「『来臨のキリスト』と信じさせているとの情報の確度が増した」とある。しかし一連の騒動は、信仰の弱い人を説得・懷柔し、被害に遭ったかのように思い込ませ、その上で、その証言を使ってあたかも今年新たな問題が出てきたかのように脚色し、騒ぎ立てているだけのように見える。

キリスト教において信仰告白は核心であるから、問題提起されるたび、本紙は明確に信仰告白を提示してきた。来臨のキリストなどの荒唐無稽な教理など信じていないと言う者に対し、「いや、あなたは本当は信じているはずだ」と主張したり、すでにイエス・キリストを信じているのに「イエス・キリストに立ち返るのを祈る」と言ったりを繰り返す姿勢には、あきれるしかない。

本紙は、SNSの規模だけを見てもクリスチヤン新聞の100倍のフォロワーを持つほどに成長したが、そのようなことから来る不安によるのか。創業以来16年にわたり読者の検証を受けてきたメディアに、このような魔女狩り騒動を再び起こすのは、そうするしかない切迫した理由があるのだろうか。

本紙従業員の声明についても扇動的な臭いがする。その声明に出ているように、これは日本基督教団の議長声明などを発端としたものであり、従業員たちが声明を出す前から、根田氏の動きがあったことが明らかになっているではないか。従業員たちは声明で、本紙社長と編集補佐（現副編集長）が会見を「拒否し続けた」としている。しかし、本紙は信仰告白をサイト上にも掲載しており、書面による送付も含め、すでに何度も提示してきたのであり、対応の方法について観点の違いがあっただけだ。

本紙は声明を出した幾人かの従業員だけで運営されているわけではない。他にも、役員や顧問、論説委員、翻訳者、コラムニスト、寄稿者、コンテンツ提供者など、多くの人々がいるのに、まるですべての従業員が問題提起しているかのように煽るのは、現実に合わない。

本紙の元編集長については、その時点ですでに契約は満了しており、本紙社長が「解雇すると言い渡し」た事実はなく、社長と副編集長以外「全員を解雇する予定」などとは一言も話して

いない。元編集長が社長不在の場で誤った情報を従業員たちに伝え、さらに従業員たちが役員に伝え、誤解が拡散した。そして、それが声明にまで記載されるに至った。

また声明に名を連ねた記者4人中2人はフリーランスで、営業1人は業務委託という契約だった。社外の騒ぎに負担を感じてか、先日役員とも会い、退職の意を表明した。本紙が彼らを強制的に退社させたとか、解雇したなどとする主張こそが「フェイクニュース」だ。根田氏にしてみれば、競合紙に問題が起こるのを望んでのことだろうが。

さらに、従業員声明については、社外の人物が作成に深く関与したという情報がある。事実であれば、大きな法的問題に飛び火する可能性がある。社外の何者かが、従業員声明が出るよう企て、従業員たちに教唆し、さらには草案自体を作成した可能性も出ており、現在調査を進めている。事実であれば、これは言論の自由を侵害する犯罪行為であり、一連の騒動の深刻さがここにある。

■ 創業以来サイト上に掲載し続けている本紙の信仰告白

[印刷](#)

2018年2月20日15時06分

根田祥一氏、言論破壊工作の「黒幕」であることが明らかに

本紙に対する言論破壊工作に関する数多くの情報が寄せられる中、本紙の記事（2月17日付）を受け、日本基督教団統一原理問題全国連絡会（以下、連絡会）に関わる齋藤篤牧師（同教団深沢教会）が同日、根田祥一氏（クリスチャン新聞編集顧問）と連絡会に関する新事実を明らかにした。根田氏が2016年9月に連絡会で講演したことが発端となり、本紙に対する「検証」を始めたという。根田氏は、議長声明の草案が議論されたとされる昨年10月の連絡会にも参加しており、根田氏がきっかけ作りから、議長声明に至るまで連絡会に関与し続けてきたことが明らかになった。

齋藤牧師は自身のフェイスブックに次のようにつづっている。

「根田祥一さんは、2016年9月1～2日にかけて開催された、日本基督教団統一原理問題全国連絡会で、クリスチャントゥデイについての講演をされました。（中略）その際に、クリスチャントゥデイについての情報を、裁判判決をはじめ、クリスチャン新聞などの記事を通して、わたしたちに情報提供してくださいました。わたしの申し上げる『情報提供』とはそのことです。ですから、根田氏が情報を提供してくださったということは、本当のことです。（中略）根田氏による講演がきっかけとなって、日本基督教団統一原理問題連絡会が、本格的な検証を始めたことは事実です」

齋藤牧師は、根田氏の情報提供が直接的に議長声明の作成につながったとする「飛躍した表現」としているが、連絡会が動き出す「きっかけ」が根田氏であったことは「事実」とはっきり認めた。

根田氏は、本紙が勝訴した2013年の裁判についても「引き分け」と歪曲して伝え、白を黒にするような行為を続けてきた。そして今回、裁判の判決を否定し、根田氏の主張のみ反映された議長声明まで出させた。

根田氏は、競合紙である本紙が統一協会と関係があるとする誤情報を04年に発して以来、10年以上にわたって本紙の破壊工作を続けているが、齋藤牧師はそれに加担しているといえそうだ。本紙従業員らに頻繁に接触し、本紙社長らの退任を求めた従業員声明には、齋藤牧師自身が草案作成を含め深く関与した疑いが出ている。これは明らかな営業妨害であり、齋藤牧師にはこの疑惑に対する明確な説明責任が問われている。

根田氏と共に謀し、従業員声明の作成に携わったとすれば、これこそ深刻な言論破壊工作であり、営業妨害だ。また、連絡会の名に泥を塗ることになる。さらに、議長声明についても齋藤牧師が主導したという疑惑があり、これについても説明を求めたい。

一連の言論破壊工作の「黒幕」といえる根田氏に対しても、説明責任が問われている。情報によると、根田氏自身も本紙従業員らに接触し、社長放逐の画策を教唆したとされている。競合紙の体制を覆そうとするクーデター的な画策をしていったのであれば、法的、倫理的観点から見ても言い訳のできない行為だ。

さらに根田氏は、教権を利用し、「日本のキリスト教会全体を敵に回す」などと脅迫して、本紙の役員たちに圧力をかけようとしていた。これが言論を破壊しようとする犯罪行為でなくして、何なのだろうか。今、「あなたがたが暗闇で言ったことはみな、明るみで聞かれ、奥の間で耳にささやいたことは、屋根の上で言い広められる」（ルカ12：3）の聖句が示す通りの局面が繰り広げられている。

本紙は根田氏に対し、異端捏造と言論破壊工作について公開的に謝罪するよう求める。さもなくば、すぐにでも法的責任を問わざるを得ない。

[印刷](#)

2018年3月5日20時48分

日本基督教団の議長声明に関する説明会について

日本基督教団統一原理問題全国連絡会は2月23日、日本キリスト教会館（東京都新宿区）で、同教団の総会議長名義で1月に発表された本紙などに関する声明についての説明会を開催した。クリスチャン新聞は3月11日号で、説明会の内容を詳報。事実誤認もあるが、本紙社長や副編集長の発言もある程度取り上げるなど、比較的中立な立場で伝えた。同紙の編集陣が正常化しつつある兆しともいえる。

今回、議長声明が出された契機について、連絡会側は説明会ではつきりと、同紙編集顧問の根田祥一氏による講演会（2016年9月）がきっかけだったと明らかにした。根田氏は、本紙に「疑惑」を持っているのであれば、日本基督教団のような大きな教団を利用して声明を出させるなど、教界の権力を利用するような方法を取るべきではない。ジャーナリストを自認するのであれば、紙面を通して訴えるべきだ。同紙は紙面で、本紙に説明責任を果たすよう伝えたので、本紙は以下の通り説明する。

裁判の結果について

クリスチャン新聞は説明会に関連して、13年に本紙が勝訴した民事訴訟について「引き分け」と伝えた同紙記事についても触れた。東京地裁は被告に対し、名誉毀損表現の削除と95万円の賠償金などの支払いを命じた。被告側は控訴を断念し、本紙の勝訴が確定したが、それを「引き分け」と解釈するのは無理がある。「引き分け」ならば、なぜ賠償金の支払いが命じられたのか。自身の主張に有利なものだけを針小棒大に伝える根田氏の報道は、キリスト教界を混乱させるもので、新しい疑惑をまた作り出そうとする意図しか感じられない。

説明会で提示された判決（東京地裁の判断）の要旨は以下の通りだ。

*

① 張在亨氏が再臨主であるかについては、K氏所有の「東京ソフィア教会における講義ノート」の内容から、その可能性があるものの、実際に張在亨氏が再臨主であると明確に記された部分はなく、張在亨氏が再臨主であることが教え込まれていたという客観的な証拠もない。

② ACM脱会者からのメールによる証言は、張在亨氏が再臨主であったことを示す記載があるものの、脱会者を名乗る人物が特定できることから、客観的な証拠とはなりえない。

③ 韓国基督教総連合会の異端対策委員会は、張在亨氏疑惑について「嫌疑なし」と結論し、それを世界福音同盟も追認していることから、張在亨氏が再臨主であるとの異端的教義が信奉され、教え込まれていることを認めるには不十分である。

*

このように明確な判決が出されているのに、なぜこれを蒸し返し、「再臨（来臨）のキリスト」などという疑惑提起を繰り返し、説明責任を果たせと求めるのか。裁判では幾つか「証拠」とされるものが提出されたが、いずれも「客観的な証拠」とは認められず、張氏を「再臨（来臨）のキリスト」などと信じる「キリスト教として同一の線に立つことはできない」信仰が教え込まれていたことは否定された。白は白であり、黒は黒だ。

それにもかかわらず、いまだにそれを言いふらすのは、司法判断を軽視、あるいは無視する行為だ。「説明する必要がない」と本紙が今まで取っていたスタンスは、「判決文を見よ」という意味である。この問題に関する説明は、今回が最後のものであり、再び繰り返しとなる疑惑提起をしないよう願う。

クリスチャン新聞にはその他、本紙がキリスト教メディアの世界的ネットワークの一部であることを問題視するような記述もあるが、その一体何が悪いのか。国境で隔てられることなく、主にあって1つの働きのために協力する。それは、多くのキリスト教団体がしていることだ。

「張在亨牧師グループ」という表現について

議長声明は、本紙などを「張在亨牧師グループ」とし、すべて一体であるかのように表現している。しかし、互いは同じキリスト教信仰という点では共通しているものの、それぞれは法人、また組織としてはまったく独立している。それを知りつつも「グループ」などと主張するのは、そのように言わなければ本紙を誹謗する理由を探せないため、貧弱な根拠を作つてそれにすがらざるを得ないからに他ならない。「張牧師グループ」などというものは存在しない架空のものだ。

クリスチャン新聞を発行するいのちのことば社も、スウェーデンの宣教の働きに端を発したものではないか。スウェーデンならよくて韓国はだめだとでもいうのだろうか。日本基督教団のある牧師は、今回の問題の根底に、韓国人宣教師が開拓した教会を色眼鏡で見る人種差別的な意識があるのではないかと指摘さえしている。

東京ソフィア教会は、張氏が当時代表を務めていた韓国の教団に所属する宣教師によって開拓された教会だが、それを「張牧師グループ」の教会とする認識自体が非常におかしい。「パウロが伝道したら、パウロの教会になるのだろうか。キリストの血によって贖（あがな）われた

教会が、なぜ『張牧師グループ』の教会になるのか。そうした発想自体が非聖書的だ」と、ある牧師は指摘している。

東京ソフィア教会とK氏のノートについて

東京ソフィア教会に問題があるから、同教会に通った人間が関与した新聞も問題だという理論は、すでに崩壊している。同教会で「キリスト教として同一の線に立つことはできない」信仰が教えられていたという「疑惑」については、ある「講義ノート」の記述が発端となった。しかし、ノートの持ち主であるK氏は、異端対策講義を記したものだったと述べ、明確にそれを否定している。裁判でも、ノートが「張氏が再臨主であることが教え込まれていたという客観的な証拠」にはならないと否定されており、疑惑はこの時点ですでに解消されている。また、当時同教会に通い、同じ講義を受けたという2人の存在も最近になって明らかになった。この2人も当時の講義内容を記録したノートを所有しており、訴訟時に証言者として出ていれば、さらに厳しい判決となつたに違いない。

東京ソフィア教会はかつて早稲田大学の近くにあったが、一連の嫌がらせのため閉鎖せざるを得ず、元信徒たちは早稲田奉仕園の一室を借りて主日礼拝を守るなど、あちこちに散らされた。しかし、疑惑が解消されたということで今年に入って再結成の動きも見られる。東京ソフィア教会に関する事柄で不明なことがあれば、今後は再結成された同教会に直接問い合わせるべきだ。同教会に関する問題をまるで本紙の問題であるかのように歪曲し、間違った印象を与えるようとしてはならない。

証言者Aさんについて

裁判の結果、「再臨（来臨）のキリスト」疑惑は否定されたが、連絡会は今回、約15年前に教会に通っていたというAさんを連れ出してきた。説明会では、Aさんと、連絡会に関係する牧師とみられる男性数人が登場するビデオが上映された。上映されたのは30分ほどに編集されたものだったが、Aさんが進んで証言したというよりは、インタビューを企画した人たちが意図を持って十数年前の信仰について話を聞く場面が展開した。

その証言によると、「張在亨牧師は来臨のキリストであるとの信仰に誘導する聖書講義」があったというが、これは主観的なものにすぎない。それが教会単位の信仰告白であったのか、あるいは個人がそのような雰囲気を経験しただけなのかが不明であり、個人の非常に主観的な証言だと見られる。

また、Aさんは本紙社長もそのような信仰を持っているだろうと話したが、他人の信仰を推論して述べるのは、客観性が欠如したものだ。こうした問題提起に関し、本紙社長はそれを明確に否定した。本紙社長は説明会で明確に正当なキリスト教信仰を告白しており、現在所属する

教会の牧師や信徒らがその証人だと語った。また本紙においても、2008年にこの問題に関する信仰告白を掲載した通りだ。

■ 本紙の信仰告白（2008年）

まず、Aさんが当時通っていたという教会の信徒が何人であったかを明らかにしてほしい。本紙が確認したところ、2、3人の開拓教会だったようだ。これが事実であれば、集団生活や組織的な無償労働などはあり得ない話になる。Aさんにインタビューした人たちは、当時信徒が何人いたのか、正確な事実確認から始めるべきだ。しかも、Aさんの夫はそのような信仰を持っていなかつたと、Aさん自身が手記で明らかにしている。これはどう説明するのか。

さらに説明会には、Aさんと同じ教会に通い、同じ聖書講義を受けていたという女性のBさんも参加した。Bさんは、Aさんが苦労していたことは知っていたとしつつも、Aさんが非正統的な信仰を持っていたことはこの日初めて知ったと言い、自身はそのような信仰は持っていないと否定した。

当時2、3人の教会で、そのうち1人が否定したとすれば、Aさんの証言に大きな疑問符が付く。たとえ、Aさん個人が誤った認識を主観的に持っていたとしても、関係する教会全体がそのような信仰を持っていたとする証拠にはならない。それだけでなく、直接関係のない本紙に対してまで「キリスト教として同一の線に立つことはできない」とするのは、まったく論理の飛躍だ。

Aさんのケースと同じように、意図的な質問をもって歪曲された回答を得ようとした騒動は米国や韓国、香港でもあった。これらはすべて、本紙が記事の翻訳などで提携している海外紙と競合関係にある現地紙が主導した疑惑提起であった。

米国での証言は競合紙がすべて匿名で伝えたため、説得力に乏しいものだった。問題とされたのは、パラチャーチやフェローシップのような小グループで聖書研究をする中であった討論の話であり、その内で幾人かの間違った信仰を持った漠然とした匿名の証言者がいたにすぎない。現地の競合紙はこれを、証言者が通っていた教団や教会の共通の信仰告白であるかのように扇動したが、匿名の証言者が顔を出さなかったことで論議が終結した。

韓国と香港ではいずれも現地の調査委員会による厳密な調査の結果、証言者の話が虚偽であったことが分かっている。韓国では、ある男性が実名で証言したが、韓国基督教総連合会（CCK）による長期間にわたる調査によって、張氏の疑惑については「嫌疑なし」という結論が出ており、一連の調査結果は前述の裁判でも採用されている。また香港では、ある女性が記者会見に登場したが、会見後に女性の夫がこれを覆す証言をし、女性の証言を否定。女性の話が虚偽であったことが明らかになっている。

Aさんがいたとされる教会は、正式な教会の形態もできていない幾つかのパラチャーチのようなものだった。その2、3人のうちの1人であるAさんの話だけを基に、特定の教団全体や本紙を「グループ」と表現してひとくくりにし、全員が間違えた信仰を持っているかのように作り上げる行為は根本的に否定されなければならない。

しかも、張氏本人が一貫して「私は再臨主ではない」と繰り返し、長期間にわたって否認している。それにもかかわらず、Aさんの主観的な信仰だけをもって強弁するのは、論理的ではなく、異端捏造の陰謀としか言いようがない。

元従業員について

本紙前編集長は契約満了であり、解雇を言い渡したり、解雇したりした事実はない。声明に署名した他の従業員らは、本紙社長と副編集長（当時・編集補佐）の処遇をめぐる要求が通らないと分かると、2月中旬に自ら複数の条件要求と共に退職願いを提出した。同26日に開かれた取締役会で、受け入れ可能な条件要求と退職願いの受理が確認され、27日付で契約解除を通知している。

クリスチャン新聞は「28日付」「全員が契約社員」と伝えているが、いずれも間違い。契約社員は6人のうち2人のみで、他は業務委託（フリーランス）などだ。

また、同紙は従業員声明の内容として、本紙社長（同紙では「編集長」と誤記）と副編集長が「創設当初からいる」と伝えているが、本紙の創設が2002年であるのに対し、社長は05年、副編集長は07年からの勤務で、いずれも事実と異なる。

会見については、本紙の主張のみを伝える会見は根本的な解決にはならないとして、代表権のある本紙会長と社長が早急な開催に同意しなかっただけだ。

齋藤篤牧師による虚偽発言について

連絡会の世話人の1人で、根田氏と説明会の事前打ち合わせを綿密に行っていたとされる齋藤篤氏（日本基督教団深沢教会牧師）に対しては、本紙元従業員らが出た声明に関与した疑いがある。

説明会で本紙社長が問いただすと、齋藤氏は「関与していない。（事前に）内容の確認もしていない」と返答した。しかし本紙には、齋藤氏の回答と明らかに矛盾する複数の証拠がある。それらは、声明公開前に齋藤氏が関与したこと示す非常に具体的な証拠だ。それ故、齋藤氏は、多数の教界関係者が参加した場で、公然と虚偽の発言したことになる。

世話人の1人である豊田通信氏（同教団仙台五橋教会牧師）は、齋藤氏の疑惑を伝えた本紙記事について訂正するのかを尋ねたが、本紙の「疑惑」を追求する前に、まずは調査委員会を組織して身内の疑惑を丁寧に調べてもらいたい。

根田、齋藤の両氏による共謀について

本紙が得た情報によると、根田、齋藤の両氏はこれまでも、説明会の直前だけでなく、議長声明や従業員声明が出された前後にも打ち合わせをしていた。つまりこれは、公益を図るべき連絡会が、本紙競合紙の編集顧問と共に謀し、本紙を不当に攻撃している疑いがあるということだ。日本基督教団は、これがどれほど深刻な問題であるのかを認識すべきだ。

議長声明は、本紙に対し正式な問い合わせや確認など一切なく出された。疑惑があるのであれば、両者から公平に話を聞き、中立な立場で追求すべきだ。連絡会は、声明を出す前に両者の話を聞いたのか。一方の話だけを聞けば、白が黒にさえなり得る。これはあたかも調査する検察官が、自ら裁判官の座にも着き、弁護側の主張を聞かずに判決を下すのと同じことだ。これは魔女裁判の典型的な手法であり、日本基督教団は知つてか知らずか、まさに同じことをしているといえる。

今後の対応について

宗教改革500年を記念した直後に、本件のような事態に直面していることを積極的に捉え、希望を持ってキリスト教メディアとしての責任を果たしたく願っている。

その上で、本紙に対する営業妨害を含む言論破壊工作に対しては、法的追及を行う予定だ。首謀者が誰で、誰が利用され、具体的にどのような工作があったのか、また教界権力を利用した魔女狩り、齋藤氏の虚偽発言についても、本紙は確実な証拠を基に追及していく。

- 日本基督教団統一原理問題全国連絡会などに宛てられた再検証連絡会による公開質問状
- 当社に対する「謝罪と告白」受領のお知らせ
- クリスチャントゥディをめぐる日本基督教団総会議長声明などについて

[印刷](#)

2018年3月5日20時48分

当社に対する「謝罪と告白」受領のお知らせ

株式会社クリスチャントゥデイは2月23日、日本基督教団の正教師（牧師）2名を含む3名の方々から、下記の文章「謝罪と告白」（起草者：溝田悟士氏）を受領しました。3名の方々からの心のこもった誠意あるお気持ちに心から感謝致します。3名の許可の下、受領した文章を掲載致します。



株式会社クリスチャントゥデイ 御中

謝罪と告白

私たち三人は、クリスチャントゥデイの方々に対して、「異端の疑惑」があるという理由だけをもとに、あなた方をよく調べもしないままに、あなた方の言い分も公平に聞かず、あなた方の報道をも避けて見ようとせず、あなた方を避け続けました。

しかし、あるとき自分自身を省み、あなた方のことを公平に調べるようにとの機会を、主なる神が私たちにお与えくださいました。その真実を求める声に従って、クリスチャントゥデイの方々とは直接に接触することなく、この「疑惑」について調べてまいりました。

今まで非常に長い期間にわたる苦しい調査でした。ここで、私たち三人は、あなた方クリスチャントゥデイに対し、また、私たちが信じる主なるイエス・キリストに対し、懺悔（ざんげ）と和解を申し入れます。

「疑惑」は対立ではなく対話の中でしか解消せず、真実は話し合いによってしか見出されないということを、ようやく悟るに至ったからです。

私たちは、私たち自身が抱いている「疑惑」を解消するためにこそ、あなた方との真摯（しんし）な対話を求めます。

そして、知らずに犯した罪とは言え、「あなた方を避けた」ということへの非礼を、お詫びいたします。どうか、私たちのこの謝罪の気持ちをお受けください。

そして、あなたたちとの紳士的な「対話」の中で、「疑惑」のひとつひとつを、明らかにしていくことができますように、私たちが共に信じる主なるイエス・キリストの御名によって願つております。

2018年2月23日

日本基督教団 正教師 山本隆久

日本基督教団 世真留教会 牧師
正教師 白田宣弘

博士（広島大学・学術）溝田悟士

- 日本基督教団の議長声明に関する説明会について
- 日本基督教団統一原理問題全国連絡会などに宛てられた再検証連絡会による公開質問状
- クリスチャントウディをめぐる日本基督教団総会議長声明などについて

[印刷](#)

2018年3月9日11時38分

クリスチャントゥデイをめぐる日本基督教団総会議長声明などについて

インターネットのキリスト教情報紙「クリスチャントゥデイ」の背後には、張在亭（ジャン・ジェヒヨン）牧師を「来臨のキリスト」として信奉するグループが存在する疑いがあるため、付き合いをしないという内容の声明（1月27日付）が、日本基督教団総会議長石橋秀雄の名で出された。

私は、以下の理由でこの声明が撤回されることを願う者である。

まず、背後に異端的グループの存在が疑われるというが、クリスチャントゥデイ自体が提供するコンテンツにカルト的、異端的なものを見いだせないことがある。むしろ、キリスト教の福音宣教に有益な記事が多い。主イエスは「良い木は良い実を結ぶ」とおっしゃったし、弟子たちが、見知らぬ人々がイエスの名を使って悪霊を追い出しているのを見てやめさせようとしたとき、主イエスは「やめさせてはならない」とおっしゃった。また、畑にまかれた毒麦のたとえもある。

私は牧師で、イエス・キリストの御言葉に従うことを説教している。だから、クリスチャントゥデイが福音を伝えている限り、それを妨害するようなことはするべきではないと考える。

次に張牧師の「来臨のキリスト」としての疑惑は、彼自身が公に否定しており、私の理解する範囲では、イエス・キリストへの信仰を告白している。さらに、議長声明において「張牧師グループ」と呼ばれている人々、クリスチャントゥデイもまた、イエス・キリストへの信仰を公に告白している。この彼らの告白は虚偽であって騙（だま）されてはならないと、日本基督教団統一原理問題全国連絡会の方々は注意を喚起している。

しかし、私自身を振り返ると、自分自身のイエス・キリストへの信仰を他人から問われれば、「私は信じます」以上のことを行うことはできない。「あなたの信仰は虚偽だ」と言われば、どうすることもできないし、実際、虚偽と言われても仕方がないと納得せざるを得ない。こんな愚かな罪人でさえ、「イエス・キリストを信じます」という一言によって、私は救われていると信じている。イエス・キリストの御名によって、私の途方もない罪は赦（ゆる）されているのだから、張牧師をはじめとする方々もまたイエス・キリストへの信仰を告白する限りにおいて、主にある兄弟姉妹であると考える。

それは、「御言葉を宣（のべ）べ伝えなさい。折りが良くても悪くても励みなさい」という御言葉に従うことであると私は信じるからである。この御言葉の実行において責められるべきは、私自身の怠慢であって、クリスチャントゥディを断罪することが、この御言葉に従うことであるとは、私には考えられないからである。

そして、この御言葉を、逆風の中にあるクリスチャントゥディとそれを支える人々に贈る。いや、「贈る」などとは、おこがましい。そうではなくて、今、この御言葉が彼らを生かし、この御言葉を彼らが証ししていることに敬意を払いたい。

2018年3月9日
日本基督教団正教師 山本隆久

- 日本基督教団の議長声明に関する説明会について
- 当社に対する「謝罪と告白」受領のお知らせ
- 日本基督教団統一原理問題全国連絡会などに宛てられた再検証連絡会による公開質問状

印刷

2018年10月26日12時37分

中橋祐貴氏、韓国で一人二役演じて騒動？



「教会と信仰」に「ホンダ」の名前で登場した人物（左）と、CBSの番組に「張在亨牧師教団 日本脱退者」として登場した人物（写真：「教会と信仰」とCBSの各サイトのスクリーンショット）

本紙元スタッフの中橋祐貴氏が最近、「ホンダ」という名前を使い韓国のメディアに登場した。一方、別の韓国メディアでは、同一と見られる人物が、本紙元スタッフではなく、「張在亨（ヤン・ジェヒョン）牧師教団」なるものの「脱退者」として出演した。中橋氏が一人二役を演じた可能性が高く、韓国現地では奇怪な報道として一つの騒動になっている。

韓国のニュースサイト「教会と信仰」は19日、本紙の元スタッフだという「ホンダ」という人物が、ソウル近郊の「光と塩教会」で18日に記者会見を開いたとし、張牧師の「再臨主疑惑」が日本で再熱していると伝え

た。しかし、本紙にはこれまで「ホンダ」という人物が在籍していたことはない。本紙が韓国のクリスチャントゥディ（本紙とは別法人、以下「韓国CT」）を通して「教会と信仰」に確認したところ、「ホンダ」と名乗る人物は中橋氏であることが分かった。中橋氏は、自ら「ホンダ」という名前を使うことや、顔を出さないことを「教会と信仰」に要求してきたという。韓国CTからの指摘後、「教会と信仰」は誤りを認め、「ホンダ（仮名）」と訂正した。

韓国CTの調べによると、中橋氏は通訳者を連れて光と塩教会を訪れた。同教会は「異端専門家」を自称しながらも、韓国プロテスタント教会の連合組織である韓国基督教総連合会（CCK）から、今も「異端」とされている崔三更（チエ・サンギョン）牧師が牧会する教会だ。崔牧師は、三位一体を否定する「三神論」や、「イエス・キリストはマリアの月経を通して生まれた」とする「月経胎孕（たいよう）論」などの自説を主張している人物で、「教会と信仰」は、崔牧師自身が編集者を務めるメディアでもある。

「教会と信仰」によると、「ホンダ」氏は、本紙を辞めた理由の一つとして、本紙に対して異端・カルト疑惑を提起した日本の救世軍少佐（牧師）Y氏との訴訟における資料を挙げた。「教会と信仰」は、その資料を見たという「ホンダ」氏の話として、日本の裁判所が、争点の一つとなったノートの持ち主である本紙の元スタッフK氏が張牧師を再臨主と信じていたと認めたと報道。その上で「つまり、日本の裁判所でも張牧師を再臨主だと信じたという人々の証言がそのまま受け入れられたということ」などと伝えた。

しかし実際には、そのような事実はない。張牧師の「再臨主疑惑」を主として主張したY氏に対して、東京地裁は2013年、「客観的な資料に基づいて慎重な分析が行われたとはい難く、他に合

理的な根拠といえる資料は認められない」として、賠償金95万円の支払いと、名誉棄損表現の削除を命じている。もちろん、本紙のスタッフが張牧師を再臨主信じていたなどとも一切認めていない。

「ホンダ」氏はこの他、「張牧師グループ」の元信者らによるとされる「ビオラの会」が最近出した声明について、日本で唯一報じたキリスト新聞の記事を紹介したり、かつて張牧師の「再臨主疑惑」を韓国で提起したイ・ドンジュン氏と対談したりした。

「ビオラの会」は今年7月に結成されたと伝えられているが、その内容はすでに十数年前に提起された問題を焼き直ししたようなもので、「疑惑再熱」を願う一部の人々がけしかけたように見える。さらにメンバーは全員が匿名で、本紙に寄せられた情報によると、日本の別のキリスト教紙は声明を入手していたが、匿名で会の実態が分からず、掲載を見送ったという。他にも、一時掲載した後に削除した在日韓国キリスト教紙もある。一方、イ・ドンジュン氏はかつて、張牧師の「再臨主疑惑」を主張したことがあったが、その証言が虚偽であったことが、CCKの調査で明らかになっている。

「教会と信仰」はこの他、韓国の3つの教団が張牧師に対して依然として「再臨主疑惑」を提起していると伝えている。しかし、いずれの教団もすでに、そうした決議の無効が総会で確認されたり、疑惑を提起した牧師が張牧師自身に謝罪したり、疑惑を否定する新しい決議が出されるなどし、事実とは異なっている。そもそも「再臨主」という言葉自体が、統一協会（現・世界平和統一家庭連合）で使用されている用語だという。あえて統一協会の用語を使って「疑惑」を提起することで「怪しい」と思わせる意図が透けて見える。

その後、韓国のキリスト教放送「CBS」は23日、同じキリスト新聞の記事を取り上げて報じた。しかし今度は、本紙元スタッフではなく、「張在亨牧師教団 日本脱退者」というテロップで紹介された人物が登場した。この人物は、名前は明かされず、顔もモザイクがかけられていたが、「教会と信仰」に登場した「ホンダ」氏と非常によく似たストライプのワイシャツを着て、日本語でインタビューに応じた。一体この人物は本当に「張在亨牧師教団」なるものから「脱退」した人物なのだろうか。この人物については現在、韓国CTがさらに詳しい調査を行っている。

本紙は、中橋氏と2016年3月～2018年2月の約2年間、記事執筆や広告営業に関して業務委託契約を結んでいた。しかし今年に入って以降、日本基督教団で本紙に関する声明を主導したとされる牧師や、クリスチャン新聞編集顧問の根田祥一氏らと内通していたことが判明。他のスタッフにも働きかけるなどし、今年2月に契約を終了した。契約終了後も、本紙の社会的評価を低下させる虚偽の内容を関係者に送付するなどしており、すでに本紙は弁護士を通して、警告の通知文を送っている。

通知文を受けての焦りから出た苦肉の策が、今回の騒動なのだろうか。中橋氏は現在、日本の一キリスト教メディアに席を置いている。その彼が、他紙の記事を片手に名前も顔も隠して海外まで行き、一人二役を演じて騒ぎを起こしたのであろうか。もしそうだとしたら、その行為は一体、読者の目にどう映るだろうか。

[印刷](#)

2018年11月7日20時48分

日本基督教団カルト問題連絡会などに宛てられた有志グループによる要望書

以下は、有志グループ（旧・張在亨氏に関する声明報道等再検証連絡会＝4月30日解散）から、日本基督教団総会議長の石橋秀雄氏、同教団カルト問題連絡会（旧・統一原理問題全国連絡会）、キリスト新聞社、クリスチャン新聞に宛てられた要望書です。有志グループの許可を得て、全文を掲載します。

有志グループは、要望書について「ネットにおける報道、言論の自由を『カルトの疑い』によって妨害している日本基督教団への抗議を含むもの」とし、賛同者を募っています。キリスト教徒であるかないと問わないとして、下記のメールアドレスで受け付けています。

賛同者受付メール：sinso_christiantoday@yahoo.co.jp（書記係・溝田）



日本基督教団 総会議長 石橋秀雄 殿

日本基督教団 統一原理問題全国連絡会 御中

キリスト新聞社 御中

クリスチヤン新聞 御中

クリスチャントゥディ問題に関する要望書および公開質問状

私たち有志グループは2015年ころから、キリスト教系WEBメディア「クリスチャントゥディ」が「カルト」もしくは「異端」であるという「疑惑」に関心を寄せ、キリスト教系報道各社からのニュースやインターネット掲示板・SNSなどに対して資料収集を行い、情報の真偽についての検証を行ってきました。

そのようなおり、2018年1月27日付で教団議長名で声明がだされました。私たちは、声明を何度も読み返しながら、設立の経緯や会社の運営などを中心に議論を重ね、キリスト教メディアとして適切であるのか、またその時までの自身の討論の在り方についても反省しつつ、忌憚のない意見を出し合いました。

その結果、私たち有志グループは、日本基督教団が「クリスチャントゥディ」に対して総会議長名での声明を出すには早急であった、との結論に至りました。そこで抗議書をお送りさせて頂くとともに、同年2月23日に同声明に関して日本基督教団統一原理問題全国連絡会が開催した説明会に出席し、公開質問状をお渡しいたしました次第です。

しかし、誠に遺憾ながらこの公開質問状にはいまだ回答がありません。

その後も私たち有志グループは、資料収集と検討を重ね、2月23日の説明会で「クリスチャントゥディ」に対し指摘されました、「カルト疑惑」であるとか、キリスト教から外れる「異端信仰」を持っているとかなどの「疑惑」は存在しなかった可能性が高い、との結論に至りました。

そこで、このたびは、特に次の点をご指摘させていただきます。

- 張牧師と「クリスチャントゥディ」との関係は現在においてほとんどなく、張牧師がいかなる人物であろうとも、その人物の評価をもって「クリスチャントゥディ」を異端、カルト集団と判断することは出来ない。
- 「クリスチャントゥディ」の記事の投稿者は多方面多岐にわたるが、それらのうちカルト活動に参加した者はいないし、「異端」的信仰を持つ者もない。
- 私たちのグループのうち数名が「クリスチャントゥディ」に寄稿をしたが、それらの投稿は自発的なものであり、「クリスチャントゥディ」から強要されたこともなく、カルト団体へ誘導されたこともない。
- 「クリスチャントゥディ」の創業時には組織が未整備であったため過重労働があった可能性は排除できていない。また同様に、当時「クリスチャントゥディ」と関係があった「東京ソフィア教会」も設立間もなく、金銭トラブル、教会と信徒間の双方の行き違い誤解による混乱があった可能性は排除できていない。しかし、十分な検証がないままに、「クリスチャントゥディ」や「東京ソフィア教会」による詐欺・搾取行為があったと、早急に結論付けるべきではない。

その他、割愛しますが、指摘しうる事柄は沢山あります。そこで、この度、改めて私たちは以下の通り求めることにいたします。

1. 議長名で出された「クリスチャントゥディ」に関する声明の内容は、「疑惑」というにはふさわしくない。したがって、撤回するか、または再検討をお願いしたい。
2. 議長声明説明会での「クリスチャントゥディ」への投稿・講読をさけるべきとも受け取れる断定的表現によって「クリスチャントゥディ」の読者に「萎縮効果」が生じていることを、極めて憂慮する。従って、「クリスチャントゥディ」の読者の「知る権利」を奪わないでいただきたい。
3. 議長声明で触れられている「疑惑」については、日本基督教団総会議長と「クリスチャントゥディ」双方で、丁寧な対話をしていただき、共同で疑惑解消の作業をお願いしたい。

以上のこととを要請するとともに、関係各方面におかれましては、下記に掲げる2月23日付の公開質問状の各項目について、改めて返答されることを強くお願ひいたします。

2018年11月7日

代表 藤崎裕之（日本基督教団正教師）
千葉敦志（日本基督教団正教師）
臼田宣弘（日本基督教団正教師）



「クリスチャントゥディ」および「あいのひかり教団」等問題に関する公開質問状

1. 社会的に共有するべき認識に関する質問

質問1

「宗教」とは何か簡潔にご説明を頂きたい。

質問2

「キリスト教」とは何か簡潔にご説明を頂きたい。

質問3

「カルト」とは何か簡潔にご説明を頂きたい。

質問4

「破壊的カルト」とは何か簡潔にご説明を頂きたい。

2. 「石橋声明」公表に至るまでの過程に関する質問

質問1

このたびの統一原理問題全国連絡会（以下「連絡会」）および石橋秀雄総会議長名での2018年1月27日付けの「声明」（以下「石橋声明」）において、問題とされているクリスチャントゥディ側に、事実確認を行ったのか。いかに対立していようとも、その対立相手に直接に事実確認を行わなければ、公平・公正な判断を下せないと考える。これは「審査の鉄則」であり、当会がかねてより申し入れてきた。この点については、キリスト教会が靈感をもって信じると告白している旧約聖書においても下記のように命じられている。

「どんな不正であれ、どんなことがであれ、すべて人の犯す罪は、ただひとりの証人によって定めてはならない。ふたりの証人の証言により、または三人の証人の証言によって、その事を定

めなければならない。もし悪意のある証人が起って、人に対して悪い証言をすることがあれば、その相争うふたりの者は主の前に行つて、その時の祭司と裁判人の前に立たなければならぬ。（申命記19:15-17／口語訳）」

上記にある通り、利害や意見が対立する証人同士が公平・公正な場で真理を見極めるという行為が、裁判をはじめとする「すべての審査の基準」であるべきである。この度の連絡会の決定と「石橋声明」はこれらの「法令順守義務」、まさに「コンプライアンス」に反していると思われるが、見解はいかがか。

この聖句に反していないかについても併せて、当事者であるクリスチャントゥデイ側に、事実確認を行ったか否か、したのであればその具体的な内容と日時を、明確にお答え願いたい。

質問2

同様に、この度の「石橋声明」を出すにあたり、名前を挙げている張在亨氏とアメリカの関係先、また対象となる「想定上の関係先」、ことに「オリベット大学」へのリンクをHPに掲載していることにより「実質的」に「名指し」されたことになる当事者である「あいのひかり教団」に、直接連絡をしたのか。それは事後通告であるのか、それとも事前に通告したのか。それぞれの各氏・団体に直接に電話・面会・書簡・メールで通達した「最初の日付」を明記して、さらに上記の旧約聖書の律法が告げる信仰、さらには日本国において通念とされる法規範に照らして、誠実にお答え願いたい。

質問3

「石橋声明」発表の前に張在亨氏本人と事実関係確認のための会談や電話での確認はあったのか。また「石橋声明」に関して、事前交渉はあったのか。互いに自分自身の正しさや欠陥を確かめ、正し合うのもキリスト教会の使命である。古代のユダヤの賢者も次のように言っている。

うわさの渦中の隣人には、問いただせ。彼は何も言わなかつたのかもしれない。

何か言っていても、二度とは言わないだろう。

うわさの渦中の友人には、問いただせ。しばしば中傷にすぎないから。

うわさは一切信じるな。

うわさの渦中の隣人を脅さず、問いただせ。

その後は、いと高き方の律法に任せよ。

(続編『シラ書』19:14-15, 16／新共同訳)

従つて、たとえ万が一にも、張在亨氏が「再来／再臨メシア」を「自称」していても、「あなたは再来／再臨メシアであると自称したことがあるのか」と「問い合わせ」るのならば、きっとそのような「自称」をする余地すらなくなると思われる。むしろ正統なキリスト教会であれば「自称する隙を与えることなくさせる」ことこそ使命であるべきであろう。その使命を怠っていない

か。実際に直接に会って「あなたは再来／再臨メシアであると自称したことがあるのか」と確かめ、また今後も使節を送り、信仰の是非を確かめ続けるつもりか。ご見解をおうかがいしたい。

質問4

この度の「石橋声明」およびそれのもとになる2008年6月13日付けの「『クリスチャントゥディ』に関する声明」（以下「山北声明」）は、2007年のNCC宛の下記の文書の内容に反するのではないか。このNCCあての文書から山北声明発表までの間に、いかなる新しい情報があったのか、その内容を可能な限り開示を願いたい。さらに下記のNCCあての声明に対する日本基督教団総会議長および連絡会としての見解、および立場をおうかがいしたい。

NCC総幹事 様

参考 JEA御中

CCKJ総幹事朴牧師

クリスチャントゥディ御中

私は在日韓国基督教総連合会（CCKJ）の会長金安弘牧師です。CCKJの総幹事をした者です。下記の文章はCCKJ東日本地方会の実行委員会に山谷兄が参加して勝手に書いたものであります。ですからCCKJ東日本地方会の文章でもないし、内容に問題が在りますので、CCKJ東日本地方会会长がとりけすように伝えたにもかかわらず、今日（2007.2.26午前10時50分）まだ残っています。韓国基督教総連合会（CCKJ）は2004年度中と2005年度中に二度にわたり調査した結果、問題ないと代表会長よりすでに（2005.09.06）公文書がきています。

NCCの発展を祈りながら 2007.02.26 金安弘牧師

質問5

「あいのひかり教団」が関係し、所属していると「予想」される「在日韓国基督教総連合会（CCK-J）」には、「石橋声明」発表以前に確認を取ったのか、お答え願いたい。

質問6

今回の「石橋声明」のような重大な内容を決定するためには、張在亨氏本人への事前調査、事前通達がまず基本ではないのか。もし当事者への不関知のもとでなされる声明、当事者を抜きにした声明であれば、重大な道義的違反である。声明の制定以前に、正式な使節を立てて事前調査、事前通達をしているのか。証拠となる文書を示して、お答え願いたい。

質問7

張在亨氏本人への声明の通達が行われていないのであれば、今回の「石橋声明」本文に、精密に英訳・韓国語訳を添付したものを、日本基督教団議長名ならびに連絡会名において、今すぐにでも本人あてに通達を送ることは検討されるか。それについてお答え願いたい。

質問8

この声明の説明のために、今後、張在亨氏本人の弁明を聞く公開質問会を催すことはあるか。場合によっては渡航も要請するか。この点について認識をお答え願いたい。

質問9

張在亨氏自身が記者の質問に「私は再臨のキリストではない」と記者の会見中に直接否定している場面を、韓国News N Joyが報じ、その場面の「動画」をインターネットで配信している（재림주 의혹 장재형 목사 해명보다 분노 폭발 2012.10.20。URL：

<https://www.youtube.com/watch?v=uRqvIp1tqA8>。5分27秒頃に「ナウン・メリムヂュガ・アニムニダ：나는 재림주가 아닙니다」）。また同日の異端嫌疑の話し合いも全編が公開され動画配信されている。明らかに張在亨氏自身の口頭による「疑惑の否定」の証拠であると思われるが、この動画をいかに理解されるか、ご見解をおうかがいしたい。また、今回の「石橋声明」の公表において考慮されていたのか、合わせておうかがいしたい。

質問10

日本基督教団は議長の名による公式な声明を有料購読機関紙「教団新報」に発表した。しかしこの教団の機関紙は、誌上への声明に対する反論の掲載を実質的に認めていない。当会はこの「石橋声明」に対し、公式の抗議をしたにもかかわらず、日本基督教団所属の全教会に周知されなかったことを、極めて遺憾に考え、憂慮している。これは公平公正な議論による声明とはい難い、と思われる。「教団新報」は、公式表明に対する反論や意見があれば拾い上げ、公平に掲載するべきではないのか、ご見解を頂きたい。

3. 「石橋声明」において指摘されているクリスチャントゥディによる「被害」に関する質問**質問1**

クリスチャントゥディのなしてきた違法・脱法的な「実害」は何か。具体例を挙げ列挙していただきたい。少なくとも、日本基督教団所属の諸教会に寄せられた、過去15年間のクリスチャントゥディによる「被害」の「相談件数」を「年別」での実数で公表して頂きたい。

質問2

現状のクリスチャントゥディは労働環境の悪いのは本当か。また、その労働条件の悪さは「常態化」したものなのかな。この点についてお答え願いたい。

質問3

上記の労働環境の悪さないし、労働環境の悪さの「常態化」は、クリスチャントゥディのみならずキリスト教系新聞社全般にも言えるのではないかという指摘が、インターネット上ではなされている（クリスチャントゥディの元記者・あえて名前は伏せる）。労働条件については、とりわけクリスチャントゥディのみの問題ではなく、日本のキリスト教系メディア全般の体質の問題であるとしたら、今回の声明をあげるなどの「特別な対応」はいかなる理由によるの

か。あるいは今後は他のキリスト教メディアも公平に労働条件の批判対象となるのか、その点について、これらのメディアの最大の顧客であるキリスト教会の責任として、ご見解をお答え願いたい。

質問4

この度の「石橋声明」の中にある「今年」はどういう意味か。2018年1月1日から「石橋声明」公表の同年同月27日までの「非常にごく短期間」にすべて石橋総会議長が声明を発するに足る証拠を全て確認され、その是非について全責任を負われるとお考えになっておられるのか。石橋総会議長が連絡会ないしその他から提示された証拠を認知した日付をお聞きしたい。また可能であればその内容もプライバシーに配慮しつつ、可能な限り簡潔にお聞きしたい。

質問5

この度の「石橋声明」においては、石橋総会議長が上記の意味での「今年」に、「団体・教会の活動を維持するため、メンバーが消費者金融から借り入れをするように仕向けられた」という趣旨の証言を得たことになっている。本当にそのような実態があったのであれば、被害者の「借入証明書」のコピーの開示を求めたい。プライバシーに最大限配慮し、氏名・記号・住所等は「黒塗り」でも構わない。ただし、被害を理解するために、継続していた実態があるならその部分の借入年月日、返済年月日、さらには消費者金融名は隠すことなく開示して頂きたい。

質問6

この度の「石橋声明」で「一体」だと言われている「張在亨牧師グループ」はどのくらいの世界的規模なのか。一般に、張在亨氏の履歴は、大韓イエス教長老会合同福音総会長、SCC組織神学教授、韓国クリスチャントゥディ創設者、オリヴェット大学総長、インターネット宣教会理事、そして世界福音同盟（WEA）北米理事、というとされるようである。このうち、どの組織が「張在亨氏グループ」になるのか。すべてなのか。特定の団体名および個人名を、わかる範囲で全て挙げて頂きたい。

質問7

我々はすでに「山谷裁判」でこの判決が確定し、事態が一応の終息を見たものと承知している。にもかかわらず「石橋声明」では張在亨氏を「来臨のキリスト」と教育していたとする疑惑を述べている。日本基督教団は、この事実関係について「山谷裁判」の判決を覆すだけの「確実な証拠」を持っていると推測する。従って、クリスチャントゥディおよびその関係者に対し、新しい裁判を提起するよう助ける権利も義務もあると考えられる。今後、クリスチャントゥディに対しこのような応答をする意思はあるかお答え願いたい。また、しないのであれば、その理由を教えていただきたい。

質問8

議長職権でこのような「特定個人・団体企業に社会的不名誉を着せる『異端』宣言に等しい声

明」を出せる根拠は何か、また、どの聖書の箇所、あるいは教憲教規のどの条項に根拠があるのか、お答え願いたい。

4. 「脱カルト」を中心課題として扱うべき「連絡会」に関する質問

質問1

いわゆる「清水・黒鳥裁判」（2006年4月26日に結審）について、ご見解をおうかがいたい。この裁判は日本基督教団の黒鳥栄牧師および清水与志雄牧師が統一協会の信者を脱会させるために暴行、拉致監禁し脱会を強要したと主張され、損害賠償を求められた。裁判は日本基督教団の全面的協力のもとで勝利を勝ち取った、とされている。しかし、違法ギリギリの脱会手法については再考をせざるを得ず、やはり禍根は残らざるを得ないと考えられるが、清水・黒鳥両氏にはまったく脱会方策に非がなかったのか。裁判所として認められたとしても倫理的に認められないことはないか。このことについて「連絡会」および「総会議長」としてはどういう認識か、ご見解をうかがいたい。

質問2

「破壊的カルト」への危険情報であれば緊急の声明が必要であり、議長声明と常議員会の承認で足りると思われる。しかし、「山北声明」「石橋声明」とともに、「破壊的カルト」声明というよりも「異端」声明に近いのではないか。それゆえ、緊急を要するというよりもむしろ「時間をかけた議論」が必要であったのではないか。

古代の7つの全地「公会議」においては、非常に長い時間をつけ、当時のキリスト教世界の全体において、双方の討論ががされ、十分に議論が尽くされ、そのうえで「異端宣告」がされたのである。そもそも日本基督教団は、その精神を受け継ぐキリスト教公会主義を主張する日本で唯一の教団であると自負しているはずである。その崇高な理念に基づくのであれば、数度の総会で慎重な調査・審査、関係者からの聴取のうえで、全会一致で決定すべきではないか。今回の教団の教師の大部分が「クリスチャントゥディ問題」をよく理解していないままにこの議長声明が出されたという、かなり大きい懸念がある。

もう少し時間をかけ、張在亨氏本人またクリスチャントゥディ関係者を呼んで時間をかけて審問し、全教会的な議論を経て、最終的には総会での議決によって権威ある宣言が出せたはずであるが拙速ではないかと思われる。その点をどうお考えか、ぜひ見識をうかがいたい。

質問3

本来、社会的問題である「脱カルト」を専門に扱うはずの部門である「連絡会」が、宗教的な「異端審査」の権限を持つのはどのような根拠によるのか、ご認識をお答え願いたい。たしかに、張在亨氏が世界規模の展開を主導する要職にある人物であれば、本人および周囲に金銭、あるいは権力闘争などの何らかの「疑惑」もあっておかしくなく、それは追及し、警戒してよいという立場も認められてよいだろう。しかしそれは「カルト問題」として扱うよりも「教

会政治問題」あるいは「社会問題」として扱うべきであり、「連絡会」のテーマにそぐわない、あるいは「議長声明」にもそぐわないと考えられる。この点について、総会議長および連絡会のご見解をお聞きしたい。

質問4

この度の「石橋声明」において「キリスト教として同一の線に立つことは出来ない」とされる教団・教派とはどういう意味か。下記の各教派教団について、日本基督教団ないし「連絡会」は「キリスト教として同一の線に立つことは出来ない」として判断し、それぞれ個別に声明をあげるおつもりがあるのか、あるいはまた宣言を出されないのならばなぜか。その理由を各自個別に、詳細に説明の上、表明いただきたい。

日本正教会

日本カトリック協議会

日本聖公会

同仁キリスト教団

日本基督召団

イエス之御靈教会教団

萬国福音教団

聖書研究会

いわゆる内村鑑三に起源をもつ無教会派

真イエス教会

基督心宗教団

地元に在って合一である立場に立つ教会

セブンスデー・アドベンチスト教会

復元イエス・キリスト教団

原始福音（キリストの幕屋）

質問5

そもそも「破壊的カルト」問題に対して日本のキリスト教の諸教会は、教義の問題以上に実際に被害者の家族に寄り添い、その被害者の家族の訴えに応えて、救済活動を展開してきたはずであり、「連絡会」はこうした「破壊的カルト」を専門に扱うはずの部門のはずである。従って、クリスチャントウディを「破壊的カルト」であると明確に指弾しないにもかかわらず、「キリスト教として同一の線に立つことは出来ない」と「あいまいに弾劾」することが、どのような意味で、キリスト教信仰の規範である聖書への信仰、さらには日本国の法規範に従っていると言えるのか。

日本基督教団は自身の信仰告白で次のように告白している。

「されば聖書は聖靈によりて、神につき、救ひにつきて、全き知識を我らに与ふる神の言にして、信仰と生活との誤りなき規範なり」

その規範となるべき新約聖書のマルコ福音書では「逆らわないものは味方」である、と書かれている。

ヨハネがイエスに言った、「先生、わたしたちについてこない者が、あなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちについてこなかつたので、やめさせました」。イエスは言われた、「やめさせないがよい。だれでもわたしの名で力あるわざを行ながら、すぐそのあとで、わたしをそしることはできない。わたしたちに反対しない者は、わたしたちの味方である。（マルコ福音書9:38-40／口語訳）

また同じくマタイ福音書の「毒麦のたとえ」においても、火急の被害がない限り、異分子の放置が勧められている。

人々が眠っている間に敵がきて、麦の中に毒麦をまいて立ち去った。芽がはえ出て実を結ぶと、同時に毒麦もあらわれてきた。僕たちがきて、家の主人に言った、『ご主人様、畠におまきになったのは、良い種ではありませんでしたか。どうして毒麦がはえてきたのですか』。主人は言った、『それは敵のしわざだ』。すると僕たちが言った『では行って、それを抜き集めましょうか』。彼は言った、『いや、毒麦を集めようとして、麦も一緒に抜くかも知れない。収穫まで、両方とも育つままにしておけ。収穫の時になつたら、刈る者に、まず毒麦を集めて束にして焼き、麦の方は集めて倉に入れてくれ、と言いつけよう』」。（マタイ福音書13:25-30／口語訳）

また日本国憲法には次のように定められている。

第20条 信教の自由は、何人に対してもこれを保障する。いかなる宗教団体も、國から特權を受け、又は政治上の権力を行使してはならない。

第21条 集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。

たとえ考え方の異なる異端の嫌疑がかかっていても、日本の法規範である「身体・生命・財産への危害」を加えない限り、また我々の宣教の業に協力的である限りは、「日本最大のプロテスタント教団」という「実質的な権力」をもって積極的な批判的「声明」を控えるべきではないか。一見すれば異分子に見えるが本当は善良な人々を「見かけだけ」で滅ぼしてしまうことになっていないのか。これについて、日本の法規範および上記の規範たるべき新約聖書による、各氏の「信仰」と「良心」に基づいて、ご見解をうかがいたい。

質問6

この度の「石橋声明」で表面化した「クリスチャントウディ」側と「元従業員」側のあいだの

係争は、「宗教」に関する係争であるのか、「労働争議」に関する係争であるのか、明確にすべきであると思うが、ご見解をおうかがいしたい。

質問7

「ある人が再臨／再来メシアでないこと」を証明するためには、その当人が「私は再臨／再来メシアではない証拠がある」という証明可能な手段がなければならない。この問題にそのような証明手段があるのかについて、ご見解をおうかがいしたい。例題としてはこうである。「ある個人Xには再臨／再来メシア自称疑惑が持ち上がっている。私はその疑惑を否定するいかなる可視的・認識可能な物的証拠をも全て信じない。また私はXの発言は一切信じない。」そのような場合に、いかにして当該個人XはX自身にかけられる「再臨／再来メシア自称嫌疑」を晴らすことができるのか、「連絡会」にはその方法をご教示願いたい。

5. 今回の声明の持つ法的性格に関する質問

質問1

「石橋声明」によって日本基督教団は石橋総会議長の名前で「クリスチャントゥディなど張在亨牧師関係グループに対して、キリスト教として同一の線に立つことは出来ない」という立場を公式に表明されておられる。つまりは、日本基督教団は「クリスチャントゥディなど張在亨牧師関係グループ」とは一切関係がなく、信仰上の兄弟姉妹の関係は一切持たないという認識でよろしいか。

使徒パウロは次のように「兄弟が兄弟を」世俗の法廷にみだりに「訴える」ことを戒めている。

それなのに、この世の事件が起ると、教会で軽んじられている人たちを、裁判の席につかせるのか。わたしがこう言うのは、あなたがたをはずかしめるためである。いったい、あなたがたの中には、兄弟の間の争いを仲裁することができるほどの知者は、ひとりもいないのか。しかるに、兄弟が兄弟を訴え、しかもそれを不信者の前に持ち出すのか。（第一コリント6:1-6／口語訳）

しかし日本基督教団は、自ら「クリスチャントゥディなど張在亨牧師関係グループに対して、キリスト教として同一の線に立つことは出来ない」と一方的に宣言したわけであるから、「クリスチャントゥディなど張在亨牧師関係グループ」とは、もはや「信仰上の兄弟でない」ということ、もはや「同一の教会のなかま同志」では「ない」という認識でよろしいか。また、「クリスチャントゥディなど張在亨牧師関係グループ」との間とは、「キリスト教として同一の線に立つことは出来ない」ためにキリスト教として同じ信仰に基づく「和解の席」を必要とせず、彼らから日本基督教団が「世俗の訴訟」に訴えられることも、もはや構わないということなのであろうか、ご認識をおうかがいしたい。

質問2

下記の1～10の個人および団体に関して。

- (1) クリストゥディ
- (2) 張在亨氏
- (3) 世界福音同盟（WEA : World Evangelical Alliance）
- (4) あいのひかり教団
- (5) 尾形大地氏（あいのひかり教団）
- (6) 東京あいのひかり教会（元・東京ソフィア教会？）
- (7) 大韓イエス教長老会合同福音日本支部
- (8) 矢田喬大氏（クリスチャントゥディ）
- (9) 株式会社ベレコム
- (10) 内田周作氏（クリスチャントゥディ）
- (11) 安マルダ氏

以上のうち、

1～3は「日本基督教団総会議長」に対して「声明」の内容に関し、

1～11は「キリスト新聞社」「クリスチヤン新聞」「根田祥一氏」に対して「報道」の内容に関し、

それぞれ「事実関係」をめぐる「名誉棄損裁判」を提起する権利を持つ、という認識でよろしいか、お答え願いたい。

質問3

この度の「石橋声明」を出す前に、アメリカ在住の張在亨氏並びに関係先に、米国で名誉棄損訴訟を起こされ、その判決を根拠に財産の差し押さえを受けるなどのリスクを考慮に入れたうえでの声明か、このあたりの認識もお聞かせ願いたい。

質問4

この度の「石橋声明」を発表することによって、張在亨氏が「北米理事」を務める「世界福音同盟」（WEA）の名誉を著しく棄損する可能性を十分に考慮されたのか、また、ことが「国際問題」に発展する可能性を考慮に入れたのか、ご見解をお聞きしたい。

6. 「石橋声明」による社会的影響に関する質問

質問1

このたびの声明を発するにあたり、在日韓国・朝鮮人の方々への差別を助長する懸念は考慮されたのか。「石橋声明」によって張在亨氏への疑惑が報道されるや否や、インターネット上で声明に関連する数多くの在日韓国・朝鮮人の方々への侮蔑的表現が多く見られるようになつ

た。人種・民族差別を助長しかねない表現かつ声明だとも言えるが、この点に関して配慮はされたのか、また今後、表現などの変更はあるか、お答え願いたい。

質問2

「いわゆる元従業員」の一人であるクリスチャントゥディ雑賀信行氏が、年末2017年12月29日に記事「日本基督教団の統一原理問題全国連絡会が取材拒否を示唆」を書いた際には、クリスチャントゥディへの日本基督教団の声明は不当である、と「語調強く」訴えていた。

しかし、年始回りの最中に「体調急変」でタクシーにて緊急搬送（クリスチャントゥディ内田周作氏から電話確認）、その後「7人の書名」をキリスト新聞が掲載した「まさに当日」に父上がお亡くなりになっている（2018年2月8日雑賀氏のFacebookページ参照）。このような短期間の中で「異常事態の連続」ではないかと考えられる。

この間の事象の関連について「何らかの関係」がないのか、という「疑惑」を、我々（山本、臼田、溝田）とは無関係の第三者が既にインターネット上で「疑惑」を出している（twitter上の2018年2月10日17:38および17:49の@thunderbirdroid氏の発言ほか）。確かに、この「異常事態の連続」の間に「連絡会」への出席者・関係者が、クリスチャントゥディ「元従業員」への接触を積極的に図っていたと想像される形跡がFacebook上ではうかがえる。

この「疑惑」がないのであれば、情報拡散防止のために、早急なる釈明を求めるものである。

関与していないならその明言を、「連絡会」への出席者・関係者のうち特に下記の各氏について昨年10月の「連絡会」以来の雑賀氏周辺への「現場不在証明（アリバイの有無）」によって行って頂きたい。出会う機会があったならその日時と理由もお答え願いたい。

小海基（荻窪教会牧師）
 豊田通信（仙台五橋教会牧師）
 斎藤篤（深沢教会牧師）
 清水与志雄（行田教会牧師）
 米倉美佐男（札幌牧師）
 以上5名。

7. 新聞各社に対して

質問1

議長声明および同声明以来のキリスト新聞、クリスチャン新聞の報道によって、クリスチャントゥディが閉鎖・ないし倒産に追いやられる、あるいは矢田、内田の各氏がクリスチャントゥディを辞職する事態が起きることも想定されるような重大な事態であると、我々は認識している。もし仮に、そのようになった場合には、もはや「疑惑」の真相は解明されなくてよいの

か。たとえそのような事態に陥ったとしても、継続して調査を行い実態を解明する必要があると認識されておられるか、現在のお考えをうかがいたい。

質問2

そもそも声明が出される前に、証拠が揃っているのなら、キリスト教系新聞「各社」は手持ちの証拠を積極的に記事として出すべきではなかったか。後天的な証拠での「印象操作」ともとられかねないが、その点の認識はいかがか、ご見解をおうかがいしたい。

質問3

キリスト新聞、クリスチャン新聞など他のメディアが、クリスチャントゥディに対するこの度の報道の内容に「瑕疵」があった場合、不正競争防止法2条15号における、競争関係にある他人の営業上の信用を害する虚偽の事実を告知し、又は流布する「風説の流布」であり、それら各社が処罰の対象となりうる可能性があるのではないか。その処罰対象となる可能性の有無についてと、その可能性有無の理由についてご見解をお聞かせ願いたい。またこの度以前の報道について、同じく見解も併せて見解を頂きたい。

質問4

クリスチャン新聞2013年12月2日付け、「クリスチャントゥディ対山谷裁判 東京地裁判決『来臨キリスト疑惑』事実認定」について。「損害賠償については原告3者で計200万円の請求に対し95万円が相当と認定。裁判費用も原告被告で2分するなど、いわば『引き分け』の判断。山谷氏のブログ上に謝罪文を掲載せよとのCT側の請求は退けた」とあるが、「引き分け」なる報道は客観的な指標に基づく判断か。また、その判断は、その後のクリスチャントゥディが申し立てた仮処分命令申立事件（平成25年（ヨ）第4140号）のび仮処分命令（発令日：平成26年2月4日）を前提にしても、なお搖るがないものか、クリスチャン新聞の見解をお答え願いたい。

質問5

この度のこの度の「石橋声明」で表面化した「いわゆる元従業員」側と「クリスチャントゥディ」側とのあいだの係争において、双方の認識が異なっていることを新聞は報じていない。

「いわゆる元従業員側」は「矢田氏は逆に雑賀を解雇すると言い渡し、矢田・内田氏以外の全員を解雇する予定であることも話した。」（2018年2月8日付「キリスト新聞」）と理解し、使用者側は「雑賀編集長は期間満了、その他は引き続き雇用したい」（内田氏電話確認）との理解のようである。このような係争において、双方で理解が異なるのはよくあることであるが、一方の見解のみを掲載するのは不公平な報道ではないか。双方の見解を公平に取材したのかも含めて、キリスト新聞の見解を問う。

質問6

この度の「石橋声明」から始まる一連の報道において非常に不可解な点がある。2018年2月9日「クリスチャン新聞」の記載内容が、2018年2月8日付「キリスト新聞」の記載内容と、句読点

に至るまでほぼ完全に一致するのはなぜなのか（下記の【参考：記事比較】の通り）。合理的な理由として考えられるのは、（1）時系列的にみて「クリスチャン新聞」が先行する「キリスト新聞」の記載内容を盗作した、あるいは（2）「キリスト新聞」と「クリスチャン新聞」には「共有原稿」がある、（3）その他の場合、があるだろう。

（1）の場合であれば、報道倫理上から「盗作」は許されざる行為であるはずであるから、「キリスト新聞」は「クリスチャン新聞」を何らかの方法で訴える用意があるか、お聞きしたい。また、訴えないなら、その理由もお聞きしたい。

（2）の場合であれば、なぜ両社が「共有原稿」を持っているのか、となる。共有原稿があつたのか、なぜ共有していたのか、その理由を、両社にお聞きしたい。

（3）のその他の場合も考えられよう。ぜひ、その理由を明確に述べていただきたい。

【参考：記事比較】

2018年2月8日「キリスト新聞」

>> 【速報】 「クリスチャントゥディ」現役従業員が連名で声明　「一翼担ってきたことをお詫び」

【用語解説】

* 東京ソフィア教会：張在亨氏が設立した大韓イエス教長老会合同福音の宣教師・安マルダ氏が1998年1月ごろに東京都内に設立した教会。後に日本キリスト教長老教会に所属することを明示するようになった。

日本キリスト教長老教会は、大韓イエス教長老会合同福音の宣教師たちが組成した複数の教会の集まり（教団）である。クリスチャントゥディの設立者である高柳泉氏はカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA=University of California, Los Angeles）在学中、張氏が設立したアポストロス・キャンパス・ミニストリー（ACM=Apostolos Campus Ministry）の伝道を受け、同氏が設立したオリベット大学の前身であるOTCS（Olivet Theological College & Seminary）に入学し、2003年3月23日に卒業して日本に帰国、同年4月ごろ、安マルダ氏から日本代表使役者に任命され、東京ソフィア教会の伝道師として活動。張氏が設立した韓国クリスチャントゥディ及び米国クリスチャンポストの資金援助を受けて同年5月15日に株式会社クリスチャントゥディを設立して代表取締役に就任した。同年5月17日には大韓イエス教長老会合同福音において張氏から牧師の按手を受け、同年秋ごろまで東京ソフィア教会の牧師としての活動に従事していた。

クリスチャントゥディ現社長である矢田喬大氏は、東京ソフィア教会の贊美リーダーであり、張氏が設立したACMの千葉センター代表者、張氏が設立したイエス青年会の会長、大韓イエス教長老会合同福音の宣教師と日本キリスト教長老教会の牧師を取締役・監査役とする株式会社ベレコムの取締役であった。クリスチャントゥディ現編集補佐である内田周作氏は、張氏が設立したACMの仙台センター代表者、日本キリスト教長老教会の札幌教会牧師であった。

東京ソフィア教会での聖書講義の内容を記載したノートには、「イエス・キリストではなく来臨のキリスト」などと記載されており、この記載は「イエス・キリスト」が再臨することを教義とするキリスト教とは異なる記載である。

現在、安マルダ氏など大韓イエス教長老会合同福音の宣教師たちと、日本キリスト教長老教会の牧師たちは、日本キリスト教長老教会の広島教会牧師および松江教会代理牧師であった尾形大地氏を代表役員・総会議長とする「あいのひかり教団」に所属し、2017年9月27日から29日にあいのひかり教団本部で開催された教団創立記念礼拝では張氏が説教し、矢田氏も参加していた。

2018年2月9日「クリスチャン新聞」

>> 「クリスチャントゥディ現役スタッフが声明 社長、編集補佐が異端疑惑の説明責任果たさず」

【解説】

東京ソフィア教会は、張在亨氏が設立した大韓イエス教長老会合同福音の宣教師・安マルダ氏が平成10年1月頃に東京都内に設立した教会である。東京ソフィア教会は後に日本キリスト教長老教会に所属することを明示するようになった。

日本キリスト教長老教会は、大韓イエス教長老会合同福音の宣教師たちが組成した複数の教会の集まり（教団）である。

クリスチャントゥディ現社長である矢田喬大氏は、東京ソフィア教会の賛美リーダーであり、張氏が設立したACM（アポストロス・キャンパス・ミニストリー）の千葉センター代表者であり、張氏が設立したイエス青年会の会長であり、大韓イエス教長老会合同福音の宣教師と日本キリスト教長老教会の牧師を取締役・監査役とする株式会社ベレコムの取締役であった。

クリスチャントゥディ現編集補佐である内田周作氏は、張氏が設立したACMの仙台センター代表者で、日本キリスト教長老教会の札幌教会牧師であった。

東京ソフィア教会での聖書講義の内容を記載したノートには、「イエス・キリストではなく来臨のキリスト」などと記載されており、この記載は「イエス・キリスト」が再臨することを教義とするキリスト教の教義とは異なる。

質問7

クリスチャントゥディは、インターネット情報誌としては、非常に良質なキリスト教に関する情報を提供していたと考えるのが一般認識であろう。確かに個々の記事について、取材方法の一部の不正確さはあったであろうが、それは他の一般的なメディアにも言えるものであるはず

である。しかし、それらの情報の不正確さは「破壊的カルト」であることには直接的に起因しないと思われる。

しかし、この度の報道で「クリスチャントゥデイは破壊的カルトだ」という評価が定まりつつある。これは「報道による風評被害」ないし「風説の流布」に当たらないのか、新聞各紙の見解をお聞きしたい。

以上

2018年2月23日

- 日本基督教団の議長声明に関する説明会について
- 当社に対する「謝罪と告白」受領のお知らせ
- クリストゥデイをめぐる日本基督教団総会議長声明などについて

[印刷](#)

2018年12月19日16時39分

首謀者は根田氏か、ニュースNジョイか　ＪＥＡ報告書に見る本紙への陰湿な妨害

クリスチャン新聞編集顧問の根田祥一氏が編集長だった2004年、本紙に関する虚偽の情報を日本福音同盟（ＪＥＡ）に提供した事件。根田氏の主な情報元となった韓国のメディア「ニュースNジョイ」がこのほど、さまざまな関係資料により、北朝鮮の朝鮮労働党の指導理念である「主体思想」を支持する韓国の政治団体「主体思想派」と密接に関係していることが浮き彫りになり、現地では保守派のキリスト教団体を中心に同メディアを糾弾する動きが急速に強まっている。

本紙はこれまでもＪＥＡに対し、本紙に関する虚偽の情報を基にした決議について謝罪と訂正を求めてきたが、ＪＥＡは18日、2004年に発表した本紙への立場を変更しないことを確認するとの報告書を、加盟団体に向けて発表した。根田氏がＪＥＡに提供した虚偽の情報は、本紙が統一協会と関係があるとする内容となっており、本紙は著しく名譽を毀損された。

本紙が2013年に勝訴した民事訴訟で東京地裁は、本紙が統一協会や異端の教義を信奉しているなどとする表現について、真実ではないと判断し、被告に対して名譽棄損表現の削除と95万円の賠償金などの支払いを命じた。このような明確な判決にもかかわらず根田氏は、判決後も「引き分け」などと主張してきたほか、日本基督教団の総会議長名義で1月に発表された本紙などに関する声明については、根田氏による講演（2016年9月）がそのきっかけであり、声明発表までの動きにも根田氏が深く関与していたことがすでに明らかになっている。

本紙に対する陰湿な妨害を主導するのが、根田氏なのか、それともニュースNジョイなのか。本紙は首謀者に対し、必要に応じて法的措置を含む適切な対応を行っていく。

■ 関連記事：ニュースNジョイ、主体思想派が韓国キリスト教界に植えた「細胞組織」　韓国メディアが報道

[印刷](#)

2018年12月29日23時56分

カルトプログラマーの虚偽情報に基づいて異端フレーム工作に加担したキリスト新聞

キリスト新聞がこのほど、「カルトプログラミング」（カルト洗脳）の手法を使うカルトプログラマーの主張を根拠に、本紙社長が本紙会長の教会に潜入したなどとする極めて悪意ある奇怪な記事を掲載した。これは明白な虚偽の事実であり、これにより本紙の名誉は著しく毀損された。

キリスト新聞の記事には、いわゆる「ビオラの会」と呼ばれ、その実体が不明な団体に所属しているとする人物が登場する。しかし、本紙がその内部情報を入手して数日間にわたり調査した結果、本紙元スタッフの中橋祐貴氏が「カルトプログラミング」の手法を使って組織した仮想の団体であることを確認した。中橋氏は10月にも韓国で、「ビオラの会」が名指しする教会の「脱退者」と身分を偽装し、虚偽の情報を流布したこと大きな波紋を呼んだ。

その主張は、すでに裁判で名誉毀損の判決を受け、虚偽の事実であることが明らかになった十数年前の内容を再び加工したものにすぎない。このような虚偽の情報を利用し、あたかも新たな問題が今になって浮上したかのように報じるのは、真実性と客觀性を求められるメディアとしてあってはならない行為だ。

特にキリスト新聞は今回の記事で、本紙社長が「ダビデ張グループ」なるものの一員でありながら、本紙会長の教会に潜入したなどと主張するが、これは個人の信仰にまで介入し、異端のフレームに押し込もうとする悪意ある行為だ。

本紙社長は過去に韓国人宣教師らが開拓した教会に通い、現在は本紙会長の教会に通いながらより深い信仰の交わりと良き訓練を受けている。この事実を本紙会長と教会側はよく理解しており、何の問題も生じていないのに、なぜキリスト新聞は他人の信仰をむやみに裁こうとするのか。

キャンパスクルセードなどの宣教団体を見ても、その団体と地域教会に同時に所属しながら、健全な信仰生活を送る人々を幾らでも見つけることができる。韓国人宣教師が関わるフェローシップなどの団体でも、当然そのようなケースは多く存在する。

さらに、本紙社長が過去に関わった教会について異端性があるとの指摘は、すでに裁判で退けられた。にもかかわらず、無理にでも異端のフレームに押し込み、その交流を断絶させようすることは、真実を求めるべきメディアの倫理から著しく外れた行為だ。健全な教会をカルトだと断定し、離れた信徒をプログラミングする者の主張を無批判に取り上げることは、宣教の自由を妨害する行為にも当たる。

またキリスト新聞は、本紙会長と韓国クリスチャントゥデイ設立者の張在亨（ジャン・ジェヒヨン）氏の写真を、まるで大きなスキャンダルかのように掲載したが、これは非常に悪意ある印象操作だ。当時、日本福音同盟（JEA）理事長であった本紙会長が、米国の神学者で世界福音同盟（WEA）北米理事を当時務めていた張氏と会ったことに、何の問題があるのか。キリスト新聞のこのような報道には、嫌韓と人種差別傾向さえうかがえる。

再度強調するが、キリスト新聞が今回報じた内容は、すでに5年もの歳月をかけ、裁判という公の場を通じて虚偽の事実であることが明らかになったものだ。「ダビデ張グループ」などというものは存在しない。キリストの教会があるのみで、キリストにある健全な信仰の交わりがあるだけだ。そのような架空のフレームをねつ造して十数年も前の話を最近生じた出来事かのように脚色し、健全な信仰生活と人間関係まで歪曲して報じることは重大な不法行為に当たる。また本紙は、クリスチャン新聞編集顧問の根田祥一氏を中心として中橋氏が行ったカルトプログラミングや虚偽事実の流布などに関する具体的な複数の証拠を入手している。

本紙はこれらの妨害行為について、法的手段を通じて真実を究明し、その責任を厳重に問う。

山谷真氏に対する訴訟の判決等について

当社が、救世軍少佐の山谷真氏を相手方として提起しておりました名誉毀損を理由とする損害賠償等請求事件（平成 20 年（ワ）第 10777 号）及び仮処分命令申立事件（平成 25 年（ヨ）第 4140 号）につきまして、東京地方裁判所から判決（言渡日：平成 25 年 11 月 13 日）及び仮処分命令（発令日：平成 26 年 2 月 4 日）が下されましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

東京地方裁判所は、損害賠償等請求事件の判決において、山谷氏のブログ中、以下のものを含む主要な 46 箇所の表現について、いずれも当社の名誉を毀損するものであり、真実ではないと判断し、山谷氏に対し、これらの表現の削除を命じるとともに、合計 95 万円の損害賠償金の支払いを命じました。

（名誉毀損とされた山谷氏の表現（主要なもの））

- × 当社が“張在亭氏が「来臨（再臨）のキリスト」である旨の教義を信奉している”
- × 当社が“統一教会の派生団体ないしダミー団体の疑いがある”
- × 当社が“従業員に対してマインドコントロールを行っている”
- × 当社が“カルト団体である”

この判決を受けて、山谷氏は、控訴を断念することを表明し（判決は確定）、即日、名誉毀損とされた表現を削除するとともに、損害賠償金 121 万 5348 円（遅延損害金を含む）を当社に支払っております。

なお、上記判決において、結論として名誉毀損が認められなかった表現についても、その大半は、比較的些末・抽象的な表現が“名誉毀損の程度に達していない”との理由で排斥されたものであり、表現内容が真実と認められたものは殆どありません。したがいまして、当社としては、上記判決は、実質的に当社の全面勝訴に近い内容と判断しております。

山谷氏は、上記の判決後も、削除が命じられた表現と同一または類似の表現による名誉毀損をブログ上で継続していたため、当社は、さらに 26 箇所の表現について、ブログへの掲載禁止を求めて仮処分命令の申立てを行いました。これに対し、東京地方裁判所は、当社の主張を全面的に認め、山谷氏に対し同表現を掲載してはならないとの命令を下しました。当該名誉毀損表現についても、既に山谷氏のブログから全て削除されております。

以上の、山谷氏の行為の違法性を明らかにした一連の司法判断を踏まえ、当社は、山谷氏に対し、猛省を促すとともに、今後同様の行為を繰り返すことのないよう強く求める所存です。

以上

信仰告白

この頃、一連の討論と対話の中で、諸方面の方々から、私たちの信仰の告白、イエス・キリストを救い主として受け入れた経緯、また、私たちの献身の姿勢と奉仕の意味について問い合わせがありました。使徒ペテロが、「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えて」(第一ペテロ 3章15節)おくべきであると教えているとおり、私たちも私たちの抱いている希望について説明を要求する人たちに、私たちの信仰を告白したいと思います。

クリスチャントゥディで働いている社員たちがそれぞれ異なる過程を経てきたとしても、皆が同じ唯一の救いの道に導かれて永遠のいのちを与えられた一人ひとりであることを先ず告白したいと思います。私たちは信仰によって救われましたが、真の「信仰」とは何を意味するのでしょうか。私たちは次のように教わり、心が熱くなりました。その信仰とは、私たちが罪人であるにもかかわらず、イエス様が私たちの罪を赦し、私の全てを受け入れてくださったこと。私の罪を代わりにご自身が背負われ、十字架の上で死なれ、復活してくださったことにより示された無条件の愛、その限りない恵み (Gratia) を確信し、受け入れることでした。ですから、私たちが告白する信仰の確信と私たちの得た自由は、唯一の道である主イエスから与えられたものです。「信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まる」(ローマ10章17節) からです。では、私たちは何を伝え聞いたのでしょうか。それは、神様の啓示であるイエス・キリストの愛です。私の罪のために流された贖いの血、それだけが愛と恵みに富みたもう神様の完全な自己啓示であったことを私たちは知っています。

主が私を知っておられるように、私が主を知ることになるということです。(Iコリント13章12節) 私たちは、この偉大な愛の喜ばしい知らせを福音と呼んでいます。私たちはその福音を心で信じ、口で告白して救いに至ったのです。罪から自由に至る唯一の方法は、ただ恵みによって、信仰によって、イエス・キリストによってのみであり、これ以外の道は一つとしてありません。この地上においてイエス様のお名前以外に私たち人間には与えられていないのです。そして、イエス様が救いに至る唯一の真理の道であり、いのちそのものです(ヨハネ14章6節)。キリスト教はこの基本的な信仰告白の上に建つ共同体ではないでしょうか。ですから、イエス・キリストの血の代価によって買い取られた教会であり、共同体です。これが私たちの信仰の告白です。

しかし、どこで私たちは信仰の道を踏み外すのでしょうか。救いの手段はイエス・キリストの十字架です。その十字架を別のものに置き換えたり、条件を付加させたりしてしまうとき、福音は変質し、腐敗します。十字架の意味を見失うとき、その共同体は異教と化してしまうのです。私たちはもう一度告白します。救いは、主イエス・キリストの恵みを知るただ一つの方法、すなわ

ち信仰によって（Sola Fide）のみ可能なのです。イエス・キリストは、神様の御姿であられる方なのに、私たちを救うために神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を卑しくし、罪深い地上に介入して来られ（ピリピ2章）ました。私たちを愛してください、その愛を余すところなく示され（ヨハネ13章1節）、人類の罪のためにご自分の命まで差し出されました。私たちは、神の御子の降誕と生涯、十字架と死、復活、昇天に至るその完全な神様の自己啓示の中でのみ神様ご自身を知ることができ、そのお方を通してのみ神様に至る道が示されていることを私たちは聞いて告白します。罪にけがれた私たちのために十字架を背負ってまでご自分を低くして無となられた、その謙遜さ（Kenosis）、へりくだつた人だけが高く揚げられるという真理。そして全ての名に勝る御名はイエス様ただお一人であるという信仰を私たちは告白します。私たちは、この素朴かつ永遠に深いキリスト教の信仰告白の上に立っています。ですから私たちは、イエス・キリストの愛に借りのある者です。ユダヤ人もギリシア人も下僕も自由人も、誰も皆、例外なくイエス・キリストの愛に借りのある人々といえるのではありませんか。キリストの贖いの血によって救われた私たちは、一生を費やしても返すことのできない、その限りない愛に借りのある人々であると私たちは考えます。

張ダビデ牧師は再臨のキリストではありません。張ダビデ牧師は在日大韓イエス教長老会・合同福音教団宣教部が韓国の教団本部を通して聞いていた質疑に対し、次のように答えています。

—以下引用—

主イエス・キリストの恵みを賛美します。先日、在日大韓イエス教長老会・合同福音教団宣教部から韓国・大韓イエス教長老会合同福音教団を通じて私の信仰に関する問い合わせがありましたので、私が韓国の教団に送った信仰告白をお伝えいたします。

私はイエス・キリストの恵みによってイエスご自身を私の唯一の救い主として受け入れ、罪を赦された後、一度たりもイエス・キリストへの信仰を捨てたことがありません。

また、イエス・キリスト以外の福音を伝えたことも無く、ましてや自分自身をキリストと称したことなど一度もありません。

イエス・キリストの他に救いに至る道、自由に至る道がないことをはっきりと告白します。

そして、統一協会との関係は韓国キリスト教総連合会が韓国・合同福音教団に送付した公文書2通（2004年7月6日、2005年9月6日）を参照してください。

—以上引用—

私たちの信仰生活と献身は、ただ私たちを救ってくださったイエス・キリストの愛を一人でも多くの人に伝えたいという私たちの「もがき」です。たとえ私たちがどのように見られているとしても、何とかして一人でも多く救われてほしいという願いの一片に過ぎないことを告白します。

(第一コリント 9 章 22 節) 聖書は神様の救いの歴史を私たちに教えています。救われた者の中には、主イエスに対する感謝があり、賛美と礼拝と宣教があり、主イエスとその福音を人々に伝えたいという熱い思いがあります。そして、究極的に、私たちの人生は、自分はすでに(already)救われましたが、まだ(not yet)到来していない神様の御国に対する永遠の希望を抱いて生きる信仰の歩みであることを告白します。将来必ず地上に来られる主をただ待ちわびつつ、私たちはただ私たちに命じられた全ての国民を弟子としなさいという大宣教命令(マタイ 28 章 19-20 節)に従って生きているのであることを告白します。主が来られるそのときまで、私たちはただ神の御国を思い、神に生きることを許されている一日一日を敬虔に、熱心に生きることこそ、キリスト者の本望であることを告白します。使徒パウロが実存的な信仰生活について次のように語ったとおりです。

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。 (ピリピ 3 章 12 節)

この聖句をもって今日を生きる私たちの個人的かつ実存的な信仰を証したいと思います。そして、この告白を、キリスト者共同体の信仰として掲げていきたいと願っています。

Sola Fide Sola Gratia Sola Scriptura

東京都千代田区神田淡路町2-5 小川ビル3階
株式会社クリスチャントゥディ
代表取締役 高柳泉



日本福音同盟 Japan Evangelical Association

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル内

TEL: 03-3295-1765 FAX: 03-3295-1953 E-mail: office@earnet.org

2004年6月17日

JEA 加盟団体各位

JEA 協力会員各位

主の御名を賛美いたします。

最近、いち報道機関として活動を始めた『クリスチャントゥディ』に関して、さまざまな問い合わせが皆さまからございました。数ヶ月間、調査結果を得ておきましたが、一昨日、韓国の新聞社「韓国基督教公報」を通じて次のような内容の事が明らかになりました。

記

韓国クリスチャントゥディ新聞の常任理事、張在炯 牧師は、統一教会の核心メンバーであることが判明。このことについての記事が韓国のオンライン新聞である News N Joy (<http://www.newsnjoy.co.kr>)に出ており、基督教公報の取材によれば、海外ネットワークとして日本と中国に力を入れているらしい。張在炯 牧師は現在、合同福音牧団の副会長ですが、韓国基督教連合会から異議として調査中である。(クリスチヤン新聞提供)

上記の調査報告を深刻に受けとめ、JEA は今後、『クリスチャントゥディ』の教材を一切受けないことといたしました。その事を関係者の皆様にご報告いたします。

主にありて

理事長 小川国光
総主事 具志堅型



WORLD EVANGELICAL ALLIANCE

2011年12月13日

JEA理事長 安藤 能成様
JEA総主事 品川 謙一様
〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル615

理事長安藤先生、総主事品川先生へ、

日本福音同盟の皆様、ご挨拶申し上げます。私はCRASH Japanと日本の諸教会が災害支援のために尽力してくださっていることを以前から存じておりました。どうか私達があなたがたのために祈りを継続していることをお知りください。

私がこの手紙を書くことになった主な理由はダビデ張在亨博士に関して日本に流言があるからです。博士について私は長年に渡って知っています。WEAと張博士との関係について知恵と理解を提供したいと私は願っています。彼の教会が統一協会とつながっているという流言についてですが、その疑惑は全く事実ではありません。むしろ張博士は優れたキリスト教指導者であり、WEAの北米理事会のメンバーとして、またひとりの友人としてWEAに欠かすことのできない人物です。

ソウルで2014年に開催されるWEAの総会を準備する中で、張博士は韓国キリスト教総連合会(CCK)の世界宣教委員会委員長として重要な役割を果たしています。ですので、総会が成功するためには日本のキリスト教指導者の皆様が、彼について、また彼の働きについてより良く理解していただく必要があります。CCKから張博士が潔白と証明する公文が送付されたと聞きました。故に私はこの件に関して誤解のないようにしていただきたいと望んでいます。

ご理解いただき、解決のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。

深い感謝とともに

ジェフ・タニクリフ牧師/博士
世界福音同盟CEO・総主事



韓国キリスト教総連合会
ソウル特別市鍾路区蓮池洞キリスト教連合会館
TEL:(02)741-2782~5 FAX:(02)741-2786
Homepage:<http://www.cck.or.kr>
E-mail:cck.or.kr

韓キ総第 2011-015 号

2011.01.14

受信：大韓キリスト教長老会総会（合同福音）

題名：チャン・ジェヒヨン牧師に対する研究結果回答

私たちの主イエス・キリストの名前によりご機嫌伺いいたします。

1. 貴教団が「総本第 11-07/2011.01.13」で提出した「チャン・ジェヒヨン牧師に対する研究結果回答の件」の関連です。
2. 本連合会異端似非対策委員会の調査研究結果に対する第 21-11 次役員会（2010.12.17）で報告を受けた内容を下記の通り回答します。

○ 再調査研究結果

チャン・ジェヒヨン牧師の再臨主疑惑説は再調査の研究結果、疑惑に過ぎないだけで、証拠がなく事実でなく、異端性が全くないものと判断される。以上

社団法人 韓国キリスト教総連合会
代表会長 イ・グアンソン牧師
総務 キム・ウンテ牧師



韓国キリスト教総連合会
110-740 ソウル特別市鍾路区蓮池洞 136-56 キリスト教連合会館 1501 号
TEL:(02)741-2782~5 FAX:(02)741-2786
Homepage:<http://www.cck.or.kr> E-mail:cck.or.kr

韓キ総第 2011-05 号

2011.01.18

受信：大韓キリスト教長老会総会（合同福音）総会長

参照：書記、総務

題名：韓キ総異端似非対策委員会チャン・ジェヒヨン牧師調査研究結果回答の件

私たちの主イエス・キリストの名前によりご機嫌伺いいたします。

1. 韓国キリスト教総連合会異対委 21-5 次全体会議（2010.9.3（金）韓キ総会議室）で決議された貴教団所属チャン・ジェヒヨン牧師調査研究結果を回答いたしますのでご参考願います。
2. 貴教団所属チャン・ジェヒヨン牧師の統一教会関連説と再臨主疑惑説の調査研究は、
 - 1) 2004 年（代表会長キル・ジャヨン牧師、異対委員長オ・ソンファン牧師、相談所長チエ・サムギヨン牧師）1 次調査結果、嫌疑がないことを決議しました。
 - 2) 2005 年（代表会長チエ・ソンギュ牧師、異対委員長ハン・ミヨングク牧師、相談所長チエ・サムギヨン牧師）2 次調査結果、嫌疑がないことを決議しました。
 - 3) 2008 年（代表会長オム・シニヨン牧師、異対委員長イ・ヨンホ牧師、相談所長チエ・サムギヨン牧師）異対委でチャン・ジェヒヨン牧師関連研究調査することに議決処理して、2009 年（代表会長オム・シニヨン牧師、異対委員長コ・チャンゴン牧師）異対委小委員会（委員長ハン・ミヨングク牧師）で 3 次調査結果、嫌疑がないことを決議して報告しましたが、異対委全体会議で再調査することに決議しました。
 - 4) 2010 年（代表会長イ・グアンソン牧師、異対委員長コ・チャンゴン牧師、相談所長キム・ハンアン牧師）現会期小委員会（委員長チョン・ヘソン牧師）で調査研究結果、「チャン・ジェヒヨン牧師の再臨主疑惑説は疑惑に過ぎないだけで、証拠がなく事実でなく、異端性が全くないものと判断される」という要旨の研究結論を報告して、異対委全体会議で決議しました。
3. 韓キ総第 21-11 次役員会（2010.12.17）は上の異対委調査結果を満場一致で可決しました。（以上）

韓国キリスト教総連合会 異端似非対策委員会

委員長 コ・チャンゴン牧師

書記 チョン・チョロク牧師



CHRISTIAN TODAY 会社案内

[サポーター・スポンサー募集](#) / [広告案内](#) / [お問い合わせ・アクセス](#)



[トップページ](#) > 会社案内 > **会社概要**

基本情報

- › [会社概要](#)
- › [代表挨拶](#)
- › [役員・論説編集](#)
- › [基本信条](#)
- › [報道理念](#)
- › [信仰告白](#)
- › [利用規約](#)
- › [English](#)

会社概要

社名	株式会社 クリスチャントゥディ
英社名	Christian Today Co., Ltd.
所在地	〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-13-6 ミツボシ第3ビル4階 (地図)
電話	03-5829-4627
FAX	03-5829-4628

代表取締役会長 峰野龍弘

代表取締役社長 矢田喬大

創業 2002年5月20日

事業内容

- ・ニュースサイトの運営
- ・新聞の発行
- ・出版
- ・その他

主要取引先

- ・キリスト教諸教団
- ・キリスト教諸教会
- ・キリスト教関連企業
- ・国公私立大学
- ・各教育機関

取引銀行 三菱東京UFJ銀行

運営サイト クリスチャントゥディ



[トップページ](#) > 会社案内 > **代表挨拶**

基本情報

- › [会社概要](#)
- › [代表挨拶](#)
- › [役員・論説編集](#)
- › [基本信条](#)
- › [報道理念](#)
- › [信仰告白](#)
- › [利用規約](#)
- › [English](#)

代表挨拶

クリスチャントゥディは2002年の創業以来、キリスト教報道機関として、一般クリスチヤン大衆に向けての公正かつ迅速な情報提供を信条とし、活発な報道活動を続けてまいりました。

創業以来今日に至るまで、さまざまな困難に直面し、試練の道を歩む中にはあっても、ただひたすら真実を知りたもう主を仰ぎ見て、屈せずに教会と社会に仕え、有益かつ真実な情報を、間断なく迅速に発信し続けることに努力してまいりました。

そして2011年には、経営陣を一新し、新生クリスチャントゥディとして新たなスタートを切りました。14年、宮村武夫を編集長に迎えて編集体制を強固にし、コラムニスト陣の充実など、飛躍的な発展を遂げました。読者数も年々増加を続け、16年にはフェイスブックの利用登録者数が10万人を超える大きな宣教のうねりとなっています。

クリスチャントゥディはこれからも、日本社会における聖書的かつ福音主義的言論の発信源として、世界と日本の未来について皆様と共に真剣に考え、イエス・キリストと社会に謙虚に仕える報道に取り組んでまいります。

全ては、日本のリバイバルのために。どうか主にあって、今後とも格別のご指導、ご鞭撻、そしてご加護をよろしくお願い致します。

2018年4月
株式会社クリスチャントゥディ

代表取締役会長
峯野龍弘

代表取締役社長
矢田喬大

CHRISTIAN TODAY

会社案内

サポーター・スポンサー募集 / 広告案内 / お問い合わせ・アクセス



[トップページ](#) > 会社案内 > 役員・論説編集

基本情報

役員

- › 会社概要
- › 代表挨拶
- › 役員・論説編集
- › 基本信条
- › 報道理念
- › 信仰告白
- › 利用規約
- › English

代表取締役会長 峯野 龍弘 (ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会主管牧師)

代表取締役社長 矢田 喬大

取締役 片桐 勝正 (ケイプリンティング株式会社代表取締役)
萬代 栄嗣 (東京福音センター牧師)

監査役 佐々木満男

論説委員

堀内 順 (グレース宣教会長老牧師、特別顧問)

折田 政博 (沖縄天久神の教会牧師、顧問)

藤崎 秀雄 (グレース宣教会代表牧師)

編集部

編集長 宮村 武夫 (宇都宮キリスト集会牧師、論説主幹兼務)

副編集長 内田 周作

Copyright © 2002-2018 Christian Today Co., Ltd. All Rights Reserved.

[トップページ](#) > 会社案内 > 基本信条

基本情報

- › 会社概要
- › 代表挨拶
- › 役員・論説編集
- › 基本信条
- › 報道理念
- › 信仰告白
- › 利用規約
- › English

基本信条

株式会社クリスチャントゥディは、以下に掲げる基本信条の下、国内のみならず世界各地において当社が果たすべき使命と役割を認識し、将来にわたり発展を続けていくことを目的とします。

株式会社クリスチャントゥディは、キリスト教報道機関として、一般クリスチヤン大衆に向けての公正かつ迅速な情報提供を信条とします。出版物およびウェブサイトを主体としたサービスやコンテンツを持って日本市場に参入し、新時代、新分野における業務の確立と拡大を目的とします。

株式会社クリスチャントゥディは、新約聖書マタイによる福音書5章37節「あなたがたは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』とだけ言いなさい」という声明に基づき、イエス・キリストの御言葉こそ真実であると宣べ伝えることを全業務の本拠とします。

株式会社クリスチャントゥディは、「人権尊重」「開拓精神」「調和」を基本精神とし、一般社会の一員であることを深く認識しつつ、公正かつ明瞭な事業に徹すると共に、基本と正道に則り、優れた情報先端技術、サービス提供を通じて社会育成に貢献することを目指します。

Copyright © 2002-2018 Christian Today Co., Ltd. All Rights Reserved.



[トップページ](#) > 会社案内 > 報道理念

基本情報

- › 会社概要
- › 代表挨拶
- › 役員・論説編集
- › 基本信条
- › 報道理念
- › 信仰告白
- › 利用規約
- › English

報道理念

I 福音による個人変革と社会変革を標榜

- わたしは彼の上にわたしの靈を授け、彼は國々に公義をもたらす。（イザヤ42章1節）
- 彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、國は國に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。（ミカ4章3節）

クリスチャントゥディは、イエス・キリストの御言葉の真理に基づき、地に神の公義と愛をもたらす、キリスト者の働きを報道をもって支援する従僕としてのメディアです。非キリスト教国である日本の社会にあって、世の激しい誘惑と誤った価値観に接する日本のキリスト者が、福音的個人変革を遂げ、いよいよ「地の塩」、「世の光」としてその尊い使命を貫徹するために有益な国内外のキリスト教界の働きを紹介し、かつタイムリーな諸情報を報道します。

クリスチャントゥディは、複雑な諸問題を抱える現代社会にあって、国内外のキリスト教界が発する福音的言論と働きを的確に報道することにより、各個教会とキリスト者がいよいよ今日の社会の中で果たさなければならないその重要な役割を強く認識し、福音的社会変革に積極的に寄与し得るよう仕えて行く所存です。また国家に対しキリストにある正しい政策のあり方を示唆し、人命を奪う戦争という手段に安易に加担することなく、聖霊の働きによる国家間の和解と一致、真の世界平和の実現を提唱します。

II オンライン報道の使命

■ 良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしよう。（ローマ10章15節）

インターネット社会に突入し、あらゆる情報がパソコンを通して閲覧可能となった現代社会は、世俗の価値觀に基づいたあらゆる情報で満ちています。のみならず何よりも恐るべきことに、世俗宗教や異端がインターネットを巧みに駆使し、その勢力拡大のために巧妙な闇の権勢による情報を発信して日々に一般大衆の巻き込みを図っています。この災禍の中から同胞を救い、キリストの眞の福音の下に靈魂を懐かせるためには、今こそお互いキリスト者が並みでない危機感をもって切に祈り、今こそ彼らに優る力量をもってインターネットの世界に切り込んで行かなければなりません。

そこでクリスチャントゥディは、インターネット空間において主イエス・キリストの福音を伝え、福音的価値觀に基づいて精力的に神の御心に適った真理と事実を時宜を得て報道し続けることによって、闇の勢力を打破して行くことを使命とし、かくしてキリストと教会に真心こめて仕えて行くことを決意するものです。

インターネット空間では、巨大掲示板やソーシャルネットワークなどを通して情報が瞬時に広がります。福音の情報が広がれば、多くの人々が聖書の御言葉に関心をもち、教会に足を運ぶようになります。その可能性は無限大です。

かくしてクリスチャントゥディのオンライン報道の目的は、インターネット空間上で主のことばを聞くことのききんに苦しむ一億三千万の同胞を救い出すことがあります。

III 実践的四大方針

■ 福音主義の堅持

福音を変質させ破壊する如何なる勢力とも妥協せず、純粋な福音主義信仰を堅持し、如何なる孤独も甘受し、福音主義を貫きます。

■ 宣教第一主義

福音は宣べ伝えられてこそ命を生むことを覚え、宣教第一を主張します。福音を真摯に伝える教会と諸団体、個人の最新情報を速やかに取材、報道し、日本宣教、世界宣教に貢献します。

■ 教会一致とグローバルな視点の提示

唯一の神と主イエス・キリスト、聖霊に仕える教会の多様性を重んじ、かつキリストにある教会とキリスト者の相互の和解と一致に仕えます。かつ常に国際的視野の下で海外のタイムリーな福音的情報を収集し、適宜報道することにより、教会とキリスト者のグローバルな視点を培うことになります。

■ 福音文化の普及と社会貢献

目まぐるしく変化する世俗社会に常に福音文化を育み、キリスト者を世俗文化の影響から守ると共に、情報化社会の中でキリストの美しい知らせを示し、福音文化が日本の代表的な文化となることを目指し、常に報道に当たります。また理論止まりの信仰に警鐘を鳴らし、社会奉仕を通じた愛の実践を推奨し、キリストの愛に満たされた教会形成や、貧しい人たちや阻害されている人たちを守り、日々福音の証しに励む教会やキリスト者のために有益な国内外の情報を報道します。

Copyright © 2002-2018 Christian Today Co., Ltd. All Rights Reserved.



[トップページ](#) > 会社案内 > 信仰告白

基本情報

- › 会社概要
- › 代表挨拶
- › 役員・論説編集
- › 基本信条
- › 報道理念
- › 信仰告白
- › 利用規約
- › English

信仰告白

1. 私たちは、新旧約聖書が66巻から成り、靈感された神の言葉であり、原典において何ら誤りがなく、信仰と生活の唯一の規範であり、正典であることを信じる。
2. 私たちは、神が唯一全能であり、父と子と聖霊の三位格をもつ三位一体であり、永遠に存在される方であることを信じる。
3. 私たちは、アダムが神のかたちに創造され、サタンの誘惑により罪の中に堕落し、その罪により全人類に罪が入ったことを信じる。
4. 私たちは、主イエス・キリストが眞の神にして聖霊によって処女マリヤからお生まれになった眞の人であること、罪のないこと、奇跡の御業を行われたこと、私たちの罪のために身代わりとなって十字架上で死なれ、肉体をもって復活されたこと、天にのぼり大祭司として御父の右に座しておられること、彼ご自身が栄光のうちに再び来られることを信じる。
5. 私たちは、救いとは、罪の許し、キリストの義の転嫁、行為によらずただ信仰により得られる永遠のいのちであることを信じる。
6. 私たちは、信じた者と信じなかった者が復活し、信じた者は永遠のいのちと喜びに至り、信じなかった者は永遠の刑罰に至ることを信じる。
7. 私たちは、教会すなわちキリストの体が、救われて生まれ変わった者、聖霊によって新生した者によって構成され、これらの人々のためにイエス・キリストが天において私たちをとりなし、再び地上に来されることを信じる。
8. 私たちは、イエス・キリストの再臨は切迫したものであり、イエス・キリストご自身が目に見えるかたちで来られることを信じる。
9. 私たちは、罪の中に堕落した人間が聖霊による新生を通してのみ救われる信じる。
10. 私たちは、イエス・キリストが全世界に出て行って全ての国民に福音を宣べ伝え、信じた者たちにバプテスマを施すように教会にお命じになったことを信じる。

■ [2008年掲載の信仰告白](#)